

第八回全国高校生金融経済クイズ選手権  
エコノミクス甲子園 報告書

# エコノミクス 甲子園



特定非営利活動法人  
**金融知力普及協会**  
Association for the Promotion of Financial Literacy

主催：認定NPO法人金融知力普及協会  
エコノミクス甲子園実行委員会



ご挨拶 ————— **2**

エコノミクス甲子園はこんな大会です! — **3**

概要 ————— **5**

各地方大会+参加高校一覧 ————— **6**

全国大会 ————— **20**

全国大会出場者感想 ————— **23**

NY研修旅行の様子と感想 ————— **33**

参加者アンケート ————— **37**

事前学習教材紹介 ————— **39**

メディア掲載実績 ————— **40**

Special Thanks ————— **41**

協賛者紹介 ————— **42**



## エコノミクス甲子園 第八回大会を終えて

エコノミクス甲子園 実行委員長  
金融知力普及協会 理事長  
金子 昌資



全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園 第八回大会も無事に終了いたしました。参加した全国の高校生の皆様、各地方大会を主催いただいた金融機関の皆様、様々なご支援を頂いた協賛・協力の皆様、この大会にかかわったすべての皆様に御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

2006年に25校33チームの参加を頂いたこの大会も第八回を迎え、全国で378校1023チームが参加する大掛かりなものに育ちました。現在の教育事情の中ではなかなか学ぶことの無い、金融経済の知識を、この8年で、8000名以上の高校生たちが学んだこととなります。彼らが、何かしらの物を得、その後の人生に活かしてくれていると信じております。

我々が伝えたい知識は、お金儲けのためのものではありません。自分の夢を持ち、人生を豊かにするための、お金という道具を使いこなすための力です。多くの方が、この金融知力を身に付けるための、初めての機会としてこのエコノミクス甲子園は世の中に価値を生み出しております。

第九回大会ではより多くの金融機関の皆様のお力を得、さらにたくさんの方の生徒に参加していただけるよう、スタッフ一同努力してまいります。ぜひ今後とも皆様のご指導とご協力をよろしくお願いいたします。



# エコノミクス甲子園はこんな大会です!

# 1

## ポスターや学校の先生に教えられて 出場を決意!

- ・ネットや携帯電話から応募
- ・参加は無料!



# 2

## 金融知力普及協会から送られてくる 事前学習教材で経済を勉強

- ・今日から役に立つ経済の読み方と投資の基礎 …… 寄贈:シティバンク銀行
- ・ビギナーズのためのファイナンス入門 …… 寄贈:金融広報中央委員会
- ・これであなたもひとり立ち …… 寄贈:金融広報中央委員会
- ・ライフステージで学ぶ銀行 …… 寄贈:全国銀行協会
- ・ローン&クレジットのABC …… 寄贈:全国銀行協会
- ・そんぼのホントフレッシュアップガイド …… 寄贈:日本損害保険協会
- ・株式会社制度と証券市場のしくみ …… 寄贈:日本証券業協会
- ・ほけんのキホン …… 寄贈:生命保険文化センター
- ・初めてのJリート …… 寄贈:不動産証券化協会
- ・もっと知りたい税のこと …… 寄贈:財務省
- ・基礎から学べる金融ガイド …… 寄贈:金融庁
- ・みらいの保険を描いてみよう! …… 寄贈:日本少額短期保険協会



# 3

## 地方大会に参加

- ・地方大会は各地の地方銀行など金融機関が地域貢献として開催
- ・生活していく上で是非知っておいて欲しい経済の基礎知識や地元経済などについての問題
- ・筆記問題(50問)と早押しクイズで競う
- ・地方大会で優勝したチームは全国大会に出場





エコノミクス甲子園はこんな大会です!

日本全国の高校生達に  
金融経済を学ぶ機会を提供!  
将来の日本をリードする人材の育成!



5

### 優勝チームはニューヨーク研修旅行にご招待

・現地で活躍する様々な方々へのインタビューや  
経済に関する様々な場所を見学



4

### 全国大会に参加

・経済用語をわかりやすく説明するスピーチクイズや  
他チームと協力したプレゼンクイズなど、  
より深い知識や理解が求められる形式の様々なクイズに挑む



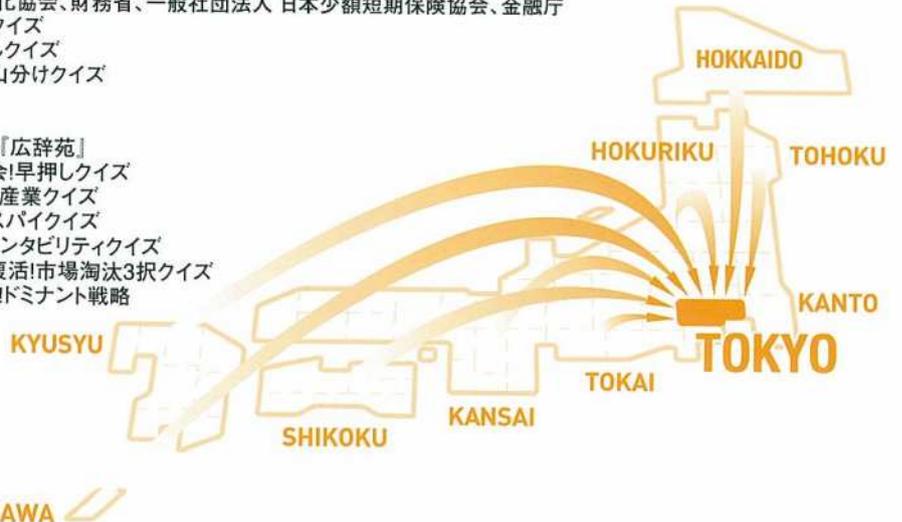


# 概要

# Summary

名 趣	称 旨	第八回全国高校生金融経済クイズ選手権 『エコノミクス甲子園』 社会に羽ばたく前に高校生に、世の中がどのような金融経済の仕組みで動いているか理解して読み解き、「自分のライフデザイン」や「自分とお金の関わり方」をクイズを通して考えてもらうきっかけとするために開催する。	
期	日	・全国大会 2014/2/2(日)10時00分～16時30分 ・地方大会	金融知力普及協会
		2013/11/9(土)開催 2013/11/10(日)開催 2013/11/17(日)開催	・愛媛大会 伊予銀行 ・広島大会 もみじ銀行 ・東京大会 りそな銀行 ・山口大会 山口銀行 ・埼玉大会 埼玉りそな銀行 ・大阪大会 近畿大阪銀行・りそな銀行 ・鳥取大会 山陰合同銀行 ・北海道大会 北海道銀行 ・青森大会 みちのく銀行 ・新潟大会 第四銀行 ・福井大会 北陸銀行 ・山梨大会 山梨中央銀行 ・長野大会 八十二銀行 ・岐阜大会 十六銀行 ・三重大会 百五銀行 ・島根大会 山陰合同銀行 ・香川大会 百十四銀行 ・福岡大会 西日本シティ銀行 ・長崎大会 十八銀行 ・秋田大会 秋田銀行 ・福島大会 東邦銀行 ・栃木大会 足利銀行 ・宮城大会 七十七銀行 ・山形大会 山形銀行 ・茨城大会 筑波銀行 ・群馬大会 群馬銀行 ・千葉大会 千葉興業銀行・千葉銀行 ・神奈川大会 横浜銀行 ・富山大会 北陸銀行 ・石川大会 北國銀行 ・静岡大会 静岡銀行 ・愛知大会 愛知銀行 ・奈良大会 南都銀行 ・岡山大会 中国銀行 ・徳島大会 阿波銀行 ・高知大会 四国銀行 ・沖縄大会 沖縄銀行 ・インターネット大会 住信SBIネット銀行 ・宮崎大会 宮崎銀行 ・鹿児島大会 鹿児島銀行
		2013/12/14(土)開催	
		2013/12/15(日)開催	
		2013/12/23(月)開催	

主 催	後 援	協 力	認定NPO法人 金融知力普及協会 各地の金融機関有志 内閣府、文部科学省、金融庁 SBIホールディングス株式会社 シティバンク銀行株式会社、ビットクルー株式会社、株式会社一休、ラッセル・インベストメント・グループ 日本ファイナンシャルアカデミー株式会社、一般社団法人 全国銀行協会、日本証券業協会、金融広報中央委員会、 一般社団法人 日本損害保険協会、公益財団法人 生命保険文化センター、株式会社アイ・イーシー、 一般社団法人 不動産証券化協会、財務省、一般社団法人 日本少額短期保険協会、金融庁
地方大会内容	第一ラウンド	筆記クイズ	
	第二ラウンド	早押しクイズ	
	決勝ラウンド	賞金山分けクイズ	
全国大会内容	エコノミカ大会	筆記クイズ	
	プレゼンクイズ-エコノミクス『広辞苑』		
	第一ラウンド	大発会!早押しクイズ	
	第二ラウンド	ニッチ産業クイズ	
	第三ラウンド	産業スパイククイズ	
	第四ラウンド	アカウントビリティクイズ	
	敗者復活ラウンド	敗者復活!市場淘汰3択クイズ	
	決勝ラウンド	クイズ!ドミナント戦略	



## 愛媛大会

11月9日(土)開催

主催 伊予銀行

参加校一覧 愛媛県立松山西中等教育学校、愛媛県立今治東中等教育学校、愛媛県立新居浜西高等学校、愛媛県立宇和島東高等学校、愛媛県立松山東高等学校、新田高等学校、愛媛県立今治西高等学校

参加チーム数 20チーム(7校)

運営スタッフ感想 今年も株式会社フジ様のご協力を得て、ショッピングモールのエミフルMASAKIで開催しました。当日はやのひろみさんの司会のもと、大勢の方にご覧いただき、笑いあふれる大会となりました。高校生が難問に正解したときに会場がどよめくなど、高校生の勉強ぶりに観客の皆さまも大変感心されていました。今大会では大接戦の末、昨年、一昨年の優勝チーム名を受け継いだ「マネタリズム」が全国大会行きのチケットを手に入れました。優勝チームの涙に会場も感動し、記憶にも記録にも残る大会となりました。今回の開催にあたりご協力を賜りました教育関係者をはじめとする関係者の皆さま、優勝目指し真剣に大会に挑戦してくれた高校生の皆さん、大会を盛り上げて下さったご観覧の皆さまに厚く御礼を申し上げます。



優勝チーム  
愛媛県立松山西中等教育学校  
マネタリズム



## 広島大会

11月10日(日)開催

主催 もみじ銀行

参加校一覧 広島県立呉三津田高等学校、福山市立福山高等学校、広島市立舟入高等学校、広島大学附属福山高等学校、安田女子高等学校、広島県立広島高等学校、広島県立広島商業高等学校、広島市立広島商業高等学校、広島学院高等学校、広島県立尾道商業高等学校、広島県立呉商業高等学校、広島城北高等学校、修道高等学校、広島県立広島国泰寺高等学校、清水ヶ丘学園清水ヶ丘高等学校、広島県立海田高等学校

参加チーム数 31チーム(16校)

運営スタッフ感想 今回で2回目の大会となる広島大会ですが、昨年よりチーム数も増え盛大な大会となりました。予選第2ラウンドの早押しクイズでは、高校生、観客、そしてスタッフまでもがクイズや応援に熱くなり会場は熱気に溢れていました。大会が終わり高校生たちからは「こんなに楽しい大会とは思わなかった!」「来年も絶対に参加します。」と沢山の嬉しい声を聞くことができました。



優勝チーム  
広島学院高等学校  
広島学院高1



## 東京大会

11月17日(日)開催

主催 リソナ銀行

参加校一覧 早稲田高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校、本郷高等学校、八王子学園八王子高等学校、東京都立立川高等学校、開成高等学校

参加チーム数 17チーム(6校)

運営スタッフ感想 今年の東京大会は、15チームが参加し、予選から大接戦を繰り広げました。優勝を勝ち取ったのは、都立立川高校の2年生チーム「トナミ運送赤阪」。昨年の決勝ラウンドで敗退した2人が新たにペアを組み、昨年優勝した先輩に続けと今年の大会に臨んだ結果、全国大会への切符を手に入れました。立川高校は2連覇です。第一ラウンドでの力を合わせて真剣に問題を解く表情、第二ラウンドでの正解したときのほじける笑顔に、運営スタッフもエネルギーをもらい、一緒になって楽しみました。今後も、大会を通じてたくさんの高校生に楽しく金融知識の大切さを学んでもらえるよう取組んでいきたいと思ひます。



優勝チーム  
立川高等学校  
トナミ運送赤阪



## 山口大会

11月17日(日)開催

主催 **山口銀行**

**参加校一覧** 山口県立宇部高等学校、山口県立下関中等教育学校、山口県立岩国高等学校坂上分校、誠英高等学校、サビエル高等学校、山口県立防府商業高等学校、檀蔭学園聖光高等学校、山口県立下関西高等学校、下関市立下関商業高等学校、山口県立山口高等学校、山口県防府商工高等学校

**参加チーム数** 21チーム(11校)

**運営スタッフ感想** 21チームの高校生が熱い戦いを繰り広げた山口大会。特に決勝ラウンドは10問中5問目まで全チームが誤答なく同点で並ぶというハイレベルな戦いになりました。そんな接戦を制したのは、昨年、全国大会の第3ラウンドで惜しくも敗退し、悔しい思いをした宇部高校チーム。見事2連覇を果たして全国大会連続出場を決めました。スタッフから、「若いパワーがみなぎる大会でとても楽しかった」「活気ある大会になって良かった」「高校生の楽しそうな姿が良い思い出になりました!」「早押しのお返答権を2番目にも与えたいくなるほど、みんな必死に押していたのが印象的」という感想が出るなど、我々の方が逆に元気をもらった大会でした。高校生のみんな、どうもありがとう!



優勝チーム

山口県立宇部高等学校  
崖つぶちR



## 埼玉大会

11月24日(日)開催

主催 **埼玉りそな銀行**

**参加校一覧** 川越東高等学校、埼玉県立浦和第一女子高等学校、埼玉県立川越高等学校、栄東高等学校、早稲田大学本庄高等学院、埼玉県立所沢北高等学校、埼玉県立浦和高等学校、浦和明の星女子高等学校、埼玉県立不動岡高等学校、埼玉県立越谷北高等学校、埼玉県立春日部高等学校

**参加チーム数** 44チーム(11校)

**運営スタッフ感想** 11校・44チームとこれまでで最多の出場チーム数となり、大変盛り上がりました。決勝ラウンドの賞金山分けクイズでは、他チームが慎重な姿勢を見せる中、果敢に解答にチャレンジした県立春日部高校のチーム「2-1」が最多賞金を獲得し、見事優勝を果たしました。今後も、高校生が楽しみながら金融経済について学べる機会として、埼玉大会を開催していきたいと思ひます。



優勝チーム

埼玉県立春日部高等学校  
2-1



## 大阪大会

12月1日(日)開催

主催 **近畿大阪銀行** **りそな銀行**

**参加校一覧** 清風南海学園高等学校、開明高等学校、大阪星光学院高等学校、大阪府立北野高等学校、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎、大阪府立大手前高等学校

**参加チーム数** 20チーム(6校)

**運営スタッフ感想** 今回から大阪府の高校のみが参加対象となった大阪大会。期末試験中にもかかわらず、大阪府下の高校生18チームが参加し、熱い戦いを繰り広げてくれました。近畿大阪銀行が会場となるのは初めてで、準備は大変でしたが、参加者アンケートで「絶対に来年リベンジします!!」「経済学をもっと学んで金融の仕事につきたい」「経済についてさらに学びたくなった」などのコメントをいただけたことが何より嬉しく思います。当日、会場を盛り上げてくださった参加者、関係者の皆さま、本当にありがとうございました。



優勝チーム

大阪星光学院高等学校  
ぶっつけ兄弟ズ



## 鳥取大会

12月7日(土)開催

主催 山陰合同銀行

参加校一覧 鳥取県立鳥取西高等学校、鳥取県立鳥取商業高等学校、米子松蔭高等学校

参加チーム数 13チーム(3校)

運営スタッフ感想 初の鳥取大会開催でしたが、県内全域から12チーム、24名の参加があり、盛大に開催することができました。中には「お面」やてづくりの「倍返し」プレートを持参し参戦してくれたチームもあり、大いに会場を沸かせてくれました。決勝ラウンドでは6チームとも善戦、最終10問目まで勝負がつかない息をのむ展開となりましたが、予選4位チームがその均衡を破り、見事全国大会への出場権を獲得しました。



優勝チーム

鳥取県立鳥取西高等学校  
それも寺谷功大?



## 北海道大会

12月8日(日)開催

主催 北海道銀行

参加校一覧 北海道旭川東高等学校、北海道札幌南高等学校、北嶺高等学校、北海道札幌東高等学校、北海道千歳高等学校、北海道札幌啓北商業高等学校、北海道札幌旭丘高等学校、札幌静修高等学校

参加チーム数 32チーム(11校)

運営スタッフ感想 今回は北海道大会として最多の11校32チームに参加していただきました!各チームが優勝目指して接戦を繰り広げ、札幌旭丘高校の「ばいなぼー」チームが全国大会出場への切符を手にしました。  
参加者アンケートでは「来年も参加したい」とのコメントが多く、スタッフ一同、嬉しさと充実感に浸っています。  
参加者の皆さん、関係者の皆さん、運営へのご協力ありがとうございました。



優勝チーム

北海道札幌旭丘高等学校  
ばいなぼー



## 青森大会

12月8日(日)開催

主催 みちのく銀行

参加校一覧 青森県立弘前高等学校、青森県立青森南高等学校、国立八戸工業高等専門学校、青森県立青森高等学校、青森県立木造高等学校、東奥学園高等学校、青森県立八戸商業高等学校、青森県立弘前実業高等学校、青森県立弘前中央高等学校、青森県立青森商業高等学校、青森山田高等学校

参加チーム数 24チーム(11校)

運営スタッフ感想 職員だけの手作りでの青森大会「初開催」というプレッシャーの中、大会直前の最終チェックでは機材の不具合の発生や、前日リハーサルでは会場設営のほか、前例のないマイク使用数9本などの環境確認、映像・音響と司会・リポーター・出題者とのタイミング確認など多忙を極めました。大会当日は「失敗を恐れず、とにかく高校生が楽しむいと時を過ごせるよう」おもてなし」するを合言葉にスタッフ一同が結束しました。当日はオープン参加も含めて11校24チーム(47名)に参加していただきました。予選では決勝に進出できないオープン参加チーム(1名)がなんと実質第1位であったほか、決勝進出第6位のチームが同点(2校)となり、近似値問題で勝負を決することになりました。決勝の最終問題では、唯一1校が正解して300万円を総取りし、逆転で優勝を決するなど非常にドラマチックな大会でした。そして、何より高校生達の楽しそうな表情が我々スタッフの疲れを吹き飛ばしてくれました。事前の視察や当日までご協力いただいた多くの関係者の方々にこの場をお借りして、改めて感謝申し上げます。



優勝チーム

青森県立青森高等学校  
アップルシールド



## 新潟大会

12月8日(日)開催

主催  第四銀行

参加校一覧 新潟県立国際情報高等学校、新潟県立新潟高等学校、新潟明訓高等学校、新潟県立新潟南高等学校、新潟県立新潟中央高等学校、日本文理高等学校

参加チーム数 11チーム(6校)

運営スタッフ感想 初めての開催となった新潟大会では、6校11チームにご参加いただきました。  
決勝ラウンドでは、接戦が繰り広げられ白熱した展開の結果、予選を1位通過した国際情報高校「チーム・マンゴー」が見事優勝となりました。  
参加いただいた高校生皆さんから「とても楽しかった」「来年も出場して、次は優勝したい」という感想を多くいただき、金融経済に興味をもっていただく良い機会となったことをうれしく思います。



優勝チーム  
新潟県立国際情報高等学校  
チーム・マンゴー



## 福井大会

12月8日(日)開催

主催  北陸銀行

参加校一覧 福井県立藤島高等学校、福井県立高志高等学校、福井県立大野高等学校、福井県立丸岡高等学校、福井県立金津高等学校、福井県立丹生高等学校、福井県立武生高等学校、福井県立鯖江高等学校

参加チーム数 38チーム(8校)

運営スタッフ感想 過去最多の38チームの参加となりました。年々エコ甲が高校生に徐々に認知されてきているようです。また今回も数名の先生に見学いただき、本取り組みに対しての評価をいただけたものと大変ありがたく思いました。参加された1年生からは、来年もぜひとも参加したいとの声や、2年生からは夏に開催されれば、来年も参加できるのとの声もあり、スタッフ一同にも励みになりました。今後も楽しい大会としていきたいと思ひます。



優勝チーム  
福井県立藤島高等学校  
ふかだこばやし



## 山梨大会

12月8日(日)開催

主催  山梨中央銀行

参加校一覧 駿台甲府高等学校、山梨県立甲府南高等学校、山梨県立甲府西高等学校、山梨県立葦崎高等学校、甲斐清和高等学校、北杜市立甲陵高等学校、山梨県立日川高等学校、山梨県立甲府第一高等学校、山梨県立富士北稜高等学校、山梨学院大学附属高等学校

参加チーム数 27チーム(10校)

運営スタッフ感想 山梨大会は今年で3回目の開催となりましたが、昨年同様多くの高校生に参加していただき、参加者から「とても楽しかった」「ぜひ来年も参加したい」「金融・経済に興味わいた」という感想が多数寄せられました。  
“エコ甲”をきっかけとして、多くの高校生に金融・経済に興味をもってもらえるよう、来年以降も大会を盛り上げていきたいと思ひます。



優勝チーム  
山梨県立甲府南高等学校  
祭りの末路其の式



## 長野大会

12月8日(日)開催

主催 八十二銀行

参加校一覧 長野県松本深志高等学校、長野県松本工業高等学校、長野県上田高等学校、長野県上田千曲高等学校、長野県諏訪清陵高等学校、長野県野沢北高等学校、長野県長野高等学校、松本蟻ヶ崎高等学校

参加チーム数 15チーム(8校)

運営スタッフ感想 長野大会は今回が初の開催となりました。前日までの準備は大変でしたが、大会は盛況!参加した高校生も楽しんでくれたようです。決勝戦、前半は拮抗し、最後逆転で優勝チームが決まるという白熱した戦いでした。準優勝チームは悔しい思いを胸に、来年のリベンジを誓っていました。来年は参加チームを増やし、さらに盛り上がる大会になるよう、我々スタッフも努力して参ります。ご協力頂きました皆様、ありがとうございました。



優勝チーム  
長野県長野高等学校  
天文・地球科学班



## 岐阜大会

12月8日(日)開催

主催 十六銀行

参加校一覧 岐阜県立岐山高等学校、岐阜東高等学校、岐阜県立岐阜高等学校、岐阜県立岐阜北高等学校、岐阜県立関高等学校、岐阜県立大垣商業高等学校、多治見西高等学校

参加チーム数 14チーム(7校)

運営スタッフ感想 本年は筆記テストで差がつかず、最後まで接戦をくり広げた。決勝ラウンドの「賞金山分けクイズ」の5問目に唯一正解した「倫理いず(優勝チーム)」がこのアドバンテージで接戦をものにした。岐阜東高校が岐阜高校の三連覇を阻止した。



優勝チーム  
岐阜東高等学校  
倫理いず



## 三重大会

12月8日(日)開催

主催 百五銀行  
FRONTIER BANKING

参加校一覧 日生学園第二高等学校、国立鈴鹿工業高等専門学校、三重県立神戸高等学校、三重県立四日市商業高等学校、三重県立川越高等学校、三重県立松阪高等学校、三重県立津商業高等学校、三重県立宇治山田商業高等学校、三重県立津高等学校、三重高等学校

参加チーム数 19チーム(10校)

運営スタッフ感想 三重大会は3回目の開催となります。前回に引き続き、参加者、先生方、後援いただいた教育委員会様の協力により楽しい大会となりました。関係いただいた全ての皆様に感謝です。



優勝チーム  
三重県立川越高等学校  
レンテンマルク



## 島根大会

12月8日(日)開催

主催  山陰合同銀行

参加校一覧 石見智翠館高等学校、島根県立浜田高等学校、島根県立松江北高等学校、島根県立隠岐高等学校

参加チーム数 11チーム(4校)

運営スタッフ感想 今年は2回目の開催となりましたが、初出場の隠岐高校チーム勢から昨年出場経験のあるベテランチーム勢まで、個性的な面々が揃い、総勢11チーム22名で盛大に開催することができました。大会では、優勝候補筆頭のIMFチームが筆記・早押しともに貫録を見せつけ、決勝ラウンドでも圧巻の強さで見事昨年のリベンジを果たし、全国大会の出場権を獲得しました。



優勝チーム

島根県立浜田高等学校  
IMF



## 香川大会

12月8日(日)開催

主催  いい出会い ふくらむ未来  
百十四銀行

参加校一覧 香川県立高松桜井高等学校、香川県立土庄高等学校、香川県立高松高等学校、香川県立三本松高等学校、香川県大手前高松高等学校

参加チーム数 13チーム(5校)

運営スタッフ感想 「優勝を目指す!」と意気込む生徒さんが多く、大変盛り上がりました。



優勝チーム

香川県立高松高等学校  
木太ドラムス



## 福岡大会

12月8日(日)開催

主催  西日本シティ銀行

参加校一覧 久留米工業高等専門学校、福岡県立修猷館高等学校、福岡県立久留米高等学校、福岡県立福岡高等学校、福岡県立筑紫高等学校、福岡県立筑紫高等学校

参加チーム数 14チーム(6校)

運営スタッフ感想 参加者のみなさんは事前にたいへん勉強されており、真剣に問題に挑んでおられました。運営については課題を残しましたが、来年も多数の高校生が参加されることを願っています。



優勝チーム

福岡県立修猷館高等学校  
マサノリコス



## 長崎大会

12月8日(日)開催

主催 **18bank**  
十八銀行

参加校一覧 長崎県立諫早商業高等学校、長崎県立佐世保北高等学校、長崎南山高等学校、長崎女子商業高等学校、長崎女子高等学校、長崎市立長崎商業高等学校

参加チーム数 12チーム(6校)

運営スタッフ感想 長崎大会は今回で4回目の開催となりました。引率の先生方が見守る中、参加校6校・11チーム(22名)の出場者の皆さんが熱い戦いを繰り広げました。前回優勝校の後輩が同じチーム名を引き継ぎ参戦いたしましたが、今回は早押しクイズで圧倒的な実力を見せた佐世保北高校「ポストケインズ」チームが初優勝を果たしました。決勝ラウンドでは得点の競り合う場面もあり大いに盛り上がりを見せました。今回の開催にあたり、ご参加いただいた高校生のみならず、ご尽力いただいた関係各所のみなさまに厚く御礼申し上げます。



優勝チーム

長崎県立佐世保北高等学校  
ポストケインズ



## 秋田大会

12月14日(土)開催

主催 **秋田銀行**

参加校一覧 秋田市立秋田商業高等学校、明桜高等学校、秋田県立大曲高等学校、秋田県立秋田高等学校、秋田県立秋田中央高等学校、秋田県立能代松陽高等学校、秋田県立能代高等学校、秋田県立横手城南高等学校

参加チーム数 42チーム(8校)

運営スタッフ感想 今大会は、秋田市の文化施設「にぎわい交流館AU」で開催し、多くの方々にご覧いただくことができました。決勝ラウンドでは、各校・各チームの奮闘によって大接戦となり、最終問題で秋田所業高校チームが僅差で逆転、4年ぶり3回目の優勝を果たしました。参加してくれた高校生の皆さん、ご引率の先生方、開催にあたり多大なご協力をいただいた、関係各所の皆さまに心から御礼申し上げます。ありがとうございました。



優勝チーム

秋田市立秋田商業高等学校  
櫻庭ファミリア



## 福島大会

12月14日(土)開催

主催 **東邦銀行**  
すべてを地域のために

参加校一覧 福島県立会津高等学校、福島工業高等専門学校、福島県立福島高等学校、尚志学園尚志高等学校、福島県立磐城桜が丘高等学校、福島県立保原高等学校、福島県立いわき光洋高等学校、福島県立福島商業高等学校、福島県立郡山商業高等学校、石川高等学校

参加チーム数 29チーム(10校)

運営スタッフ感想 今回で2回目の福島県大会となりましたが、昨年に引き続き、参加した生徒の皆さんが、母校の代表として、地域の代表として「誇り」を持って本大会に臨んでいる姿を見て、我々スタッフも深く感動を覚えました。本県は未だ震災の影響が色濃く残っていますが、参加した生徒の皆さんがさらに研鑽を重ねて大きく成長し、福島県、日本、そして世界の将来を担う人材として活躍されることを心より期待したいと思います。



優勝チーム

福島県立福島高等学校  
かすていら



## 栃木大会

12月14日(土)開催

主催 足利銀行

参加校一覧 宇都宮短期大学附属高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮女子高等学校、栃木県立矢板東高等学校、栃木県立宇都宮東高等学校、國學院大學栃木高等学校、栃木県立真岡高等学校、栃木県立足利女子高等学校、白鷲大学足利高等学校

参加チーム数 18チーム(9校)

運営スタッフ感想 初の栃木大会の開催で多くの不安や心配がありました。9校18チームが参加してくれました。高校生たちはみな真剣に一生懸命に取り組んでくれて、「経済のことをもっと知りたくなった」「進路が金融系に変わった!」とのとても嬉しい感想をたくさんいただきました。リベンジしたいとの声も多いので、次回もさらに大会を盛り上げていけるよう頑張りたいと思います。参加してくれた高校生のみなさん、開催にあたりご尽力いただいた関係者の方々、どうもありがとうございました。



優勝チーム  
栃木県立矢板東高等学校  
チーム矢東



## 宮城大会

12月15日(日)開催

主催 七十七銀行

参加校一覧 宮城県仙台第一高等学校、宮城県仙台第二高等学校、仙台市立仙台青陵中等教育学校、仙台育英学園高等学校、仙台南山高等学校、宮城県仙台二華高等学校、宮城県宮城第一高等学校、東北学院高等学校、仙台市立仙台商業高等学校、宮城県泉館山高等学校、宮城県泉高等学校、宮城県立宮城広瀬高等学校、宮城県仙台三枝高等学校

参加チーム数 32チーム(13校)

運営スタッフ感想 宮城大会の開催は今回が5回目ですが、参加チームの応募状況から、この大会の認知度が非常に高まっていることを実感しました。また昨年参加したチームも多数参加してきており、大変活気あふれる大会となりました。今回は生徒の皆さんに宮城の復興に対する意識を高めてもらうことを期待して、「復興へがんばろう!はばたけ宮城の高校生!」というキャッチフレーズのもと大会を開催しました。この大会への参加を通して学んだ金融や経済の知識が、復興のために役立つことを期待しています。



優勝チーム  
宮城県立仙台第二高等学校  
棋士リッシュ



## 山形大会

12月15日(日)開催

主催 山形銀行

参加校一覧 山形県立山形東高等学校、日本大学山形高等学校、山形県立山形中央高等学校、山形県立山形南高等学校

参加チーム数 20チーム(4校)

運営スタッフ感想 山形大会としては2回目の開催でしたが、19チーム38名と多くの高校生に参加いただきました。参加者からは、この大会をきっかけに新聞やニュースを見る機会が増えた、経済学部に進もうという気持ちが強くなったなど、嬉しいご意見をたくさんいただきました。この大会を通じて、より多くの高校生が金融経済に興味をもっていただき、生活に役立ててもらえるよう、次回以降も楽しく盛り上がる大会運営を目指していきます。今回の開催にあたり、ご参加いただいた高校生のみならず、ご尽力いただいた関係各所の皆さま、運営へのご協力ありがとうございました。



優勝チーム  
山形県立山形南高等学校  
閉店



## 茨城大会

12月15日(日)開催

主催 筑波銀行

参加校一覧 茨城県立土浦第一高等学校、茨城県立並木中等教育学校、水戸啓明高等学校、茨城県立竹園高等学校、茨城県立竜ヶ崎第一高等学校、茨城県立水戸商業高等学校、茨城県立日立商業高等学校、茨城県立水戸第一高等学校、常磐大学高等学校、つくば国際大学東風高等学校、茨城高等学校、茨城県立太田第一高等学校、茨城県立日立第一高等学校

参加チーム数 38チーム(13校)

運営スタッフ感想 早押しクイズの組によって問題の難易度に差があると感じました。その他には大きな障害もなく順調に進行し、高校生も楽しんでもらえたと思います。



優勝チーム  
茨城県立土浦第一高等学校  
チームラニーニャ



## 群馬大会

12月15日(日)開催

主催 群馬銀行

参加校一覧 群馬県立前橋高等学校、群馬県立太田女子高等学校、群馬県立太田高等学校、群馬県立高崎高等学校、高崎市立高崎経済大学附属高等学校、群馬県立中央中等教育学校、共愛学園高等学校、群馬県立伊勢崎商業高等学校、群馬県立高崎商業高等学校、群馬県立富岡高等学校、明照学園樹徳高等学校

参加チーム数 23チーム(11校)

運営スタッフ感想 今回の優勝チームは、昨年3位の悔しさをバネに、高いモチベーションで大会に望み、見事全国大会への出場権を勝ち取りました。そのほかのチームも実力が伯仲しており、決勝ラウンドは見応えがありました。出場者に聞いても「楽しかった」と満足してもらえました。スタッフとしてうれしかったのは、出場校が昨年より2校増えたこと。群馬大会は今年2回目ですが、だんだんと高校生の皆さんにエコミクス甲子園が認知されてきたかなと思います。来年はさらに多くの高校から申し込みがくるよう、PRに努めていこうと決意を新たにしました。



優勝チーム  
群馬県立前橋高等学校  
チーム半沢



## 千葉大会

12月15日(日)開催

主催 千葉興業銀行 千葉銀行

参加校一覧 渋谷教育学園幕張高等学校、千葉県立船橋高等学校、市川高等学校、東邦大学付属東邦高等学校、千葉県立銚子商業高等学校、聖徳大学附属女子高等学校、八千代松陰高等学校、千葉県立千葉高等学校、千葉県立千葉東高等学校、千葉県立千葉商業高等学校、流通経済大学付属柏高等学校

参加チーム数 30チーム(11校)

運営スタッフ感想 第8回千葉大会は、県内各地から多数の高校生に参加いただき、盛況のうちに終了いたしました。決勝進出上位3チームの予選ラウンド合計得点が全くの同点というハイレベルな戦いとなり、どのチームが優勝してもおかしくないという状況のなか、決勝ラウンド最終問題まで接戦が続きスタッフもハラハラドキドキの連続でした。開催にあたり、ご尽力いただいた関係者の皆さま、参加してくれた高校生のみなさん。ありがとうございました。今後も千葉興業銀行と千葉銀行の2行で、千葉大会を盛り上げていきたいと思ひます。



優勝チーム  
千葉県立千葉高等学校  
りんりん



## 神奈川大会

12月15日(日)開催

主催  横浜銀行

参加校一覧 横浜女学院高等学校、聖光学院高等学校、神奈川県立横浜翠嵐高等学校、神奈川県立横須賀高等学校、森村学園、慶応義塾高等学校、湘南工科大学附属高等学校、神奈川県立海老名高等学校、サレジオ学院高等学校

参加チーム数 19チーム(9校)

運営スタッフ感想 神奈川大会は今回で6回目の開催となりました。当日は、非常に高いレベルの戦いが繰り広げられました。参加者からは、「楽しかった。また参加したい」「この大会をきっかけに、今後も金融経済の勉強していきたい」という感想をいただきました。次回もたくさんの高校生の皆さんに楽しんでいただけるよう、より一層大会を盛り上げていきたいと思います。



優勝チーム  
聖光学院高等学校  
シンドバッド



## 富山大会

12月15日(日)開催

主催  北陸銀行

参加校一覧 富山県立南砺福野高等学校、富山県立魚津高等学校、富山県立高岡西高等学校、片山学園高等学校、富山県立石動高等学校、国立富山高等専門学校、富山県立富山中部高等学校、富山南高等学校、富山県立高岡高等学校、富山国際大学附属高等学校、富山県立高岡商業高等学校、富山中部高等学校、富山県立水橋高等学校、富山県立滑川高等学校

参加チーム数 30チーム(14校)

運営スタッフ感想 今年は29チームの参加となりました。当日は降雪もありましたが、引率の先生や保護者の方々の見学等もあり、賑やかな大会となりました。スタッフ一同、大変嬉しく思っています。第二ラウンドの早押しクイズでは、他チームの勝ち抜けを許すまいと各校が正解を重ね、ほぼ全てのチームがトップ争いに絡んできたことが印象的でした。決勝ラウンドも、追い越し追い越されの白熱した展開が広げられ、年々学生のレベルが高くなっていると感じました。来年も楽しい大会としていきたいと思っています。



優勝チーム  
富山県立高岡高等学校  
tanQ



## 石川大会

12月15日(日)開催

主催  北國銀行

参加校一覧 石川県立金沢泉丘高等学校、石川県立小松高等学校、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、星稜高等学校、石川県立野々市明倫高等学校、石川県立金沢商業高等学校

参加チーム数 15チーム(6校)

運営スタッフ感想 決勝ラウンドは、これまで毎年優勝チームを輩出してきた金大附属高校の4チームと金沢泉丘高校、小松高校の6チームでの争いとなりました。各チーム実力伯仲の中、優勝は最終問題までつれましたが、最後は予選2位で通過した金沢泉丘高校「ラグナロク」が決勝では全問正解と安定した実力を発揮し、県立高校初の優勝となりました。



優勝チーム  
石川県立金沢泉丘高等学校  
ラグナロク



## 静岡大会

—12月15日(日)開催

主催  静岡銀行

参加校一覧 星陵高等学校、静岡聖光学院高等学校、静岡県立浜松西高等学校、御殿場西高等学校、富士市立高等学校、静岡県立磐田南高等学校、静岡雙葉高等学校、沼津中央高等学校、三島学園三島高等学校、東海大学付属翔洋高等学校

参加チーム数 21チーム(10校)

運営スタッフ感想 今回で3回目を迎えた静岡大会。県内各地から多くの高校生に参加いただき、参加者同士はもちろんスタッフとも交流を図りながら楽しい大会とすることができました。  
高校生の皆さんは事前にしっかり勉強して大会に臨んでくれ、とくに決勝ラウンドでは、白熱した戦いとなりました。  
また、敗者復活戦には近似値クイズを取り入れるなど工夫を加えたため、とても盛り上がり、参加者全員が楽しんでくれたようです。



優勝チーム  
静岡県立浜松西高等学校  
ペルセウス



## 愛知大会

—12月15日(日)開催

主催  愛知銀行

参加校一覧 名古屋大学教育学部附属高等学校、名古屋高等学校、東海高等学校、愛知県立瑞陵高等学校、愛知県立蒲郡高等学校、聖カピタニオ女子高等学校、愛知県立知立東高等学校、滝高等学校、愛知県立刈谷工業高等学校、愛知県立旭丘高等学校、愛知県立古知野高等学校、愛知県立一宮商業高等学校、海陽中等教育学校

参加チーム数 34チーム(13校)

運営スタッフ感想 今年は当日参加チームが30チームとなり、過去最多となりました!前回のこの愛知大会代表の東海高校が全国優勝を果たしメディアへの露出が多くあったこともあり、地元での認知度が高くなってきたように思います。決勝ラウンドでは、ハイレベルな戦いとなり正解チームが続出しましたが、最後に東海高校がトップを走っていたチームを抑え、優勝を果たしました。大会を終えた後、高校生の皆さんから笑顔で「来年もまた来ます!」と言ってもらえたことでスタッフ一同の疲れが吹っ飛びました。次回も高校生の皆さんに楽しんで学んでもらえる愛知大会を作っていきたいと思ひます。



優勝チーム  
東海高等学校  
1ドル93円位



## 奈良大会

—12月15日(日)開催

主催  南都銀行

参加校一覧 西大和学園高等学校、東大寺学園高等学校、奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良学園高等学校、奈良県立畝傍高等学校、帝塚山高等学校、智辯学園奈良カレッジ高等部

参加チーム数 25チーム(7校)

運営スタッフ感想 元気いっぱいの20チーム、40名の皆さんに参加いただき、笑いあり涙あり・・・と盛況のうちに終了しました。今年の奈良大会の優勝は女性チームとなり、なんと2年連続「女性」チームが全国大会へと出場することになりました。ご参加いただいた皆さん、ご尽力いただいた関係各所の皆さまには厚く御礼申し上げます。



優勝チーム  
智辯学園奈良カレッジ高等部  
アリゴリズム



# 地方大会 Local competitions

## 岡山大会

12月15日(日)開催

主催  中国銀行

参加校一覧 岡山県立玉島商業高等学校、岡山県立倉敷青陵高等学校、岡山白陵高等学校、岡山県立岡山東商業高等学校、岡山県立岡山操山高等学校、岡山県立倉敷古城池高等学校、岡山県立岡山朝日高等学校、岡山高等学校、玉野市立玉野商業高等学校、岡山県倉敷市立精思高等学校、岡山県立岡山一宮高等学校、岡山県立倉敷南高等学校、金光学園高等学校、岡山県立笠岡商業高等学校、朝日塾中等教育学校、岡山大安寺高等学校、岡山県立玉島高等学校、岡山県立倉敷天城高等学校、岡山学芸館高等学校、山陽女子高等学校、岡山県立総社高等学校、ノートルダム清心学園清心女子高等学校、岡山県立岡山大安寺中等教育学校、勝山高等学校

参加チーム数 76チーム(23校)

運営スタッフ感想 今回、23校から76チームのエントリーがあり、マンモス大会となりました。毎年度の地方大会と比べ、全国大会への出場は狭き門となっています。全国大会への出場枠の定数は正を検討してほしいのがスタッフ、出場者一同の願いです。(笑)  
今回は早押しラウンドから決勝ラウンドまで長丁場となり、高校生が最後まで楽しんでもらえるように工夫しました。アンケートの結果を見ると、「楽しかった」、「来年も参加したい」という声が多く聞かれ、スタッフ一同喜んでます。次回も今回以上に盛り上げるように努力していきますので、高校生の皆さん是非参加してください!!



優勝チーム  
岡山白陵高等学校  
にべそ



## 徳島大会

12月15日(日)開催

主催  阿波銀行

参加校一覧 徳島県立徳島商業高等学校、徳島市立高等学校、徳島県立城内高等学校、徳島県立城東高等学校、徳島県立城南高等学校、徳島県立脇町高等学校、徳島県立富岡西高等学校、徳島県立阿波高等学校

参加チーム数 32チーム(8校)

運営スタッフ感想 4回目となる徳島大会も、多数の高校生にご参加いただき、大いに盛り上がりました。開催にあたり、多大なご協力を賜りました関係各所のみなさまに厚くお礼申し上げます。  
今回は、昨年惜しくも優勝を逃した「マジ山名あ〜」が1位で予選を通過、決勝ラウンドでの接戦を制し、みごと優勝を飾りました。  
次回も、より多くの高校生に楽しんでいただける徳島大会を開催し、エコノミクス甲子園を盛り上げていきたいと思います。



優勝チーム  
徳島市立高等学校  
マジ山名あ〜



## 高知大会

12月15日(日)開催

主催  四国銀行

参加校一覧 高知学芸高等学校、土佐高等学校、高知県立伊野商業高等学校、高知県立高知追手前高等学校、高知県立高知西高等学校、高知市立高知商業高等学校

参加チーム数 14チーム(6校)

運営スタッフ感想 初めての回の開催でしたが、無事終了することができました。出場者からもスタッフからも来年以降の開催を望む声が多くあり、事務局としても意を強くしました。



優勝チーム  
高知学芸高等学校  
高知学芸



## 沖縄大会

12月15日(日)開催

主催 **◎ 沖縄銀行**

参加校一覧 昭和薬科大学附属高等学校、沖縄県立那覇国際高等学校、沖縄県立那覇商業高等学校、沖縄県立普天間高等学校、沖縄県立那覇高等学校、沖縄県立小禄高等学校、沖縄県立首里高等学校、沖縄県立陽明高等学校、沖縄県立名護高等学校、沖縄県立浦添商業高等学校、沖縄県立名護商工高等学校、沖縄県立開邦高等学校、沖縄県立読谷高等学校、沖縄県立美里高等学校

参加チーム数 40チーム(14校)

運営スタッフ感想 今大会は、高校生が楽しめるよう、屋外のイベントを行った。沖縄の中心街、パレットくもじの前のイベントステージを借用し、本大会のPRも含めた大会を運営した。高校生も喜んでおり、今回は決勝戦も全員が同じ問題を解くことにより、不公平感も少なく、子ども達も楽しんで参加していた。また、優秀な子ども達が多く参加しており、決勝ラウンドも接戦を繰り広げる白熱した戦いとなり、大いに盛り上がった。来年も、子ども達を楽しめる大会を運営し、大いに沖縄県内の金融知力の普及に貢献していきたい。



優勝チーム  
沖縄県立那覇国際高等学校  
KGMD



## インターネット大会

12月15日(日)開催

主催 **住信SBIネット銀行**

参加校一覧 淳心学院高等学校、野田学園高等学校、大阪星光学院高等学校、慶應義塾湘南藤沢高等部、愛媛県立松山東高等学校、国立大分工業高等専門学校、安田女子高等学校、京都廣学館高等学校、本郷高等学校、大分県立大分上野丘高等学校、仁愛女子高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、広島県立広島皆実高等学校、関西学院高等部、早稲田大学高等学院、京都市立堀川高等学校、灘高等学校、東山高等学校、洛南高等学校、鹿児島県立鶴丸高等学校、追手門学院高等学校

参加チーム数 27チーム(21校)

運営スタッフ感想 インターネット大会は他の大会と違いお互いの顔の見えない中での開催となります。そのために難しい部分もたくさんありますが、今回も何とか成功裏に開催することができました。参加した生徒の皆さんにお礼申し上げます。また、今回はシステムの部分でIEC社様にお力をお借りしており、この場を借りて改めてお礼申し上げます。参加者数も参加校数も前回より増えており、今後も引き続き増やしていきたいと考えております。この大会を通じて、日本全国の高校生の金融知力の向上に貢献していければ幸いです。



優勝チーム  
関西学院高等部  
関学高理科部

## 宮崎大会

12月23日(月)開催

主催 **品 宮崎銀行**

参加校一覧 宮崎県立宮崎大宮高等学校、宮崎県立宮崎西高等学校、宮崎県立宮崎北高等学校、宮崎第一高等学校、延岡学園高等学校、宮崎日本大学高等学校、宮崎県立小林高等学校、宮崎県立日向工業高等学校、宮崎県立都城西高等学校、宮崎県立延岡星雲高等学校

参加チーム数 24チーム(10校)

運営スタッフ感想 司会に民放2局のアナウンサーをお迎えし、華やかな大会となりました。一生懸命取り組む高校生の姿が印象的でした。参加高校数の増加や中学生の見学等もあり、来年度以降の広がりも期待できる大会となりました。昨年度の優勝者である先輩も大会スタッフとして運営をサポートするなど、昨年度にも増して一体感のある大会となりました。ハイレベルな戦いを制し、見事優勝に輝いたのは、宮崎第一高校の「一Q入魂」。昨年のリベンジを果たしての優勝となりました。全国大会での健闘をお祈りします!!



優勝チーム  
宮崎第一高等学校  
一Q入魂



## 鹿児島大会

12月23日(月)開催

主催 鹿児島銀行

参加校一覧 鹿児島県立鶴丸高等学校、鹿児島県立甲南高等学校、鹿児島情報高等学校、ラ・サール高等学校、志学館高等部、樟南高等学校、鹿児島実業高等学校、鹿児島県立川薩清修館高等学校、鹿児島高等学校、鹿児島城西高等学校

参加チーム数 41チーム(10校)

運営スタッフ感想 大会運営は皆様のご協力でスムーズに出来たので大変良かったです。大会結果は、連覇を続けたラサール高校ではなく、初の鶴丸高校の優勝でした。昨年、決勝で悔しい思いをした鶴丸高校の2人が自ら本大会用の問題集を作成し、周囲を巻き込みながら、1年間努力を続けた結果が優勝の要因です。また、2位も鶴丸高校で、2人の優勝への思いの強さが非常に伝わりました。ぜひ、全国大会でも頑張ってください。



優勝チーム

鹿児島県立鶴丸高等学校  
ロックフェラー



### 第八回エコノミクス甲子園 スタッフリーダー 廣瀬 哲

こんにちは。第8回エコノミクス甲子園にて学生スタッフリーダーを務めた廣瀬と申します。2007年に始まったこの大会も前回で8回目を迎えましたが、私も第5回大会に出場しました。大学進学後第7回からスタッフをしていますが、最初にこの大会を知った時には、この仕事をする事になるとは思いもしませんでした。

元から私は理系で、「金融」「経済」というものに大して興味を抱いていませんでした。参加も、エコ甲のクイズ大会という側面だけを見て決めたようなものです。そんな私にとって、エコ甲は私の人生の中でも強烈な存在感を放っています。特に、全国大会でグループの仲間とプレゼンを作った経験は忘れられません。もちろん楽しい思い出としてもですが、あの1日ほど自分の持っていた自信が全て打ち砕かれ、「もっと世間に目を向けて勉強しないと」と考え方を改めさせられた日はありませんでした。

そして、この体験を次の世代にも引き継いでいくために、私は学生スタッフとして仕事をしています。この1年間は、何かの役に立ったり楽しい思い出になったりと、何らかの形で「参加して良かったと思える大会」を目指し、信念を持ってやってきたつもりです。反省点・後悔している点も多々ありますが、そのように感じてくれた高校生が多いたことに安堵しています。そんな皆さんにはぜひ、スタッフとしてエコ甲の次の担い手になって欲しいです。エコ甲は皆さんの参加した瞬間では終わりません。実際、スタッフとして参加し金融経済について勉強しながら、私にとってのエコ甲もまだまだ続いています。個人的には、まず皆さんから大会の話をもっと聞きたいです。そして、一緒に大会を盛り上げていきましょう。お待ちしております。

### 第九回エコノミクス甲子園 スタッフリーダー 井上 ちひろ

こんにちは。第9回エコノミクス甲子園スタッフリーダーを務めることになりました。井上と申します。第6回大会に出場し、今回の第8回大会からスタッフとして参加しています。

エコノミクス甲子園は、学校の授業ではほとんど学ぶことのない、しかし生活していくために必要なお金の知識である「金融知力」を高校生が学ぶ機会を提供することをねらいとしています。エコ甲はこの理念にご賛同いただいた様々な方のご協力で成り立っていますが、中心となって大会運営を行っているのが、かつて高校生時代に大会に参加したエコ甲OB・OGの学生です。学生スタッフは、それぞれエコ甲に対して色々な思いを抱えて、出場後もこの大会に携わる道を選んでいきます。私自身、高校時代に些細なきっかけから出場した第6回エコノミクス甲子園を通して将来についてそれまでとは異なる考え方を持つようになり、この経験が高校卒業後の進路選択に影響を与えました。エコノミクス甲子園に出場したことが、自分の人生を変えたといっても過言ではありません。自分たちにかげがえのない経験を与えてくれたエコ甲への「恩返し」の意味でも、出場する高校生に「出場して良かった」「良い経験になった」と感じてもらえるような大会を作り上げることを私たち学生スタッフは目指しています。

第8回大会は成功裡のうちに終了しましたが、エコノミクス甲子園はさらなる発展を続けていきます。今後もより良い大会を作っていくため、学生スタッフも第9回大会に向け新体制で動き出し始めました。第8回大会では先輩スタッフを見ているばかりでしたが、今大会の反省を生かし、次回は私たちが中心となって第9回は今までを超えるものを創っていく所存です。今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

## 1 日目

一日目、朝食を摂った後、最初に迎えるのは毎年恒例となっている筆記クイズ。60分間という時間の中で4択問題、論述問題を解いていきます。高校生たちは自分の持ちうる経済知識と金融知力をフル回転させながら問題と向き合い、1点でも多くの点数を取ろうと解答用紙とにらめっこをしていました。

60分間、筆記問題と戦った後は休む間もなく次のワークに入っていきます。その名も「エコノミクス広辞苑」。高校生は10人組8グループに分かれます。そしてそれぞれのグループは抽選で決まった広辞苑の該当ページに掲載されている単語の中から1つを選び、【選んだ単語×オリンピック】をテーマに各グループでビジネスプロジェクトを立案します。そして一日目の夜に開かれる合同説明会にて投資家の方たちを前に自分たちのブースを構え、プレゼンテーションを行い、各グループが投資家たちからどれだけ資金を調達できるかを競うものでした。

出会ったばかりのライバルたちといきなり同じグループになって議

論をすることになった高校生たち。最初はぎこちない様子も見られましたが、共に昼食を食べながら次第に打ち解け、どのグループも白熱した議論を交わし、夜の説明会に向けて準備を進めていきました。

そして、夜に開催された説明会では、各自のブースで熱心にプロジェクトをプレゼンする高校生、チラシを配布しながら自分たちのブースに誘導する高校生、また会場入口付近で投資家たちを引き止めるロビー活動を行う高校生など、様々な手法を凝らして投資家たちにアピールしていました。

説明会の終了後は、高校生お待ちかねの「エコノミカ大会」。エコノミカとは金融知力普及協会プロデュースの経済カードゲームで、「エコノミカ大会」は第7回全国大会から開催されています。今大会では、高校生同士の対戦に加えて学生スタッフとの対戦も行われました。事前に戦術研究を行ってデッキを組み替えてきた高校生が多く、エコノミカにかける真剣さが垣間見えました。大会では緊張感が溢れた中で、高校生だけでなく高校生と対戦した大学生スタッフも勝敗に一喜一憂しました。またカードゲームを通して高校生同士や高校生と大学生スタッフ間の親睦を図ることもできました。



## 2 日目

### ■ 第一ラウンド・大発会早押しクイズ

ついに幕を開けたイノホールでの全国大会2日目。最初に行われたのは『大発会!早押しクイズ』。証券取引所において1年間の取引の初日に行われる催事を指す「大発会」という言葉の冠せられたこのラウンドは、1問ごとに4チームずつ入れ替わりで早押しクイズを行い、正解するとポイントが獲得できるというシンプルな方式です。

高校生たちはブラカードを持った銀行員さんと一緒に入場し、画面にはそのチームの写真が大きく表示されるなど、各チームの紹介も兼ねたラウンドとなっています。

イノホールでの最初のラウンドということもあり、緊張してボタンに置く手が震えている高校生もいる一方で、積極的にボタンを押して正解し、会場を盛り上げるといった場面も多く見られました。



## ■ 第二ラウンド・ニッチ産業クイズ

続いて行われた第2ラウンドは『ニッチ産業クイズ』。高校生たちは前日のプレゼンテーションを作成したグループを基に5つの組に分けられ、1組ずつ壇上へ上げられます。そこで彼らに出題されるのは、「日本のお札に肖像画として描かれたことのある人物を一人答えよ」「最低賃金が700円以上の都道府県を一つ答えよ」などの答えが複数ある問題。これらの問題には壇上の高校生だけでなく、客席にいる高校生も解答します。

そして壇上の高校生の解答を一つずつ開けていき、それが客席の高校生のものと被っていない「ニッチな」解答であれば得点を獲得、一方客席の高校生は「壇上の高校生が書いたものと同じ答え」を書いていけば得点が入ります。

初めの方は壇上のチームが得点を阻止される場面が続きましたが、「APECに加盟している国・地域を答えよ」という問題に壇上のチー

ムが「ロシア」という盲点を突いた答えで単独正解を出すといった場面もあり、大いに盛り上がりました。



## ■ 第三ラウンド・産業スパイクイズ

続いてお昼休憩を挟んで行われたのは『産業スパイクイズ』。このラウンドにはこれまでの得点上位18チームのみが参加できます。

予選順位により三菱重工、革崎重工、不二重工の3社に6チームずつ割り振られた高校生たち。彼らには4択問題が出題され、それぞれに配られたAからDの文字が書かれた札で解答します。正解したチームの数だけそのチームが所属する企業に1点が追加され、8問終了時に一番得点の多かった1社が勝ち抜けとなります。

しかし各社の6チームのうち2チームは他社から送り込まれた「産業スパイ」であり、産業スパイが問題に正解すると、彼らが「本来所属している企業」に得点が加算されます。なお、それぞれのチームに配られた「指令書」から、高校生は自分のチームが正社員なのか、本当は他社に所属するスパイなのかを知っています。

つまり、各社の見た目上の正解チーム数と実際に入るポイントが一致しない、という状況が発生するわけで、高校生はそこからどのチームが産業スパイであるかを推測することができます。スパイだと思いうチームが居る場合、高校生は問題と問題の間に「取締役会議」を開き、ここで半数以上の賛成が得られればそのチームを「追放」することができる、というルールになっています。

このラウンドで大事な何といってもスパイがどのチームであるかの見極めです。味方だと思っていたチームが実は敵かもしれないという緊張感の中で、誤って正社員を追放してしまうといった場面も見られました。

結果、自社に送り込まれたスパイを2チームとも追放し、他社へ送り込んだスパイが2チームとも生き残った三菱重工の6チームが次のラウンドへの進出権を手に入れました。



## ■ 第四ラウンド・アカウントビリティクイズ

産業スパイクイズを勝ち上がった土浦第一、藤島、春日部、岐阜東、鶴丸、千葉の6チームがほとんど休む間もなく行う次のラウンドは『アカウントビリティクイズ』。画面には経済に関する文章が表示されていますが、その中には6つの空欄があります。空欄には単語を埋めるだけで良いものや、理由を「説明」しなければならないものもあります。ラウンド名に「説明責任」を意味する「アカウントビリティ」という単語が使われているのはこのためです。

高校生たちはボタンを押して解答権を獲得し、順番に空欄を1つ選んで答えていきます。なお、空欄にはあらかじめその難易度に応じて得点が割り振られており、正解するとそこに表示された得点を獲得することができます。これを4問行い、得点を多く獲得した3チームが決勝へと駒を進める、というものです。

早くボタンを押せば答える空欄を選べる代わりに考える時間が短くなり、後の方にボタンを押せば長く考えられる代わりに答える空欄を選べないという、まさにトレードオフのルールでした。

結果は、高得点の空欄にも積極的に答えていった岐阜東、千葉、春日部の3チームが勝利を手に入れました。



## ■ 敗者復活ラウンド・市場淘汰3択クイズ

第4ラウンドが終わり、来賓の方からのご挨拶。その中で発せられた「金子理事長、敗者復活戦やっていますか？」この一言で敗者復活ラウンドの幕が上がりました。

一斉に舞台上に上げられる高校生たち。最後の望みとなる敗者復活ラウンドは『市場淘汰3択クイズ』。3択クイズに間違えると即失格というサバイバル方式のクイズで、これまでに敗退した37チームの中から、最後まで残った1チームのみが決勝ラウンドに進むことができます。

「ゆうちょ銀行の通常貯金では何円単位でお金を預け入れられるでしょう？」

「『フンシヨク決算』の正しい漢字はどれでしょう？」

問題を出題するごとに減っていく舞台上の高校生たち。4問目が終わったころには残り3チームとなりました。そして次の「現在のFRB・連邦準備制度理事会の理事長は誰でしょう？」という難しい時事問題に唯一正解した広島学院が敗者復活を果たし、ここでついに決勝ラウンドに出場する4チームの顔ぶれが出揃いました。



## ■ 決勝ラウンド・クイズ!ドミナント戦略

アカウンタビリティクイズを勝ち抜いた3チームに敗者復活ラウンドで勝ち上がった広島学院を加えた4チームによって行われる決勝戦は、『クイズ!ドミナント戦略』。

メイン画面に表示されたのは、山手線のような地図。出題される筆記問題に全チームが解答し、正解したチームは5億円を獲得、そして地図の中から空いている土地を買うか、その問題に不正解だったチームが持っている土地を買収することができます。そして隣り合った土地を所有すると「ドミナント」が発生しそれらの土地の価値が上昇します。これを繰り返し、15問終了時点での「手持ち資金」と「所有する土地の価値」を合わせた総資産が最も多いチームがニューヨークへの切符を手にする、というものです。

熱戦の結果、終始ゲームを引っ張っていた千葉高校の二人が優勝、準優勝は春日部高校、続いて広島学院、岐阜東という結果になりました。

千葉高校の池田君、並木君はエコノミクス甲子園初の公立高校、そして共学高校としての全国大会優勝となります。ニューヨークへの切符を手にしてもなお冷静な並木君はコメントを求められると「今だけ喜ぶのもったいないので一カ月くらいずっと喜べるように取っておきたいと思います」というユーモアのある回答で会場を沸かせました。





# 全国大会感想 Final tournament report

北海道大会代表 北海道札幌旭丘高等学校 二年 佐藤 賢斗

今回の全国大会はとて充実したものでした。出発の日、学校から休みをいただいた僕たちはゆったりと東京へ向かうはずでしたが、がしかり雪の影響で飛行機が遅延、幸い1時間程度の遅れで済みました。先が思いやられるスタートでした。予定よりは遅れたものの、無事に宿舎に到着。この時点で既に緊張していました。学生スタッフの方から説明(洗礼)を受け、同じ部屋の岐阜東高校の二人と対面。すぐに意見交換し、互いの健康を次で初日を終わりました。

夜のレセプションパーティーでは朝イチのペーパーテストで予選が始まりました。問題は難しく、自分の勉強不足を痛感しました。テスト終了後、夜に行うプレゼンのグループが発表されました。僕が入ったグループAは、メンバー8人のうち女子が3人といい恵まれたグループでした。男子8人というのは辛いですが、笑。グループのメンバーとはずいぶん仲良く、協力して作業に取り組みることができましたが、短時間でポスターを完成させなければならぬため、とても苦労しました。

夜のレセプションパーティーでは企業の新卒や普段お会いすることさえできないような方が目の前に、そしていよいよプレゼンの本番、緊張はしたけれど、それ以上にこの貴重な体験を楽しみました。拙い説明だったけれど、僕たちの思いを伝えることができたと思います。「ウェアラブルコンピュータ」のみんな、本当にありがとうございました！

最終日、イコノホールにて大勢の観客が見守る中クイズが行われました。ここでは自分のメンタルの弱さを露呈しました。観客席から他チームのクイズを観ているときは答えがすぐ頭に浮かぶのに、いざ自分がステージの上になると緊張で頭が真っ白になり、自分の力を発揮することができない。この感想文を書いている今も悔やんでいます。

結果、僕たちは予選を通過することはできませんでした。全国の壁は遙かに高く、彼らとのレベルの差を実感しました。優勝した県立千葉高校の二人はスゴいと思いました。

今回、予選敗退という残念な結果に終わりましたが、全国大会に出場することができたことにも満足しています。東京で過ごした三日間は充実したものでした。この貴重な経験は将来必ず役に立つと思います。

さて、全国大会が終わって北海道に戻ると、多くの方から「来年こそ優勝してね。」というお言葉をいただきました。来年は受験生なのですが、でも内心里ベンジしたいと思っています。もしも来年こそ周囲の反対を押さえて第九回エコノミクス甲子園にも出場するかもしれません。その時はもちろんニューヨークを目指して頑張ります！

北海道大会代表 北海道札幌旭丘高等学校 二年 小川 拓希

今回、初めてエコノミクス甲子園に参加しました。まさか全国大会に行けるとは思っていなかったのですが、正直とて不安でしたが、楽しく参加して良かったと思います。また、大変貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。特に学生スタッフの方には、本当に感謝しています。

全国大会が終わって私が思ったことは、勉強不足だったということです。

二日目、土曜日の朝にやったペーパーテストでは、半分近く何を言っているかわからなかったです。それだけ自分が読み込みの浅い勉強をしていたのかと痛感させられました。後から口癖いせは単純だった問題も、解答できない焦りと不安からボロボロと崩れていきました。相手には本当に申し訳ないです。もっと勉強しておけばよかったと、今でも後悔しています。

次にやったプレゼンでは、見ず知らずの方とチームを組んで行うものですが、これでもまた役に立ってませんでした。苦手な所は互いに助けあっていく事が普通、と割り切って必ずしにアイデアを出しました。短い時間ながらも、個人的には満足するような内容にまとめるための良かったと思います。そしてプレゼンの本番、普段では会えない方々とお話ができ、自分の生にプラスになったと思います。時間はあっという間に過ぎていきました。やはり全員の壁は高い。自分の中では自信のあるプレゼンであったにも関わらず、結果は7位。反省すべき点は後々考えてみることもありますが、ここに書くこと長くなってしまおうと割愛します。プレゼンが終わって、センター棟に戻り、息一つ休んだと思ったら何やら机が怪しい形に。そうエコノミカ、他人とカードゲームで対戦したことが無かったので緊張してしまい、正直、あまり覚えていません。これで、嵐のような一日が終わりました。僕がいていなかったら、一チームが決まると思うと不安と興奮が入り混じってあり眠れませんでした。

三日目、ついに決勝をつける時がきました。最初の早押しでは、極度の緊張から誤ってボタンを押してしまうという痛いミス。必死に考えて答えようとするも、何も思い浮かばず不正解。頭が真っ白になるという事ですが正にこのことだ。次の二ツ産業クイズでも、いよいよ終わってしまい、ここで敗退という結果になってしまいました。その後は、ばーっと他のチームが次々と難しい問題を解いていくのを、眺めているだけで、自分の無力さを本当に悔やみました。優勝は千葉県立、二人ともトップの文句なしに一位でした。その時の彼らが、僕にとってとても遠い存在に見えたのは明らか知識量の差があったからだと思います。まあ今後後悔しても遅いですがね。

この大会の場を通じて、経済についての知識を深めることが出来てくれました。また、足を引張ってばかりだった私をいつも助けてくれた相方の佐藤君、共にプレゼンをしたA班のみんな、各地方銀行の皆様、そしてこの大会の運営をしてくれたスタッフの皆さんには感謝してもしきれないです。本当にありがとうございました。

青森大会代表 青森県立青森高等学校 二年 中村 勇将

僕の所属している青森高校クイズ研究会は、僕らの学年から新たに設立された。現在、青森高校の中で最も新しい同好会です。同好会として始まってからまだ2年しか経っていません。学校の中でも知らない人のほうが多かった同好会です。しかし、そんな青森高校クイズ研究会を学校中、いや、青森県内に知れわたるきっかけとなったのが、そう！エコノミクス甲子園だったのです。青森大会では、決勝の最終問題に単独で正解し、まさかの大逆転

優勝を成し遂げてしまった僕たち青森高校アップルシールドチーム。優勝したことにより、なんと、地元テレビ局のニュース番組にある部活動を紹介するコーナーでぜひ青森高校クイズ研究会を取材させてほしいというオファーがあり、エコノミクス甲子園のおかげで、青森高校クイズ研究会は青森県内に知られることとなったのです！

クイズ研究会の中でも初の全国大会出場者となった僕たちが、全国大会で感じたものが大きく2つ。1つ目は全国大会のレベルの高さでした。自分たちが次がどうなるような、流石全国から集められてきたクイズの猛者たち。という感じ。本戦前夜に、10人ほど集まってお互いにクイズを出し合う小規模なクイズ大会をしたのですが、みんなが出す問題が難しく、また答えるスピードが速い！僕は1問答えるのがやっとでした。本戦では第3ラウンド以降、僕たちは席に座ってみていることとなったのですが、そこで感じたものもやはりレベルの高さ。自分の勉強不足を感じましたし、正直意味が分からない問題すらすると答えていけないうると思います。僕たちを見て改めて全国の2文字にあるレベルの違いを思い知らされたことになりました。

2つ目は各地のご当地情報を知ることができたことです。全国から集まっているわけですから、当然各地の言葉がありますし、そこじゃないと分からないという情報がたくさんありました。特に面白いと思ったのが方言です。僕たち青森県も方言に関してはきわめて特徴のある言葉を話る人種ではあるのですが、その土地によってイントネーションやしゃべり方が異なっています。流石全国大会！クイズ以外の面でも楽しめたと思います。3日間の中でとても刺激を受けたし、本当にいい経験になったと思います。エコノミクス甲子園を通して今まで考えてもいなかった経済というものに向き合えるいい機会にもなりました。この経験をもとさらに勉強に取り組みたいと思います。また、来年のリベンジを後輩に期待したいと思います。

青森大会代表 青森県立青森高等学校 一年 秋元 理衣

「今度、経済に関するクイズ大会があるから皆で出場しよう。」クイズ研究会で会長にそう言われたのが、私がエコノミクス甲子園に出場するきっかけでした。

エコノミクス甲子園という大会の存在自体は以前から知っていました。しかし、当時の私にこの大会の仲間たちもまだ興味を惹かれるものでもなかったこと、さらにこれまで青森県では地方予選が行われていなかったこと、今年も行われないうらというところ、この二つから「自分が参加するはずはない、きっとそういう職業を目指す人たちが集まる別世界なんだろう」と思っていました。そんな私が地方予選、全国大会を通して、あの頃の自分では考えられないほど濃い経験を得ることが出来たと同時に、自分の甘さを痛感することになったということ、エコノミクス甲子園はとて刺激的で、私にとって忘れられないものになりました。

全国大会二日目。まず筆記テストのレベルの高さに打ちのめされました。プレゼンの準備でもチームの仲間たちがテーマを決めた内容を考えた間、私はただ流され、なんとかついて行くのにも必死。広辞苑のページ運も悪く、うまく出来るか不安でした。しかし、チームメイト8人が協力し、成功させたプレゼンはこの大会で最も印象的な活動になりました。その後のエコノミカ大会でもとて楽しく、熱気溢れるものでした。

二日目、イコノホールでの本戦では第3Rに進むことができずでしたが、見ていて面白いルールが多くて楽しめました。決勝戦のレベルの高さには痺れました。優勝者全員が喜び、一体感がとても気持ちよかったです。

エコノミクス甲子園は決して知名度が高いとは言えないと思います。経済に関するクイズというところで、参加していくということも身近なことにあると改めて実感しました。だからもっと多くの高校生にこの大会のことを知ってほしい。参加して欲しい。…と同時に、私ももう一度参加したい。今回の反省を生かして、来年に向けてまた勉強し、そしてまたこの感想文を書きたいです。

最後に、金融知識普及協会の皆さん、スタッフの皆さん、みちの銀行の皆さん、さくらたんば「班」の皆さん、応援してくれた皆さん、そして中村先輩、本当にありがとうございました。

宮城大会代表 宮城県仙台第二高等学校 二年 青山 史門

それは、2014年の1月31日の事です。僕は東京へ向かう新幹線の車内で揺られていました。いつもなら僕達を急ぐ頃ですが、この日は違うのでした。

ややあって、目的地に到着しました。その日は部屋で事前学習用のテキストを斜め読みしてから眠りました。この日の朝、なんと言う事でしょうか、筆記テストです。それも相方と相談できないうちです。実際は、クイズ研究会の先輩方が出場した際の筆記などから、相談不能なテストの存在は認知していたわけですが、朝だからでしょうか、それとも記憶込みが余ったのでしょうか、きつと両方でしょう。答が出てきそうではございませんでした。僕は知識の欠落を痛感しました。

テスト終了後、相方に申し訳なく思いながら、次の活動に取り組みました。その活動というのが、オリビックと広辞苑から選んだ単語一つを絡めて事業計画を立て、投資を回すためのプレゼンをする、というものでした。僕は投資回すのは割合できるの、考え付く限りのアイデアを出し、結果として僕たちのグループは二位でした。なかなかの好成績でした。

また、次の日、最初は4抜けでしたが、グループ戦でええなく敗退。敗者復活戦においては、FRBの議長が選んでいることを知らず、イエーレンって誰ですか、といった状況で復活も叶いませんでした。

悔しい結果となりましたが、収穫はありました。多少の運も絡む中で、準備はできるうちにしなければならない、自分の思うところを積極的に表現しなければならない、考えることは放棄してはならない、情報は少しでも早く手に入なければならない、そういう社会の一端を見たと、僕は思っています。僕のエコノミクス甲子園は終わりましたが、学習とは生涯に渡る物。経済に対する興味が増す。そんなきっかけを与えてくれた、エコノミクス甲子園に感謝です。

これからもコツコツと、経済の勉強を重ねて、経済知力に優れた人物になろうと思います。

宮城大会代表 宮城県仙台第二高等学校 二年 石垣 貴史

エコノミクス甲子園全国大会に参加することが出来、本当に沢山の経験をさせていただいたことを大変嬉しく思っています。

私達のチームは昨年も宮城大会に参加させていただき、決勝戦であと一歩のところで敗れてしまいました。その時の悔しい思いと、残っているであろう知識の微かな記憶を頼りに何とか予選を突破して、全国大会に出場することが出来ました。

全国大会前、最初に待ち受けていたのは筆記クイズ(一題)、その次はビジネスアイデアの作成・発表でした。例年通り、広辞苑の言葉を組み込むことが必要です。私達に与えられたページ中の言葉は……草の根・草鞋・草むらetc…

……ほとんど草しかありませんでした。その様な中、垣の皆の知恵を合わせて、「草の根」から「民衆」の意味を引き出し、協力して総合2位の発表を行うことができ、大きな達成感と、協力することの大切さを感じました。

全国大会当日、私達は第3ラウンドで敗れてしまいました。最後の望みをかけた敗者復活戦の最終問題に敗れてしまい決勝進出を逃したことは残念でした。

しかし大会参加という機会を得たことで、楽しみながら(かつ苦しみながら)金融知力を高めることができ、全国の皆さんと親交を深めるという貴重な経験を得ることが出来ました。

この素晴らしい大会を開催して下さった金融知識普及協会の方々、学生スタッフの方々、スポンサーの方々、そして七十七銀行の方々、本当にありがとうございました。

秋田大会代表 秋田市立秋田商業高等学校 三年 山田 祐子

私は、今年初めてエコノミクス甲子園に出場しました。全国大会では、商業高校で三年間学んできた私より金融知力の高い方ばかりで年下という感じが全くありませんでした。そんな年下ばかりのエコノミクス甲子園でしたが、H班で考えた「オリビック×さくらたんば」では、秋田県の普通だと思っていたものが他県の人にはそうでは無かったり、ご当地ヒーローのイメージが歪にはまる人がいたりとかの気付いていなかった秋田県の魅力を知ることができてとても楽しかったです。

また、最終日のイコノホールでは、すぐに敗退してしまいましたが、3日間の間で仲良くなった他校の人の応援もあり、一緒に問題を解いてみたり、スパイを探したりと敗退した後もエコノミクス甲子園を楽しむことが出来ました。

今回初めて参加したエコノミクス甲子園で出会った皆さんの面白い人、優秀な人が同世代のしかも年下にいるということを知り、自分も負けられないなと思いました。そんな優秀な人達に負けられない、これからは金融知識を深め、自分だけでなく皆さんの役にたてるよう努力していきたいと思えます。そして、エコノミクス甲子園で出会った人達との絆を大切に、これから進路を目指していきたいと思えます。今回、エコノミクス甲子園に参加できたこと、そして全国大会にまで進めたことは私の学生生活最後の良い思い出になりました。本当に楽しかったです。ありがとうございました。

山形大会代表 山形県立山形南高等学校 二年 垂石 興起

今回エコノミクス甲子園に参加し、普段学ぶ機会が少ない経済学をたくさん学ぶことができ、非常に参考になり、楽しかったです。二日目は、特にプレゼンを考えることが大変でした。企画を作って、まとめた後、発表するというプロセスの中で、投資したくなるようなプランを完成させればよいが考えることは難しかったです。

実際に発表する際も、投資家の方々の目の前では緊張して上手に説明する事ができませんでした。

私は将来工学関係者の仕事をしたいと思っていますが、たといくら自分の商品に自信があっても魅力を説明する事ができなければ、投資を受けられなくなることを思い知らされました。

また、筆記試験や早押しに向けても、様々な勉強をしなければなりません。私は、金融知力は本当に生きていく力を養うために必ず必要のあるものだと思います。

ライフプランを立て、将来のために貯蓄はいくら必要か、どう稼ぎ、投資は何を利用すべきか、考えていかなければいけません。

その時、経済の知識を持っていて、制度や仕組みを知っていることは我々の人生に必ず利益をもたらしてくれると思います。だから、これらも時々は経済新聞を読んだり、経済を勉強したりして、自己責任の時代を生きていく必要のある我々にとって、どのような知識をどう活用して、どう選択するべきか、考えていきたいと思えます。

最後に、この大会に携わり、支えてくださった皆さん、本当にありがとうございました。

山形大会代表 山形県立山形南高等学校 二年 原田 直侑

私は、今回エコノミクス甲子園に初めて出場したのだが、数えきれないほどの良い体験が出来た。まずは、グループに別れたプレゼンである。ランダムから広辞苑から選ばれたページから言葉を探し、プロジェクトを作ると言うことだが、大きな縛りがないということから制作というものがこれほど難しいものだと実感した。また、グループの初対面のメンバーと協力して作り上げたことの楽しさがなかなかのものであった。少ない時間ではあったが、かなりの友情を深めることができた。いい思い出であった。一期一会とはこういうものなんだと実感した。

次に、日曜日に行われた全国大会での、1番最後に話をしてくださった金融知識普及協会の母と名乗っていた野中ともよさんの話である。今の世の中を生きていくためには金融リテラシーが必要であると、たくさ言われてきた私にとって逆説的な切り口があり、衝撃的であった。もちろん幸せになるにはお金は必要であり、そのために金融リテラシーも必要などである。でも、あくまでもお金は幸せになるための「道具」にすぎない。私は、本当に心動かされた。将来に僕は、幸せな家庭を築けるように勉強に励もうとも決心するきっかけにもなった。

また、野中さんは常に感謝する、という気持ちを持っていた。あの話の中で何度も何度も「ありがとう」という言葉を生徒、ス





# 全国大会感想

# Final tournament report

トップ、引率の方にまでおっしゃっていただくと私は幸せな気持ちを感じた。あのよう方リーダーとなつていけるから、ボランティアの方が一丸となり大会運営できるのだと思った。まだまだ思い出は語り尽くせないが、エコノミクス甲子園を通じて本当に良い体験ができた。

福島大会代表 福島県立福島高等学校 二年 仙台 森大

福島大会ではほぼノー勉の中優勝を勝ち取って、エコ甲のサイトにあげられた他の県大会の結果を見て、「こんなレベルの大会に自分達でついでいけるのだろうか?」と思い、不安を抱えながらも本番を迎えました。

案の定、2日目は勉強してきたはずのペーパーでボロボロ。プレゼンテーションの話し合いでも全く戦力にならず、少しは特訓してきたエコノミクスも2連敗で、あつたという間に心が折れました。相部屋の三重、川越高の人も同じような感じだったのが救いでした。(笑)

3日目の本番、第1ラウンドの早押しの問題はまさかの半沢直樹。深読みしすぎて押せない、悔しい、というくらい虚しいくらいなんでもここで終われるか?と、気合いを入れ直しました。

そして迎えた第2ラウンド。僕ら福島高はあの時点で初めて、かなり早い40点を獲得しました。勢いに乗ったの他の選択も当たりに、合計で100点。予選突破がやっと見えました。「17位くらいなら行けるかも!」そう思って臨んだ結果発表で、福高は、予選を5度で通過しました。まさか、まさかの5位。相部屋の川越高さんも通過…第2ラウンドでルール上脱落して相部屋の川越高さん(笑)

第3ラウンドで、僕らは敗退しました。悔しいです。でも、ノー勉と一夜漬けで始めたこのチームが、予選突破(しかも順位)・先客ごえの成績を残し、また決勝の問題もかなり解くことのできたことは、充分誇りに思います。やりきった感の強い終わりがたかったです。

大会でいろんな人と出会った2日間は、忙しくもとても楽しい日々でした。こんな経験をできることは他にないので、毎年うちの高校からでもうたいたいです。最後に、事務局、スタッフさん、同僚の東邦銀行の職員の方、そして他代表のみさん、楽しい思い出を作らせていただき、本当にありがとうございました。

福島大会代表 福島県立福島高等学校 二年 真壁 知希

全国大会とても楽しかったです!

ガイダンスがあって、部屋へ、相部屋だったため最初は二人でどんな人が来るのか不安に思っていました。大会が終了した今思えば最高の思い出でした。幸運なことには私たちのEJ研究部とはほぼ同じ境遇の方だったのです。2チームはすぐさま意気投合しました。

大会2日目は筆記クイズから始まりました。テキストの内容量が多くて知識を吸収しきれなかったため不安な気持ちで受けました。解き終わった後、平均割れを覚悟し、沈んでいました。その後は休む暇なくプレゼンへ。ここでは素晴らしいメンバーと出会えました。16位頃大問題に気づき、皆落胆していましたが、何とか間に合い、4位というなかなかの成績で終われたので嬉しかったです。夜、疲れたところをエコノミカルの試合が、眠くなくて私にとって精進の境界を越えた戦いに思えました。研究の成果もあって、2戦ともストックを5にして勝てました。3日目、宿舎での厳しいチェックを受けていよいよEJホールへ。第1ラウンドではあの「半沢直樹」をバラレるなしで答えさせる早押しクイズでした。

押し負けず悔しかった。しかし第2ラウンドで5位で「5倍返」を成し遂げられました。そしてなんと私たちは見事第3ラウンドに進出を果たしたのです!! 棚からぼた餅の全国出場でこのままの成績を残せるとは。だから第3ラウンドで追加された負けも全然悔しくありませんでした。その後は観戦に回り、解答者と一緒に問題を考えました。

思ったより多くの問題が分かり、さらに自分に自信を持ってました。私たちが激動の3日間は

こうして終わりました。ハードスケジュールでしたが、その分出会い、経験、喜びなどお宝は買えないものをたくさん得ることが出来ました。この大会にかかわったすべての方々に本当に感謝しています。

茨城大会代表 茨城県立土浦第一高等学校 二年 古谷 和弥

去年経歴を履修したつながらに参加させていただいた、今回のエコノミクス甲子園。まさか地方を抜かれるなんて思いませんでした。その後、いただいたテキストを読んで経済の勉強をしたわけなんですけど…まあ難しい! ゆるい理系の僕は耳にしたことのないことばかりで、かなり戸惑いしていました。ですが、テキストを進めるうちにすごくおもしろく感じまして、なんだかんだで最後まで楽しく学ぶことができました。

そして全国大会2日目、難しかったペーパーは置いておいて、いくつかの班に分かれて行ったエコノミクス広語班は非常におもしろく、経験したことのないものでした。発想からまとめ、プレゼンまで一通り経験し、大人のビジネスプロジェクトの姿や求められる力というものを垣間見ることができたような気がしました。特に、ブレインストーミング。これはほぼ初体験だったのですが、アイデアを生み出すにはすごく良い方法だと思いました。2日目、なんとお準決選にも進むことができましたものの、まわりの圧倒的な実力と歯が立たず改めて自分の力不足を痛感しました。そしてファシリタスたちの圧倒的な知識と駆け引きのうまさ。本当に驚きの一言に尽きます。将来日本の経済を動かすのはこういう人たちなんだろうななんて思っていました。

もともと私自身は上で書いたとおり理系志望で、経済なんて将来使うのかなと少し疑っていたところがありました。しかし今回のエコノミクス甲子園と経済の勉強、そして野中とよ先生のご講演をお聞きして考えが180°変わりました。今では金融知識は近代社会を生きていくうえで必須のよう感じます。今後の人生で、ぜひ生かしていきたいです。

最後にありがとうございました。このすばらしいエコノミクス甲子園を開いてくださった水谷さんをはじめ、協会や学生スタッフの皆様、地方大会からつと応援して下さった茨城大学の皆様には感謝してもきれません。本当にありがとうございました。

茨城大会代表 茨城県立土浦第一高等学校 二年 五反田 睦美

経済は一年生で履修した科目の中で一番私が苦手を感じていた科目でした。そんな私がこのエコノミクス甲子園に参加したきっかけは、我が校のクイズ部長で今回チームを組んだ、古谷君の「エコ甲というクイズ大会があるらしいけどどうする?」という活動中の一言でした。部活を思いっきり染められるのも二年のうちかなと、思い出作りのような気持ちで参加を決めました。苦手だった経済もテストという重圧から解放されるととても興味深く感じ、とても楽しく勉強することができました。(一年のテスト対策の2倍は勉強しよう…)茨城大会で優勝して全国大会が決まった時は、初めてのことに戸惑いながらもとても嬉しかったのを覚えています。

全国大会では期待と不安の日々でした。私の中でかなり大きな不安だったのが部屋割りです。相部屋だということを知りたくもなかった私は、見ず知らずの方と2泊する状況に半分パニックになっていました。しかし、相部屋になった青森代表の方もさんが気づくに話しかけてくれて…エコ甲をより楽しむことができました。ありがとうございます!!

2日目は若干緊張の抜けないまま筆記テストを迎え、そのままグループワーク、プレゼンテーションでのプレゼン、そしてエコノミカ、とこななるにも充実した1日最初で最後かもしれない!と思うほどかなり密なスケジュールでした。特にグループワークからプレゼンまで、とても良い雰囲気の中で、グループのみんなの知識や思考力に驚かされながら、テーマや内容を決め、どうしたら投資家の方々の心をつかめるかを考え、時間ぎりぎりまで資料を作り、とても良いプレゼンができたという出来栄です。グループ「TSUKUJI」の一員として参加して、プレゼン1位になることができ、本当に良かったです。

4チームでたった1問を競い合う早押しクイズから始まった3日目、ニッチ産業クイズを終えて、前日の筆記テストで壊滅的な出来を感じていた私は、きつと第3ラウンドには行けないだろうと思っていました。なので、予選通過1位で自分たちの学校名が呼ばれた時はとても驚きました。(今考えてみると、2日目のエコノミカで4戦4勝だったのが大きかったのだと思います。)第3ラウンドを勝ち抜いて迎えた第4ラウンドでは、周りのチームのレベルの高さと自分の知識不足を思い知らされました。決勝を前にしての敗退はとても悔しかったけれど、良い勉強になりました。

大会を通して、私は、全国の様々な人と交流を深めたり、普段ではできないことを経験したりして見聞を広めることができました。それはすべて全国大会に携わってくださった皆様のおかげです。金融知識普及協会の皆様、社会人・学生スタッフの皆様、茨城大会からいろいろとお世話になった筑波銀行の皆様、ならびに、私たち後輩の応援に来て下さった土浦一高OBの皆様、本当に本当にありがとうございました。

栃木大会代表 栃木県立矢板東高等学校 二年 羽藤 晶

白熱した全国大会も終わり、ほっと一息ついて今回のエコノミクス甲子園を振り返ると、本当に色々なことがあったなあ、と思います。

もともと経済に興味のあった私ですが、新聞でこの大会を知り、「おもしろそう出てみようよ!!」と小室君を誘ったのがきっかけで参加した栃木県立矢板東高等学校です。私も早押しやボードでの回答といったクイズ自体がズブの素人であった私は、唯一の武器である「冷静さ」を生かして戦いました。強豪がいる中で初代栃木大会優勝にその名を刻むことが出来た。本当に嬉しかったです。地方大会の後には全国大会に向けて勉強の日々でした。頂いたテキストは勿論、新聞やテレビで報道される経済ニュースにも注目して、金融知識を高めました。難しい勉強でしたが、普段学校では教わってくれない内容ばかりでとても面白いものでした。

そして迎えた全国大会本番。2日目は本当に目まぐるしい日でした。朝一番にいそいそ実施された筆記クイズで知識をこぼり絞られた後はグループに分かれて早押しクイズの準備、プレゼンの準備では、ほぼ初めに分かれた他のチームのディスカッションに多少の不安がありました。しかし、いざ始まるに白熱した話し合いが展開されました。もともと議論が好きなのですが、本気で人と意見をぶつけ合う(議論)したのはこれが初めてでした。その後のプレゼンも含め、このプレゼンクイズは私にとって、今後に生かされるとも貴重な経験でした。重なお話を聞かせていただきました。そしてお待ちかね「エコノミカ大会」では、一勝一敗のまずまずの成績を収めました。その時、隣に座っていた松山西の方に見せていただいたデッキがリスクバジだけだったことも印象的でした。エコノミカ、奥が深いです。そして3日目、全国大会、第1ラウンドの早押しは問題文を深読みしすぎて押せず、第2ラウンドの「ニッチ産業クイズ」でも知識不足で苦戦しましたが、なんと9位で通過第3ラウンドへと進められました。しかし、この第3ラウンド「産業スパイククイズ」がたいそう戦略性の高いラウンドで、私たちはスパイを見破れないどころかスパイにまんまと騙され敗退。敗者復活ラウンドでも「粉飾決算」の字が分からずここで敗退に終わりました。これにより用語の漢字を覚えることも重要であることが痛感させられました。優勝した千葉高の皆さん、この場をお借りして、おめでとうございました。

全国大会に参加して感じたことは、「単純な金融知識だけを競うものではない」ということです。地方大会のときはストレートな一问一答、単純な知識を問われました。しかし全国大会はそこら派生して、一筋縄ではいかない、自身が持つ知識を総動員して自分の答えを導くことが試されたような気がします。さらに、グループでのプレゼンを通して、社会において必要な協調性や相手と納得できるように意見を構築する力を見つめ直したと思います。これはエコノミクス甲子園だけに限ったことではなく、これから生きていくうえで本当に必要になるものだと感じました。また、エコ甲の勉強をしたことで、実際のニュースの身が前より深く理解できるようにもなりました。エコ甲に参加して本当に良かったです。

最後に、今回の出場にあたり、一緒に参加してくれた小室君、地方大会を開催していただいた足利銀行の皆様、全国大会と同行していただいた高林さん、エコノミクス甲子園事務局や運営スタッフの皆様、そして私たちに応援してくれた家族や友人、学校の先生方、本当にありがとうございました。エコノミクス甲子園の今後のさらなる発展を祈っています。

栃木大会代表 栃木県立矢板東高等学校 二年 小室 竜也

初の栃木大会代表としてこのエコノミクス甲子園全国大会に参加できたことを非常に嬉しく思います。僕がエコノミクス甲子園に参加したのは相方に誘われたことがきっかけでした。はじめは軽い気持ちで勉強していたのですが、ある日、一問一答形式で問題を出し合っていると僕の不正率が高くて焦りが生じてきました。しかし栃木大会まで日数が長く数えられるほどしか残っておらず、結局は相方に頼ってしまいました。

全国大会では自分も金融知識が身につけていることを示すため、より一層勉強しました。今なら学校の友達に解説できています。けれど全国大会では自分たちが金融商品のプレゼンをするベンチャー企業になる? 加えて本物の投資家をやる? そんなの聞いてません。

僕たちのプレゼンは他県の人がたまた協力し、なんと3位を獲得しました。はじめは一体どうなるのか不安でしたが成功してよかったです。この成功も同じプレゼンのグループになった人たちのおかげであり、僕はまだまだ知識不足だと思ひ知らされました。それと同時に、抜き打ちのペーパーテストやエコノミカ、早押しクイズなどで実力を発揮している人を見てると素直に尊敬の念が湧くかと思つた。こんなにすごい人たちがと競い合うことが出来たかと思つた。無量なこの大会を通して、全国の高校生と知り合えることができ、今までの日常の勉強におけるコペルニクス的な転回が起こりました。この経験は必ず自分の糧になるはず。今後の人生でも必要な金融知識をさらに磨いていきたいです。

最後に、私たちが、全国大会に尽力して下さった皆様、出場者の方々、さらに栃木大会に尽力して下さった皆様を中心に感謝申し上げます。

群馬大会代表 群馬県立前橋高等学校 二年 八木 宗一郎

エコノミクス甲子園の全国大会を終えて、「勉強」「部活」に次ぐ高校生活の3本目の柱に「エコ甲」を据え、全国優勝を目標に、武藤君と二人三脚で突っ走ってきた1年半が脳裏に鮮やかに思い出される。

全国大会では、筆記や早押しクイズである程度の手ごたえは感じることができたが、第3ラウンドで勝ち抜けることはできなかった。私は事前に敗者復活戦の存在を知っていたので、今回もその瞬間から心を折ってはいない。来賓の方から実施されるのが宣言されると、私は武藤君と「絶対に行こう!」と宣言して手を突き合わせ合意を取った。そして、37チームが後々消えていき、我々は残った3チームの1つになっていく。そして忘れていたことのできない決勝進出の1チームを決めた三択問題は「現在のFRBの議長は誰か?」というものでした。我々、イイレ氏が次期総裁に決定したが、今はバーナンキ氏が総裁であると考えた。しかし、正解はイエレン氏だった。後になつて分かったことだが、なんと彼方は、このエコノミカの日目から総裁に就任していたのだ。私は中学生の頃から新聞に目を通し、時事的なことには自信があった。しかし、大会直前には非常に忙しく新聞に目を通すことができていなかった。自分が油断していたという事実を痛感させられた。我々のエコ甲はここで終わってしまった。

今は悔しい気持ちと寂しい気持ちでいっぱいである。寂しさは、自分とついで2日間がとても楽しく充実していたというこの証ではないかと思う。そしてこのエコ甲に出会うことができて本当に自分は幸せだと感じることができた。それは力を合わせて頑張ることの素晴らしさと、悔しいながらも達成感を味わうことができたからだ。また、今回得た、金融・経済の知識は、生きていくことそのものに役立つばかりでなく、理系に進む自分にも新しいものの見方や知識を与えてくれる強力な武器になるのではないかと考えている。武藤君とここで戦ってきたことを誇りに思い、エコ甲で得られた力がえのないものを胸にこれからも頑張っていきたいと思う。

最後にペアの武藤君はもろなること、友人や家族並びに金融知識普及協会、群馬銀行、大会を支えてくれた方々、相部屋だった鳥取西の人と一緒にプレゼンを作り上げた山形南・甲府南・佐世保北の六人に対して感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。そして、エコノミクス甲子園の益々の発展をお祈り申し上げ、報告書とさせていただきます。

群馬大会代表 群馬県立前橋高等学校 二年 武藤 宗

そもそも私がエコノミクス甲子園に出場しようと思ったのは教室に掲示されていた参加募集の貼り紙に「NYに行ける!」と書いてあったのを見て、ちょっと面白そうだと感じたからです。好奇心に駆られて臨んだ甲府南、地方大会では惜しくも3位に終わり、悔しい思いをしました。そこで今年こそは優勝して絶対に全国大会に出場するぞ!と意気込み経済について幅広く学んできました。そのおかげで昨年の12月に開催された地方大会では全員の初符を手に入れることが出来ました。優勝が決まったときは、嬉しい気持ちとともに「次はNYに行ってみよう」と気持ちを切り替えました。そんな気持ちで臨んだ全国大会は2日目の朝から筆記テストを行い、昼から夕方にかけてはプレゼンの準備・発表を行い、夜はエコノミカというように多忙なスケジュールであったために一日があつたという間に過ぎたのです。筆記テストは記述式であったのと周りの人たちが全員が強そうに見えるので不安に駆られました。プレゼンでは10チーム中9位という結果ではあったことは残念だったけど、山形南、甲府南、佐世保北チームと一緒に準備できたことをとても嬉しく感じています。エコノミカでは相手の八木君と何回か対話したため大変重要な結果に終わりました。あれくらいは絶対にお風呂の中「明日巻き返そう!」と決意してその日は早く寝ました。いよいよ大会3日目になり、今日で準決勝が行けるかを決めようと思うと身が引き締まりました。プレゼンでは先客より正解し、ニッチ産業クイズでは40ポイント獲得し、第3ラウンドに進めることではないかという希望が見えてきたと感じていました。しかし、昼食後の発表ではあんなに祈っていたにもかかわらず、18チームに入ることができず、何もかもが崩れかけた気持ちになりました。そのことと希望していた私に八木君が「まだチャンスがあるかもしれないからあきらめずに気持ちをなげなさい」という言葉をかけてくれて、そこで私は気持ちを立て直しました。期待した通り、敗者復活ステージが行われ最後の望みを三択クイズに託



# 全国大会感想

# Final tournament report

しました。苦戦しながら残り3チームまで残り「決勝に行けるかも」と思ったところで負けてしまいNYへの挑戦はそこで終わりました。今でもその悔しさを忘れていないし、これから先も悔しが色あせることはないでしょう。そして、ここまで八木君と力を合わせて戦ったことを誇りに思っています。

最後にこのように素晴らしい体験をさせていただき本当に感謝しています。また、大会を運営してくれた銀行の方々どうもありがとうございました。

埼玉大会代表 埼玉県立春日部高等学校 三年 岩田 翔

参加のきっかけはもちろんニューヨーク研修だった。元々お金のことに興味があり、金融や経済については小さいころから吸収してきたため、特別な準備なく全国大会に上がることができた。その後ネットでも過去大会の様子を見て、レベルの違いに気付いた。それから、いろいろ勉強した。大変だったのは、何をしたいのか自分で考えないといけないということ、金融経済についての勉強をしようと思ったとき、漠然としすぎて何をしたらいいのか分からないということだった。純粋な経済学、経済の歴史、世界経済、金融、ビジネスなどは比較的勉強しやすかった。しかし、それ以外の細かい分野が、調べてもなかなか見つからなくて困った。なので、新聞を読み、ニュースをチェックし、新しい知識を吸収して、全国大会に臨んだ。結果は残念ながら準優勝。やってきたことは大体合っていたため、ハジメマシテの問題は無かった。緊張さえしなれば(今更々遅い、)。

初めはニューヨーク研修が取れなかったら意味がないという気持ちだったが、今は違う。ここで得たプロセスがどうも価値のあるものだったと言え。先に書いたように、ただ勉強するのはなく、どうやって勉強するか、多くの勉強の仕方、種類について、全国大会中のプレゼン準備の計画、リーダーシップの重要性など多くのことを学んだ。また、全国のポテンシャルの高い高校生たちと意見交換し、ネットワークを築けたことは良かった。

これからは、吸収してきた知識をどう未来に活かすか、世界に貢献できるかということを考えて、努力と挑戦を続けていきたい。

埼玉大会代表 埼玉県立春日部高等学校 三年 岩田 翔大

地方大会開催の3週間ほど前、相方に「一緒にニューヨーク行こうぜ!」と言われ、「いいよ」と答えたことが全て始まりだった。大会当日まで1日6時間ほど勉強したため、地方大会では問題が難しいと感じることもなく全国大会への切符を手に入ることができた。

全国大会では難しい問題が出て聞いていたので、直前の2週間1日あたり勉強量を10時間増やし、ネットに出ている経済用語をはじめ、図書館に行き「経済・金融関係の本を順番に読んでいた。このような勉強方法だったので、大会当日までには金融(特に債権や資産運用)の知識はオタクレベルになっていた。

また、Ustreamで過去の動画を研究して「今年のプレゼンはオリンピックを活用したベンチャーをやりそうだな」と勝手に予想して相方とプレゼンの練習をしたりもした。

いよいよ大会2日目。筆記試験で産財を抜かれた。地方大会よりはるかに難しく感じた。続いてプレゼン。まさか本当にオリンピックテーマになると思って見なかった。「これで勝ち組じゃん」と思っていたが、あの短時間で完成度が高いものを作成するのは意外と大変だった。だが、仲間たちが積極的な意見を交わしてくれたので、とても楽しく充実した時間を過ごすことができた。

3日目、ここから俺たちの本領発揮だ!...と思っていたが第2ラウンドの「ニッチ産業クイズ」でまたしても産財を抜かれた。なかなか相手の考えているものが予測できなかった。結局、1問しか正解できなかった。

予選を通過して次は第3ラウンド!「産業スパイククイズ」ではメンバーに選ばれた。千葉や岐阜県のおかげで楽に勝つことができた。

第4ラウンドの「アカウンティングクイズ」では日頃の勉強の成果がでた。普段から語句を覚えるだけでなく、その説明もできるように心がけていたのがよかった。

...ついでに決勝! ボードクイズは最も得意な分野だったので勝つ自信しかなかった。だが、実際はそんなに甘いものではなかった。プレッシャーが重くのしかかり、取れる問題も2、3問落としてしまった。ほとんどミスななかった千葉に敗退してしまっ。

「ニューヨーク行きたい!」から始まったエコノミクス甲子園の参加を通して、金融の知識にとどまらず、広く世間を観察すること、仲間と協働して物事に取り組むこと、独自のアイデアを他人に説明すること、など様々なことを学ぶことができた。今回の体験を将来の活動に生かしていくと同時に、周囲の人にも自分の持っている金融知識を伝えていこうと思う。

なお今回一番楽しかったのはエコノミクスである。言うまでもなくエコノミクス対策も万全だったの誰にも負ける気がしなかった。ただ1人、エコノミクスの創生者にこそは悔しかった。

最後になりましたが、金融知識普及協会の方々をはじめ、関係者・学生スタッフの皆さん、全国の仲間たち、本当に楽しかったです。ありがとうございました!

千葉大会代表 千葉県立千葉高等学校 二年 並木 亮

エコノミクス甲子園に出ようと思ってから、あっという間に半年近く過ぎ、エコノミクス甲子園全国大会が始まったと思いきや、あっという間に終わって、いつの間にか高校の受験体みになっていた。

まずは、全国大会の出来事を一振り返ってかみようと思う。一日目は、宿舎に集まり部屋の鍵をもらって一方で、エコノミクス交流会もあった。集まる相方は広島県。最後まで初々しい二人だった。そして佳境の二日目である。まずは、筆記クイズ。内容は一通り勉強した範囲だった。論述も学校のテストで鍛えられているだけであって、よく答えたと思う。実際、89点のトップだったのは嬉しい。ところで、分らなかった問題「マツモトキヨシ」の答えが気がなな未だ夜も眠れない。将来エコノミクス甲子園スタッフになって内部資料を入手するまでの後援である。

少しの休憩を挟み、投資家向けプレゼン大会が始まった。ここ

は、一番悔いが残るところだ。ヌケン級に体力の無い僕はすでにクタクタ。午後の話し合いはすっかり上の空だった。夕食はちゃんと頂いたが、肝心の発表のほうではPR係で、どうやらプレゼン頑張ったと思いつつピラ配りをしていて、結果は最下位。無念であり、もっと責められたと後悔している。社会人は体力勝負だと痛いほど思い知らされた。

続いて、夜のエコノミクス大会だ。うん。キャンパー。以上。緊張のあまり寝不足なんてこともないほどに疲れていたおかげで、ぐっすり眠れたので三日目、本当の本番である。始めは、1R(ファーストラウンド)大会を早押しクイズ。あっという間に終わっていった。早押しは難しい。続いて、2Rニッチ産業クイズである。解答がオープンされる度の観客席高校生の盛り上がり方は、ドキドキハラハラな気持ちのまま出ていたようだった。ブランドの意味を誤解していたのが解けて良かった。宮城県最低賃金が700円以下(696円 2014年現在)というのにはびっくりだった。

そして、3R産業スパイククイズ。の前に食べたカツサンドは大変美味しかったです。ここで、40チームから18チームに絞られる。前日の筆記テストからプレゼン、エコノミクス、当日の1・2Rまでの結果の総合により3R進出者が決まらないうちにここで脱落したチームの中にも手強い好敵手はいたらう。僕たちが勝ち取ったにも運が良かった面もあった。さて産業スパイククイズでは、僕たちはスパイクだったが、相方が話し合いを小田原評定に持ち込んだおかげで勝利できたといつてもいい。一方の4択クイズはボロボロだった。

次は、18→6チームになり、準決勝である。目の前には、大量の配線ケーブルと壊れやすいボタンとランプ、つまり、早押しクイズではないか。苦手を早押しにヒヤッとしたが、問題があらがじめ読まないと聞いてホッとした。この準決勝より、半年の勉強の本領が発揮され、早押し?で決まった順番に従って全問正解できた。そして、準決勝を勝ち抜いた僕達は刑法に接触しない範囲で休憩室に監禁された。外では何が起きているのかさっぱり分からなかった。そして、会場で敗者復活戦が行われているなんて全く知らなかった。知っていたのは前日にPR係の議長が交代したということである。

そしてとうとう決勝である。決勝は、ドミナント戦略クイズというものであった。ボードクイズで不動産売買と聞き、日本地図も出てくるのかと思ったら、現れたのはまさかの山手線だ。鉄分の濃い僕は少しだけほそ笑んだ。ここで最も勉強内容はさぶる発露できた(2問間違えたのは悔しい)。問題の難易度は3Rよりかなり簡単だった。きつと敗退チームでもこれなら答えられたと歯がゆい思いをしているところは多いだろう。

決勝が終わる、舞台から退場し、表彰式でもう一度舞台上に上がるまで、また、あっという間だった。優勝の栄誉を頂き、筆記最優秀の表彰をいただいた。その後に関東組でまた新宿に繰り出したときの事は一生涯忘れない。こうして、およそ60時間の回想を終えたことになる。

最後に、エコノミクス甲子園を通じて、日本全国の高校生と交流できた経験は、優勝の栄誉と同じくらいに残った。欲を言えば、もう少し交流の時間が欲しかった。とはいえ、忙しいタイムスケジュールの中からも少しでも交流の時間を設けてくれたスタッフの方々、千葉銀行と千葉興業銀行の方々、応援してくれた友人や家族、そして158人の高校生と相棒には大変感謝します。本当に楽しかったです!

千葉大会代表 千葉県立千葉高等学校 二年 池田 麟太郎

クラスの皆や先生方のエールを受け、地元の千葉を後にしたはいよいよの、自分が県の代表だなんて、未だに理解できていないままに会場へと向かいました。そのくらいに緊張していたのだと思います。それから約3日の後、まさか全国制覇を成し遂げられた、夢にも思っていませんでした。

あの日から10日ほどが経ち、ほとりもだんだん冷めてきて、この感想を書いている今になって漸く、「ああ、本当に優勝したんだなあ」と改めて実感しています。

2月2日の全国大会の前に、様々なアクティビティーがありました。まったく違う都道府県の人たちが、一堂に会し、そのビジネスを考案したり、エコノミクスを通して交流を深めたりするうちに、ほんの数時間、数日間に初めて知ったとは思えないほどに親しくなることができた。そのおかげか、2日の全国大会は、比較的リラックスして臨むことができたと思います。ただ、仲つよくなる分だけ、この中から2人だけが、「優勝」の文字を手に入ることができたというわけで、そして、エコノミクスが終わってしまうということがまた信じられないような、不思議な感覚をも覚えました。

全国大会、2次ラウンド終了時の40→18チームへの絞り込み……。あの瞬間が最も緊張していました。「もしも入っていきなったらどうしよう...」自分のせいかもしれない...と、次々と呼ばれていく他の上位チームの名前を聞きながら背中から冷たい汗を大量にかいていたの思い出します。結果は、かなりギリギリの15位通過でした。非常に安堵したのを覚えています。

第3ラウンドで裏切りのスパイクを何とか減じ、第4ラウンドは早押し要因としてボタンを連打し、相方のおかげがかなりを助けてくれた。決勝ラウンドに進むことができたが、[何か夢も見ていたのでは...?]と、い、何度が涙をつねたりもしていましたが、現実でした。嬉しい反面、非常に動揺していたと思います。

決勝ラウンド。の前の敗者復活戦。控室で他の2チームとUstreamで生中継を見ていたが、2日間同じ部屋で寝食を共にした広島が勝上ってきたときは、非常に嬉しく思います。

いよいよ決勝ラウンド。問題の答えは知識豊富な相方に任せればよいと思われ、戦略を練ることに専念しました。普段のエコノミクス対策で、知識において相方は適わないと思っていたので、後割分指すことはよかったのかもしれません。そのおかげもあって、優勝することができました。

優勝が決まった瞬間、何を思ったんでしょう...。自分でもよく覚えていません。おそらく、「本当に優勝したのか?」という戸惑いと、「やっとなら...」という達成感との間を行ったり来たりしていたのだと思います。直後のインタビューでは、本当に言葉が出てきませんでした。

優勝賞品として、ニューヨーク研修旅行をいただきました。これを書いている今からおよそ1ヶ月半後に、ニューヨークへ飛び出しています。今より「より充実した、密度の高い経験」ができるように、可能な限り準備を進めていきたいと思います。金融知識のさらなる強化、グローバルスタンダードである英語の体得

.....などなど、エコノミクス甲子園期ではないにしろ、やるべきことが依然として山積している毎日です。

ニューヨーク研修旅行も素晴らしいものなのですが、エコノミクスを通して得た一番のものは、「仲間」だと思います。全国各地から、真に尊敬に値するような人材がたくさん集まってきました。実は、エコノミクス後に埼玉代表、東京代表の子たちと食事をしたのですが、その席で、改めて、「本当に優秀なだけなあ」と痛切に感じました。ここでいう優秀とは、決して勉強だけが得意であることを指すのではなく、彼らは何故優秀なのか。それは、自分のポジションを客観的に見つめ直し、さらにその中をもキチンとした視点から見渡すことができ、自らの明確な意志によって生きているからです。そんな優秀な仲間に出会えたことが、このエコノミクスに参加して一番よかったと思う点です。自分も非常に刺激を受け、これから進みたい方向がより明確に定まったように感じます。

エコノミクスを通して得た仲間との絆も大切にしながら、これからの人生においてこれらの経験が糧となっていくことを大いに期待して、小さい者ながらも、大きく成長できるように日々努力していきたいと思っています。

最後に、エコノミクス甲子園に携わってくださったすべての方々に、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

東京大会代表 東京都立立川高等学校 二年 山本 遼

全国大会の前、クラスメートに「手ぶらで帰ってくんよ」と言われていた。僕は個人賞と、それ以上にかけがえない「人間力」をエコノミクスから帰って帰ってきたことができた。

この大会において、僕は積極的に高校生の中でリーダーシップをとってみたいと考えていました。そして、2日目のプレゼンでは班長をやらせていただきました。自由競争で勝ち残るために必要な「差異」をいかに生み出せるかを考えました。とにかく自由な発想を導き、みんなが発展させられたことが僕たちの成功のポイントだったと思います。

プレゼンの結果は、1位、そして僕はベストセラー賞を個人賞でいただきました。予選通過を班員全員果たしたこと、それがプレゼンのおかげであったことはこの上ない喜びでした。努力が班、個人ともに結果として表れてくれましたが、班員全員が自分が班のために何ができて何が投資家何を求めるかという基本を忠実にできた結果だと思います。

クイズの方は学校の中心の応援もあり、日本一を目指して全力で勉強しました。3R敗退でしたが、努力でもうよかったです。この勉強は自分の将来に直結する勉強であり、さらに自分の夢を具体化することができました。形式は実際の経済に即してはいるように、おもむきもたされた。ただ、3Rが選任せよ的な点、勉強の結果を評価してもらった方向に多少変えていく必要はあると感じました。

エコノミクスは、知識だけでなく、実際の経済活動や社会で生かしていくのに必要な「人間力」を教えるための大会だと思います。

3日間、たくさん高校生と話ししました。社大な夢を持ってたり、すばらしい考えを持ってたりする素晴らしい人に出会えました。とても楽しかったです。この80人は、これから交流を続けていきます。得た夢に向けて手を携え、高めあっていくつもりです。

エコノミクスで得た「人間力」と「金融知識」をさらに伸ばして、夢に向かって日々邁進していきます。そして、スタッフとして戻って来て、たくさんの人々エコノミクスの素晴らしさを伝えていきます。エコノミクスに関わる全てのみならず、ありがとうございました。

東京大会代表 東京都立立川高等学校 二年 宮城 智

昨年初めて参加し、そこでは決勝に進出することが出来なかったエコノミクス甲子園。今年では着々と準備を重ね、東京大会で優勝することができた。東京大会では相方に頻りに懇話が多かったため、全国ではもっと頑張らねばと思った。だが、生徒会の活動が忙しかつた一週間前はほとんど準備できなかった。せめて少しでもと思い、突貫工事で何とか教材は読み切ったという感じだった。

そして1日目、学校が終わった後出発した。到着後エコノミクスで他校の全国進出者の皆さんと交流を深めて、このようなおもしろく、知識がえられる方々と一緒にクイズが出来るのかと思うと楽しくなってきた。

2日目、やはりこの日一番印象に残っているのは壁新聞作成とプレゼンテーションである。初めはどのようなものになるかわからなかったが、話し合いを進めていくうちに内容がまとまりチームメイトと協力して完成させられたことがうれしかった。プレゼンテーションも大勢の投資家相手に呼び込みをしつたり大変だったが、とても良い経験になった。

3日目、イオンホールでの全国大会。大発会早押しクイズでは2択を間違えてしまったが、その後のニッチ産業クイズではまずまずの結果。そしてベスト18の発表。プレゼンクイズ1位という嬉しい結果のおかげか11位で予選通過。そしてプレゼンと同じだったチームも全て通過というもううれい結果だった。そして待ちに待った3ラウンドは産業スパイククイズ。ルールがかなり難しく大変な戦いになると覚悟して臨んだ。そして正社員だった開始2問目スパイクと勘違いされ退場するはめに。ルールがルールなのでしようがないと思ったが、仲間同士で疑心暗鬼にさせるルールはちょっとつらかった。

なにはともあれ、全国の高校生とこんなお話をし、楽しい時間を過ごせたのはとても良い経験となった。今回の感想文を書いている間も全国大会を共に闘った仲間やライバルのみんなのことが浮かんでくる。

最後にスタッフの皆さん、本当に素晴らしい大会をありがとうございました。

神奈川大会代表 聖光学院高等学校 二年 横谷 健太郎

エコノミクス甲子園——全国大会に出るまで、正直言って気軽なものだろーと思ってた。しかし、僕の幻想は消滅した。勉強もめんどくさい。みんなが楽しそうに頑張ってくれていたが、真剣に勉強を続けていくことが分かった。前日の夜回りの人が来るまで、勉強したことが今は懐かしく感じる。

結果は悔しかった。プレゼンも良かったはずなのに。現実





# 全国大会感想 Final tournament report

案外甘くない。僕自身なのでこの問題が分からないのだろうと半ば焦りながら、スパイの千葉高校が見抜かず負けてしまい、敗退。敗者復活も簡単に負けてしまった。

もちろん、エコノミクス甲子園は悪いだけではなかった。地方の普通に学校に通っているだけでは絶対に接することのない高校生と知り合えたことというのは、貴重なとても良い経験だっただろう。しかし、負けた。大会前、前回4位の先輩を超えると思いきや、この、こんなにあっさり負けてしまった。勉強不足以外何物でもない。ただただ悔しかった。正直、決勝は見なかった。あまりにも悔しかったので、見たら泣いてしまおうと思ったから。優勝が千葉高校に決まった時、拍手をしながら、内心素直に喜べなかった。大会前、その地位を狙いに行ったことが頭にあったから。相手は満足だったようだが、僕は決してこの結果に満足しているわけではない。来年は受験生となるが、それでも新しい相手を見つけて、またイノホールに戻ってきたい。そして、今年の千葉高の座を貪欲に狙っていきたく思う。

神奈川大会代表 聖光学院高等学校 二年  
藤江 教貴

初めはやる気ありませんでした。相手の横谷君のギリギリに負け、「とりあえず出てやろう」と思っていたが、神奈川大会でなぜか優勝してしまい、全国大会に行くことになったのです。嬉しいとは思っていましたが、何より驚きでした。

それから、全国大会を目指すという事ですが心を入れ替え、勉強をつづけました。いつの間にか僕は全国大会の力を築き上げていきました。

そして、全国大会を迎えました。しかし、残念ながら僕は第3ラウンドで負けてしまいます。ニューヨーク研修旅行を目指してきたくも達成感、充実感がありました。

その理由は、簡単なことです。僕は、この3日間が非常に楽しかったからです。全国から集まった様々な方との交流は非常に豊かでものでした。同じ部活の他県代表の方や、プレゼンクイズのメンバーの方々がとても良い人たちが協力してくれました。懇話会のメンバーの方々がとても良い人たちが協力してくれました。懇話会のメンバーの方々がとても良い人たちが協力してくれました。懇話会のメンバーの方々がとても良い人たちが協力してくれました。

新潟大会代表 新潟県立国際情報高等学校 二年  
遠藤 一太

私はこの大会に参加し非常に多くのことを勉強させていただきました。具体的に書きますと、まずは経済の知識についてです。私は経済についての知識はあったと考えていたが、この大会に参加してきて、まったくそれが見当違いの考えであったと自己反省するに至りました。私が聞いたこともないような、あるいは、知っているにもかかわらず説明することが困難な事象などが多くはありました。私が自分で経済に詳しいなどと思っていたことを反省し、もっと勉強してはならないと気付かされるものでありました。

2つ目は、前夜祭のプレゼンテーションについてです。私は大会前にはこの大会は2人のチームでずっと戦っていくものとばかり考えており、プレゼンテーションを他県のチームの皆さんと協力して作成して発表するというようなことがあるという事を想定していませんでしたが、あとから考えてみればこの経験は非常にためになるものでした。具体的に何がどう段になると、明らかにすることが困難なんですけれども、あえて言うのであれば、それはチームワークでしょうか。具体的にどの言葉がたいですけれども、昨日初めて顔を合わせた、しかも他の都道府県の方々と、アイデアを交換して構想を練ってそれをまとめる実際の投資家の皆様と交流したという経験はもちろん今までの人生では到底体験できなかったものであり、その意味で言えば非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。私にとってこの大会で得たことは、ここに書いたことだけではないこと言うまでもありませんが、自分のなかでとくに文章としておきたいことは以上の2つであります。

新潟大会代表 新潟県立国際情報高等学校 二年  
竹内 大雄

キャリアバックを駅のコインロッカーから出すときに持ち手が壊れることから僕たちのエコ甲全国大会は始まりました。幸先は悪かったのですが、しかしながら3日間の大会を楽しく過ごしました。プレゼンのためにはほかの3道県の代表とチームを組み熱く語り合いました。初対面の人とあんなに語り合うことはほとんどないでしょう。そのおかげで回結し、何と発表をこぎつけることができました。結果は10チーム中7位でしたが、最高の仲間を作ることができたと思います。筆記や早押しクイズは難しく、全国の強者に圧倒されましたが、普段では経験できないことをさせてくれたことに楽しかったです。

思い出せば12月、新潟大会でビハインドで迎えた決勝戦最後の問題。あれに答えられなかった僕たちは全国には出られませんでした(滝川クリステルに感謝!)。でももっと感謝しているのは、ともに参加し戦った、というよりもほとんどの問題に答えてくれた相手の一太です。また大会を運営してくれた金融知識普及協会の皆様、ボランティアの皆様、スポンサーの皆様、応援してくださった全国の銀行の皆様、本当にありがとうございました。次の新潟県代表はじめ各都道府県の代表が来年全国で活躍することを期待しています。

富山大会代表 富山県立高岡高等学校 二年  
森田 康明

現代社会の授業中に配られた一枚のチラシがエコノミクス甲子園に参加するきっかけだった。同じ探究科学科文系の生徒に負けたくない、そんな安易な気持ちから剣道部仲間の山崎君を強引に誘い込み、理系二人で地区大会に挑んだ。富山大会では同校の後輩たちとも戦うことになったが、予選、決勝ともに何とかが一位で全国大会への出場権を掴み取った。

そして全国大会。地方大会の比ではない内容の濃い筆記テストも忘れ難い。やはり一番印象に残るのは二日目に行われた「エコノミクス広辞苑」だ。「オリンピック×携行」の連想のもとでベンチャー企業と、いかにして投資家たちから多額の投資を得るか。理系の私は研究発表の経験はあっても、一から自分たちで考えたアイデアを「売り込む」というプレゼンテーションは初めてで、これは大変有意義な経験となった。三日目本戦では運も実力も足りずに終わってしまったが、同年代のハイレベルな全国精鋭の仲間たちが、何事に対してとも真摯に向き合う姿勢に大いに感服された。彼らとふれあい話し合ったこの大会は、私の中でひととき心に残る一生ものの思い出となった。

今後このエコ甲を通して学んだ金融知識を自分のため、そして人のため、世界のために役立てていきたいと思う。

最後になったが、本大会に参加するにあたりご協力くださった高校の先生方、友人たち、大事な北信越大会の試合を欠場し旅立つ僕々を快く送り出し応援してくれた剣道部員、見えないところで我々に支えとなりご尽力くださった地銀、協会、ボランティアスタッフ、大会運営に携わった多くの方々、そして一緒にチームを組んだ春日部、高知学芸、鳥取西の仲間たち。すべての皆さんに心から感謝申し上げます。本当に充実した楽しい3日間をありがとうございました。次回こそは、後輩たちが我が高岡大会を三期に渡る全国制覇の夢を成し遂げてくれることを強く願っている。

富山大会代表 富山県立高岡高等学校 二年  
山崎 智史

僕は第八回エコノミクス甲子園全国大会に出場し、多くの思い出をつくることができました。その中でも特に印象に残っているのは、二日目のグループワークの時間です。事前に引いたくじをもとに4チーム一つのグループとなり、企業を立ち上げるというものでした。最初は同じ組になった他のチームのメンバーから分らない状況でしたが、与えられた時間があまりにも少なくて一致団結してポスターの方向性から決めていきました。僕たちは「携行」という言葉をキーワードに遊び活動を取りかかれました。議論を開始した時は僕自身どうしていいかわからず口数が少なかったけれど、時間が経過するにつれ空気が軽くなり、自然と議論を展開することができました。また議論の最中についてい方が展現してしまっこともあり、地方の話語が出るなどややかわしい雰囲気を楽しみました。ポスター制作の時は迫る制限時間になりながらも、なんとが班員が協力して満足いくものに仕上がった時の達成感を今でも思い出します。プレゼン終了後は緊張がほぐれ、グループの団結力も感じられました。その結果、大会当日に同じグループのチームが決勝ラウンドに進出し、時は自分たちの事のように嬉しく、精一杯応援しました。

このようにエコノミクス甲子園に出場すること、経済に関する知識はもちろん、同グループのチームとの大変な絆を得ることができました。この大会に出場できたことが本当に幸せであったと実感しています。

最後に今回の大会に協力してくださった金融知識普及協会のみならず、学生スタッフのみならず、スポンサーのみならず、そして北陸銀行のみならず、本当にありがとうございました。

石川大会代表 石川県立金沢泉丘高等学校 二年  
川野 将太郎

今回、部活の先輩から受け継いだ悲願のエコノミクス甲子園全国大会出場ということもあり、緊張と不安を抱いて全国大会に臨みました。しかし、いざ大会が始まると他グループと協力してプレゼンやエコノミクスを通して他校の代表の方々と楽しく競技をすることができ、そんな気持ちで和らいて競技に専念することができました。結果としては心残りなことが多くありますが、チームメイトともにも他のチームと経済学のクイズで競いあえたのは良い経験になりました。

もともと、私が経済を学び始めたきっかけは、クイズ研究同好会の一員として現部長(会長)と一緒に昨年のエコノミクス大会の地方大会に出たことがきっかけでした。学び始めた当初は学校の授業で習った程度の、ほんの少しの知識しかなく、全国大会出場はなりました。それから一年、部活動を中心に少しずつ経済が経済の勉強を続け、ついには今年全国大会へと胸を進めることができました。自分の中では今回の全国大会はいわばボーナスステージのようなもので、自分の持っている全力がどの程度適用するのか、という思いで挑戦しました。しかし、やはりというか、全国のレベルは高く、自分の未熟さを痛感しました。

これからはこの大会で学び得たことを生かして、もっと経済について様々なことを学び、社会に出てから役立てられるよう精進していきます。

石川大会代表 石川県立金沢泉丘高等学校 二年  
南 智和

その3日間はあっという間に終わった。エコノミクス甲子園というものの恐ろしさは早朝からやってきた。2日目朝の筆記クイズである。問題形式の追加に初回に苦戦を強いられた。それが終われば息を付く暇も無くその日の夜に行われるプレゼンクイズの説明が始まった。それによると、何と実際の企業や銀行の方に向けて、ベンチャー企業としてお金を投資してもらう、という主旨のものだった。そこからは、千葉、大阪、そしてインターネット大会代表のチームと共に4チームでプレゼンの作成に奔走した。他府県の同年代のチームと昼食を一緒に食べたアイデアを出し合ったりといった一つ一つの作業がどれも楽しくかつ、新しい素敵な友達が出来た。皆の意見をうまく取りまとめたり、他チームの偵察を提案したり、巧みな弁舌により強いプレゼンを行ったりする彼らと友達になれて本当によかったと思う。あつという間に夜を迎え、立食形式の豪華ディナーもそこそこ、40の高校から集った高校生を、そして10のベン

チャー企業による本気の「資金調達」が幕を開けた。

正直に言って、プレゼンをしているときは常に戦々恐々としていた。「投資家」たちからの質問が飛んでくるたびに答えになっていくな、なっていないような返答をして「見込みなし」と言われんばかりの空返事と乾いた笑いの嵐があった。それを感じるたび、心臓に針が刺さってゆくかのようだった。出番の約25分がまるで永遠のようにさえ思えるほどの辛い戦いだった。

その後のエコノミクス大会も辛く終えて、その夜は数々の難関に精根尽き果てたが、明日への緊張でなかなか寝付かなかったため大学生スタッフに「10点減点」のお叱りを受けることになってしまった。無念。

運命の3日目。朝から頭ばかりじゃなく体も使おうという配慮によりダッシュと地下鉄によるイノホールまでの行脚となった。第一ラウンドの早押しクイズでは1チームが答えられる問題数は何とたったの1問だったが、クイズ研究会所属としては絶対に負けたくないという気持ちでいっしょだった。少し早めのところでボタンを押したものの、その答え方は二者択一、苦しみつづめて二分の一を引当て、直後チームメイトの川野と熱いイタチごっこを交わした。勢いは自分達に味方していると思いついた。だが、第二ラウンドのニチ産業クイズは今一つ振るわず、また午後からの第三ラウンドにもとどろきなくこの出来なかった。突然始まった敗者復活戦も、もう少々の所で凡ミスによりあえなく脱落してしまいました。

非常に残念ではあったものの、共にプレゼン作成をした県立千葉高等学校チーム「りんりん」の並木君、池田君の優勝は本当に嬉しかったため、優勝の瞬間、思わず立ち上がり喜びました。本当におめでとう。

この濃い濃い3日間に普通では味わえない数々のことを体験出来たのも、水谷さんをはじめ、金融知識普及協会のみならず、そして大学生スタッフの皆さんのおかげだと思います。本当にありがとうございました。

福井大会代表 福井県立藤島高等学校 二年  
小林 真己

エコノミクス甲子園全国大会に出場して、僕はたくさんの素敵な経験をする事ができました。

もともとエコ甲の地方大会に出たのは、経済に興味があったわけではなく、ただ東京に行きたかったからです。同じクラスの相方を半ば無理やり誘って、相手の助けもあり全国に行くことができた。

全国大会の二日目、筆記テストの後に僕たちはプレゼンを作成しました。僕らJ班は「草の根」という言葉で作ることになりました。正直、この言葉でプレゼンなんてできるのかと思いましたが心配無用！優秀なJ班のみんなのおかげで、プレインストミニングで模造紙が埋まるまでアイデアが出ました。プレゼンの結果は2位で、J班全員で予選通過できました。本戦では運もあり少し勝り上がることもできましたが、全国の望は厚く、準決勝敗退に終わりました。

今回の全国大会で感じたのは、エコ甲で試されているのは金融「知識」ではなく、金融「知力」だということです。プレゼンをはじめ、特に決勝ラウンドでは社会に出てから必要な力がないと勝ち上がれないのだと思います。その点で全国大会はやはりレベルが高く、自分の力不足が感じられました。それでも、エコ甲の全国大会に出られて、本当によかったと思います。来年は受験で出れないで残念ですが、スタッフとしてまた戻ってきたいです。

最後になりましたが、プレゼンと一緒にJ班のみんな、北島さん、浜田さん、小林さん、にっしーさんをはじめとする大学生スタッフの皆さん、素晴らしいクイズシステムを提供してくださった福井の企業ユーグレイルの藤田さん、地方大会から支えてくださった北陸銀行様、いち早く記事にしてくださった福井新聞様、その他エコ甲スポンサー様、ずっと指示をくださった水谷さん、その他にもエコ甲を支えてくださった全の方、そして同じ部屋になった鶴丸高校の2人、本当にありがとうございました。

福井大会代表 福井県立藤島高等学校 二年  
深田 精司

大会に出場するまでは、「金融」というものは経済にかかわる法律やアルファベットで表された略語がたくさんあって理解できない、自分たちにはあまり関わりがないものだと思っていた。だから全国大会に出場するとは決まっていたこと、自分では少し不安だった。でもエコノミクス甲子園の全国大会は想像よりも楽しく、「金融」に対するイメージが大きく変わった。事前に受け取ったテキストを読むと株の動きや利率の変動が与える影響などが図ラフで順序だてて説明されていてわかりやすくて、具体的に載っていたので今の社会と関連付けて考えることができたので、「金融」を身近に感じた。

全国大会では、筆記だけでなくみんなでプレゼンやカードゲームをしたり、いろんな形式のクイズをしたりと、理解することが難しくな「金融」を楽しむ課題が多くてとてもよかった。

しかし僕が全国大会で一番楽しかったのは、いろんな人と会話できたことだった。相部屋になったり、一緒にプレゼン作りをしたりした人たちが仲良くなったことや、途中のバリエーションでスタッフの方々が気軽に話しかけてくれたことが僕の中では一番大きな思い出になっている。そのおかげで、「金融」の難解なイメージも、身近で面白いものへと変わっていったのだと思う。

大会を通じて、もっと「金融」を知りたいと感じる一方で、いろんな人に「金融」は楽しいものだと思ってほしいとも思うようになった。

山梨大会代表 山梨県立甲府南高等学校 二年  
朝比奈 佳毅

地方大会で優勝し全国大会に出場することが決まったとき、私が最初に思ったことは、「やばい、どうしよう……」。自分たちよりもこの大会のための対策力を入れたチームは他にもあった。元々の知識と時の運で勝ち進んで優勝してしまっただけで、なんでもかんでもいい気持ちがあったので、少し、全国への切符を手に入れたらいいやろかという思い、本格的に勉強力を入れることになりました。とはいっても、普段の学校の勉強や試験、行事などと同じくやりくりして……、あつという間に東京入りの日になってしまいました。



# 全国大会感想 Final tournament report



行きの電車の中では、ワクワクと心が弾み気持ち、そして適度な緊張感に満たされて経済の勉強をしようという。宿舎に到着。その日の夜に相部屋のチームの二人とも仲良く、エコノミカの前戦をしたり、地元の話をしてたり楽しく過ごしました。

2日目、予定表には「終日 アクティビティ」としか書かれていないので、これから何をやるのかわからないまま、いきなり筆記クイズ。それも、地方大会のそれとは大きく異なるものでした。記号問題だけではなく、一問一答、計算、論述問題もあり、単なる知識の量のみならずそれを応用する力を問われました。あまり採わず、私は初っ端から打ち砕かれた感じがしました。

スタートダッシュで転んでしまい、少し落胆している、次の課題が提示されました。それは、プレゼン作成し、企業の社長や銀行員の方の前で発表をするというものです。テーマの設定から発表資料の模造紙の作成まで、同じグループの3チームと協力して取りかかりました。プレゼンの作成は中々大変なものだったけれど、会話が弾み、ほどよく緊張感もやわらか、和やかな雰囲気にも包まれていました。

そして、いよいよプレゼンをする前夜祭を迎えます。プレゼン中、緊張感MAXで、質問をされたり間違いを指摘されたりすると顔には汗が……。大会中で記憶に最も強く残る経験になりました。専門家を前にプレゼンをするということは滅多にできないことであり貴重な経験ができたと思います。

2日目最後の活動が、エコノミカ対戦でした。相手は2勝でしたが私は1勝1敗、できれば2勝したかったと思います。

そして、大会当日。早押しクイズ、ニッチ産業クイズともに失敗し、負けを確信しました。案の定、次のラウンドには進めず、また敗者復活戦も駄目でした。しかし、クイズは見ているだけでも楽しく、また自分も参加しているかのような感覚で、舞台上のチームの、自分たちよりも遥かに上を行く知識力に最後まで驚かされました。

帰郷の電車では行きと違って帰郷、そして無事に帰宅。かくして私のエコノミクス甲子園は終わりました。

今までに勉強して身につけた金融知識は、大入試でこそ使わないけれども大人になってからきつて役に立つはずで、大会では良い成績を残せなかったが、時間をかけて学んだことは忘れずに大切にしたいと思います。

ありがとうございました。

山梨大会代表 山梨県立甲府南高等学校 二年 土橋 剛

私が、この大会で一番印象に残っているのは、みんなと協力して行ったプレゼンだ。はじめは、初対面の人と制作するなんて、とても不安であった。しかしいざ行ってみると個性あふれる仲間とより良いものを目指して、意見を出し合う討論というものがあるなにもおもしろいものなのだと気づいた。自分の意見を遠慮せず伝えることは非常に大切だと実感した。だが、いざみんなとまとめた案を人々に知らせるとなると、うまく伝えられなかった。手短かに説明して相手に理解させるのは、想像以上に難しい。この経験をを通して自分より足りない能力に気づくことができた。そしてなにより、素晴らしい仲間もできた。貴重な経験でした。

金融知識。私はこの大会にエントリーするまではほとんど無知の状態であった。しかし、この世界で生きていくには金融知識が必要不可欠である。そうしたものを、この機会に高校生という比較的早い段階で学ぶことができたことは、私のこれからの生活をより充実したものにすることができた。今回知った知識はまだ金融知識の一部にすぎない。もっともっとたくさんこのことを知りたかった。

来年の大会では、後輩に頑張ってもらいたい。

長野大会代表 長野県立長野高等学校 二年 木下 優友

私は今、東京から長野へ帰る新幹線のなかでへとへとになりつつこの文章を書いています。3日間、ペーパーテストやエコノミクス文庫、プレゼン、エコノミカそしてインフォホールでのクイズ大会と慌ただしく行われとても充実しました。結果は10位というギリギリの順位で産業スパイブズに進出しましたがそこがきっかけとなり、敗退してしまいました(ボーカマフェスは苦手で3)。

3日間のなかで印象に残ったイベントはエコノミクス広辞苑です。4チーム1組である広辞苑のなかの4ページから選んだ見出し語とオリンピックを掛け合わせて新規事業構想を練るというものでした。私たちのグループのテーマは「オリンピック×手短」。議論は脱線したり、行き詰まったり、なかなかまとまりませんでした。まとまったときには終了時刻が近づいており8人全員で手分けしてすごい速さでプレゼン資料を完成させました。同年代のほかの高校の初対面の高校生と協力してひとつのものを完成させるのは、予想に反しておもしろく有意義なものでした。プレゼンステージでは自分には思ってもいなかった意見が飛び出したりして新鮮でたしプレゼンを通して一体感も出てきてよかったです。お昼には自分が住んでいる土地の気候の話などを話して盛り上がり、地理好きの私としてはとても参考になりました。

最後になりますが、サポートしていただいた八十二銀行の皆様、大会を運営して協会やボランティアの方々、ありがとうございました。

長野大会代表 長野県立長野高等学校 二年 杉山 玄己

僕はこのエコノミクス甲子園に参加する前は、本当に金融やら経済やらと言ったことが嫌いで、自分が将来利用するのはおそらく銀行の預金だけだろう、投資なんて将来持たせることだぜ!などと考えていたフシがありました。そんな僕がこの大会に参加した理由はいろいろ複雑なのに対して、結果を出さなく、出ることになってしまったので、出るからには何かしら結果を出さねばと思い、苦学分野での勉強に取り組みすることにしました。前述の通り、経済は僕の苦手分野であったので、とても勉強は苦学しませんでした。幸い、送られてきたテキストが非常に分かりやすいものであった。と、相手の力のおかげで僕はこの全国大会までやってきました。本当にありがとうございます。相手方応援してくれた八十二銀行の皆さんは、本当に申し訳ないことをしたと思っています。

でも、僕自身にとっては、今までは興味もほとんどなかった金融やら経済やらと言ったことについて勉強できたので、とてもいい機会になったのではないかと思います。こんな機会でもない自分からは決して勉強しないので、でも、今回の大会で、出会った仲間とプレゼンについて相談したり、エコノミカをしたりするうちに、何となく、金融ってのも悪くないな、と思うようになりました。勉強している間も感じたのですが、やはり、金融知識と言っただけで、直接これからの生活に役立つものだということが肌で感じる事ができました。本当に、楽しかったです。我々は来年出れないので、後輩には、ぜひ出場してもらいたいです。

最後に、僕にこのような機会を与えてくれたすべての人に感謝したいと思います。ありがとうございました。

岐阜大会代表 岐阜東高等学校 二年 横山 智紀

最高に楽しい3日間を過ごしてから約1週間経ちますが、あの時に感じた様々な感情は僕の中で表裏をなく更に増長しています。エコノミクス甲子園のような大規模なクイズ大会は初めてでした。

1番印象に残っているのは、やはり班対抗のプレゼンテーションです。6時間て企画からプレゼン資料の作成までの全ての工程を行わなければならない過酷なものでした。第七回の大会報告書に目を通していたので、プレゼンがあることを知っていましたが、いざ自分が自分たちが行うとなると勝手が違いました。しかし、東京代表の山本君が素晴らしい進行をしてくれたので班に溜う緊張もほぐれて、僕を含めた全員の口からアイデアが飛び出しました。それらのアイデアを組み合わせた一語を僕が担当したことは嬉しかったです。そして夜の発表会で全チームの中で投票から最優秀を出していたので、班のみんなでも喜びました。

日曜日の本大会では相手の岡本に助けられたことが多かったです。第3ラウンドの産業スパイに際しては僕は彼以外の会社に潜りこんでいる2組のスパイを(なにより得体的くない)数学的見地により確実に炙り出すことに成功しました。第4ラウンドは座席の差を取り戻すべくリスクを冒して、高得点の問題に挑みました。その甲斐もあり、トップ通過が出来ました。そして迎えた決勝戦。[4位までには入る]という僕たちの当初の目標を達成し一瞬安堵したのが運の尽きでした。中盤以降連続して凡ミスをしてしまい、その間にどんどん差をつけられてしまいました。結果、私たちは4位に終わりました。悔しかったですが、それ以上にやりきった気持ちで一杯でした。大学生になったら是非、今度はスタッフとして参加したいと思います。

最後になりましたが今大会を運営していただいたスタッフ、並びに銀行員さんに厚く御礼申し上げます。

岐阜大会代表 岐阜東高等学校 二年 岡本 尚樹

僕は、横山君に誘われてエコノミクス甲子園というクイズ大会を知りました。正直あまり自信は有りませんでした。興味があった分野だったので参加を決意しました。

地方大会では、早押しクイズで一回しか答えることができませんでした。けれども筆記で点を取ることができ、なんとか決勝へ、拮抗が続く中で僕たちだけ答えられた問題があり、何とか逃げ切りました。

全国大会で、僕が学んだことは、教養というものの重要性です。僕は、クイズ研究部に所属していませんでした。けれども周りは、クイズが好き。そういう人たちが集って僕が第一に感じたことは、なんでも色んなことを知っているんだ。というところでした。始めての自分の興味の色々な会話で弾んでいることがとても不思議でした。自分の状態のある分野以外でも情報のアナリティを張っているからこそ、様々な話が繰り広げられる中で対応できる。こんな当然のことを知っているつもりでいたけれど自分がそこまできたりやったりレベルで違うと痛感した瞬間でした。

そんな僕でも「つく!」グループのおかげで第3ラウンドまで勝ち上がりました。あれもあれよと決勝まで運で残ることができました。決勝で感じたこともやはり、知識というものの大切さでした。決勝まで残れたもの、とても恥をかきましたね(ustream見たらわかります)。

全国大会ではいろんな人に出会いとても楽しかったです。ありがとうございました!エコ甲。

静岡大会代表 静岡県立浜松西高等学校 一年 小笠原 慎一

中学3年生のとき、エコノミクス甲子園というクイズ大会があることを母から教えてもらった。経済に興味があった僕は、同じく石丸くんを誘って参加することを決めた。最初は腕試しのつもりだったが、地元の話などを決めた。最初は腕試しのつもりで聞いていたが、地方大会は接戦の末、優勝した。金融知識を競うと聞いていたので少し驚いた感じがしたのか?と思っていたが、会場は和気あいあいとしていて、その予想は思いもよらなかった。クイズ大会への参加が初めてで緊張する中、クイズを思いっきり楽しむことができた。

全国大会では、ビジネスプロジェクトのプレゼンが最も印象に残った。同じプレゼンのグループの人たちとよくやっているが不安だったので、地元の話などで盛り上がった。5、6時間ゼロの状態からプロジェクトを考え、プレゼンの準備もするというは大変だったが、非常にやりがいのあることだった。プレゼンを通して、マインドマップの活用法、プレゼンや呼び込みの仕方などを学ぶことができた。自分の考えを人に伝える術を高校生のうちに身に付けるのは、とても意味のあることであり、エコノミクス甲子園はそういったことができると貴重な機会なのだと感じた。

その一方で、全国大会は予選敗退という結果に終わってしまっ。あのときも勉強してれば・・・」と思わずにはいらなかった。次のラウンドも面白そうだった。クイズだったので、もったいない気がした。やはり真の意味で楽しもうとするならば、金融知識に努力して金融知識を磨くことが必要なのだろう。待ちに待った敗者復活戦では、父から教わったことと同じ問題が出たが、短いシンクタイムの中で思い出すことができず、3問目で間違えてしまった。残りの問題が分かったので、その分補正もできず終わった。僕たちの敗因の1つはやはり、[まだ1年生だから・・・]という甘えがあったのだろう。同じ1年生でも広島学院は3位に入り、全国はすごい。心からそう思った。考えてみれば、僕は学校という狭

い空間の中で一喜一憂を繰り返してきた。それがはじめて全国レベルの大会に出場し、刺激とでも言うべき大きな衝撃を受けたのである。ごく自然に、視野を全国に広げることができた。また野中様のお話を聞き、お金に対する考えが変わった。エコノミクス甲子園の全国大会に出場したことは、間違いない僕の人生活ですばらしい経験になった。しかしエコノミクス甲子園は金融経済について学ぶ、単なるきっかけに過ぎない。今後も学び続けていきたい。そして、来年のリベンジをここに誓いたいと思う。

最後になるが、大会運営に尽力された協賛企業、銀行、スタッフの方々、地方大会でも全国大会でも大変お世話になった静岡銀行の方々に感謝の意を表したい。

ありがとうございました。

静岡大会代表 静岡県立浜松西高等学校 一年 石丸 将司

このエコノミクス甲子園が一番に残っているのは2日目の「エコノミクス広辞苑」かもしれない。僕たちのグループは「激震」をキーワードに選び、ネットの世界に疲れた人々が本物のつながりを取り戻す宿願「つながりハウス」についてプレゼンテーションした。初めて出会ったメンバーといきなりディスカッションを始めたが、メンバーからは多くの意見が生まれ、彼らの知識の幅広さや柔軟性に驚いた。単に量産的な意見ではなく、その一つ一つの建設的で具体的な根拠に基づいたものだった。彼らは金融経済だけでなく、世の中に溢れている様々な事を知っていて、圧倒されるばかりだった。

「学年こそ違おう、彼らを見て、「これが全国なのだ」と思った。確かにクイズの知識も重要だ。しかしながら、それをいかに応用するかがこの「エコノミクス広辞苑」では問われたような気がする。その意味で、彼らとのグループワークは本当に興奮するものだった。これは僕までにはレベルな活動は本分として初めてで、大いに刺激とった。

金融経済についても知りた。クイズで活躍したい。そして、より幅広く深い知識と確かな応用力を携えて、来年またこの舞台に戻ってきたい。この「エコノミクス甲子園」は心からそう思えるような素晴らしい瞬間の連続だった。

愛知大会代表 東海高等学校 二年 飯尾 祐介

2月3日、エコノミクス甲子園全国大会翌日、何とも言えぬ形容しがたい気分のままひとまず学校を休む。まずは自分を落ち着かせないと元も子もないから、関係各位には後日ゆっくり報告と御礼を申し上げることとした。記憶が薄れないように、淡々とありのままに感想を書き連ねておく。

ぼくらの大会はとんだ偶然から始まった。12月15日、エコノミクス甲子園全国大会。前回全国優勝を果たした先輩たちが現役中、強豪チームたちが熾烈な戦いを繰り広げていた。母校からは4チームの出場。自分で言うのも何だが、ぼくらは所詮庶民だった。幸いにも筆記クイズで悪くない点数を取り、第2ラウンド早押しクイズ、チーム分けが難しく、ここは難なく突破した。決勝ラウンドに駒を進められるのは6チーム。ギリギリの戦いだとは分かってはいた。最有力候補が圧倒的なポイントで1位抜けるやいなや、ぼくらは耳を疑った。

「第2位、東海高校、1ドル93円!」

波乱の展開とはまさにこのことだ。すかさず笑顔を取り繕った私だが、内心驚きで満ちていた。決勝6チームが出揃う。いずれも強豪校の強豪チームばかり。特に最有力と言われた2チームには実力配り勝負ははずもなかった。決勝ラウンド、ボードクイズは全10問。実力、自分で言うのも何だが、ぼくらは所詮庶民だった。幸いにも筆記クイズで悪くない点数を取り、第2ラウンド早押しクイズ、チーム分けが難しく、ここは難なく突破した。決勝ラウンドに駒を進められるのは6チーム。ギリギリの戦いだとは分かってはいた。最有力候補が圧倒的なポイントで1位抜けるやいなや、ぼくらは耳を疑った。

「お前の方が優勝か!」[笑][〇〇が優勝した方が良かったんじゃない?][翌日の学校。言葉は悪いが、僕が彼らなりの祝賀の表現だ。結果としてぼくらは思いもよらず母校の威信と愛知県勢の期待を背負うことになってしまった。全国大会まで2ヶ月あまり。まだ見ぬライバルの前に、プレッシャーと闘う日々が始まった。リターン計算、ROE、ポートフォリオ……。常識ぐらいいつりだつたが、初めて出会う単語や計算を前に悪戦苦闘。いかにせん暗記は苦手な方だし、体系的に覚えるにも時間が足りない。実力不足は痛感する毎日だ。迫り来るのは全国大会だけであらず、学校の実力テストの前に、自己の名譽とどちらを優先すべきか悩もした。準備不足のまま、全国大会は無惨にも幕を閉じた。

2日目、朝から筆記クイズ。学校の実力テストを含めれば、この週だけで筆記テストを累計10時間以上受けたことになる。東京に来るとなると筆箱はどこかに落していた。思えば気力体力とも万全とは言えない中、けじめをつけるというよりも無事な上。注意散漫、くだくだになるの目に見えていた。手も足も出ないまま60分を過ごす。平均点ぐらいい取れたらどうだろうか。まあ仕方ないかと思ってしまうところが自分の弱いのところだ。いずれにせよ後には戻れないので午後後から挽回を考えた。

午後は幸いにもプレゼンクイズ。経済的知識こそ人には劣るが、プレゼンには人より自信があった。ファシリテーションもできる。「オリンピック×機会」をテーマに、最高のプレゼンを届けようと思いついた。プレゼンステージを最も高められたので、マインドマップを駆使してグループの意見を集約した。「オリンピックと言え?」「機会って何だろう?」我ながら的確な質問をもってこれまでに最高のファシリテーションができたと思えた。完成したポスターには大きく「[輪]グローバルプロデューサー」の文字。2020年の東京オリンピックをきっかけに外国人の日本文化との出会いの機会を後押しするベンチャー企業の提案でプレゼンに備えた。夕食は投資家の皆さんとのレセプションパーティー。作品のプレゼンも交いつつ有意義な一時を過ごした。プレゼンクイズの結果は見事に10グループ中3位。この結果が後に同じグループの仲間でもあり、ライバルでもあった4チームの明確な分けることとなる。

プレゼンクイズ終了後は気休めの「エコノミカ」金融知識育成型カードゲームに興ずる。ゲームとつくとくにはいかんせん弱い私だが、これだけは自信があった。手強い相手だったがなんと決勝無敗。相手方2勝2敗だったのでチームとして決勝2敗だったが、個人的には満足している結果であった。最後の幕開けから徐々に落ちつきを取り戻していった2日目。3日目に向けた希望を胸に、新たな出会いと友情に感謝して寝床に就いた。





# 全国大会感想

# Final tournament report

「広辞苑からピックアップした単語とオリンピック」がお題で僕たちのグループは「つく」という単語を使い、僕のグループの人はほとんどもっとも知りたかった、自分の意見を言うのが苦手な僕を引っ張ってくれました。とても感謝しています。

その結果、僕らのグループはプレゼンクイズで1位になり、グループからはベストセールスマン賞も出ました。とてもうれしかったです。プレゼンクイズでは人と協力することと楽しさを学びました。このことは一生忘れず覚えておきたいです。

3日目はついに全国大会、三重代表として精一杯頑張りましたが、早押しクイズではポイントを取ることができず、次のラウンドでも思うようにポイントは稼げませんでした。3ラウンド目は18チームに進むことができないので諦めました。結果は10位で、喜びより驚きが強かったです。しかしそのラウンドで負けてしまい、僕たちの全国大会は終わりました。

優勝してニューヨークに行くことはできませんでしたが、とても良い思い出になりました。来年も出場したいですが今年が最後のチャンスだったので来年はぜひ部活の後輩にエコノミクス甲子園に出場してもらいたいです。

大阪大会代表 大阪星光学院高等学校 二年 奥 亮輔

エコノミクス甲子園に参加したきっかけは学校で案内があった事だ。元々経済には興味があり、将来の進路は経済分野と決めていた。ある程度の知識はあったのだ。そして地方大会、ガチメンパーが出る中で、あっさり優勝してしまっただけで、予選は相手が選別するなかで孤独な戦いだったのが何か切り抜け、決勝では相手が活躍した。

猛勉強することなく優勝したので、全国も優勝か？と思っていたが、全くの見当違いだった。難しい筆記試験で99点を取る人、事業計画立案時にはパソコンを見事に使いこなしながら高レベルな議論をする人、精鋭ぞろいだった。そのような精鋭たちと過ごした3日間は充実したものであった。まず、事業計画作り、ゼロから計画を作るのは大変だった。それでも、意見を出し合ったり、他を偵察したりして、納得の行く計画を作る事が出来た。夜はパーティーのマネーを少し学べた。また、パーティーの途中に行われたプレゼンにおいて、呼び込みの難しさを実感した。

他県の女子と交流できたのも貴重な経験となった。私の通っている学校は男子校なので、女子と話せたのも良かった。中には可愛い子もいて、テンションが上がった。

3日目の全国大会では、予選落ち、敗者復活負けと残念な結果だった。今日知ったのだが、予選19位だったらしいではないか！こんなことがあってよかったのか！決勝の問題は私にはさっぱり分からなかったが、相手はかなり知識が豊富で、予選を抜かせずすれば…という感じだった。存在感を出せなかった事が私にはとても悔しかった。

ただ、来賓の方々の話を聞けたのは非常に良かった。全ての話が自分のためになった。来賓の方々、特に「金融知協会の母」の野中様にもよき話を聞けたのが、最も貴重な宝物だと思っている。

エコノミクス甲子園に参加したことでも、多くの事を学べたし、まだまだ自分のレベルが低い事を思い知った。私は、今回の東京行は大人が自分に投資してくれたのだ。それを私は大人になった時に次の世代に返す義務がある。しかし、今のままでは平凡な人間になってしまいたい、今回の東京行きが無駄だった事になってしまおう。とりあえず、努力を重ねて偉くなることだ。そうしてこそ、恩返しができるのだ。

今回お世話になった方々にはとても感謝している。将来、必ず偉くなって、この恩を「倍返し」するつもりだ。本当に、ありがとうございます。

大阪大会代表 大阪星光学院高等学校 二年 海道 勇人

エコノミクス甲子園を初めて知ったのは学校の掲示板でした。友人の奥に誘われて「まあ出てみるか」と聞いて19日に出場して何と優勝！！大阪代表となり、あっという間に全国大会の日を迎えました。私の学校は第1回大会で準優勝していたこともあり、何となく「まあいいじゃんちゃー」という根拠のない自信を抱いていました。

二日目のプレゼン大会は、本当に良い経験でした。初めて顔を合わせる人達と白熱した議論をして、企画を練っていくのは本当に貴重な体験でした。スポンサー向けのプレゼンも父ほどに歳の離れた人からの鋭い質問への対応力や地方観光への投資の魅力を伝える能力を計るもので、まさに営業力を試される実践的なものでした。

他にも抜き打ち試験などがあり一日目は冷や冷やして、とても疲れました。二日目は第三ラウンドまで進めながら残念でしたが、経済への興味はさらに増えました。

普段、大阪に住んでいる僕は、大阪以上に密集した超高層ビルや満員電車で驚いて、何もかもが新鮮な経験でした。そして、全国の高校生と交流できて本当に大きな刺激を受けました。僕にこんな機会を与えてくださった金融知普及協会の皆さんに本当に感謝しています。ありがとうございます。

奈良大会代表 智辯学園奈良カレッジ高等学校 二年 杉本 安里紗

エコノミクス甲子園に出たきっかけは一年生の時、西郡さんが誘ってくれたからです。早押しとあって聞いては勉強を感じない私は初めお誘いを断りましたが、挑戦してみようという思いから参加しました。そして、昨年の第七回の奈良大会で一つの先輩方が優勝されたので、来年は私たちが優勝しよう、一年頑張ってきました。今年も地方大会に出場したいという人たちがたくさんいて筆記と早押しで学校内で予選も行い、その中で私たちは二位でしたが本番では優勝することが出来て良かったです。ずっと一緒にやってきた仲間が悔しそうにしているところを見ると、手放しには喜べませんでした。と同時に皆の分も全国大会で頑張ろうと決意しました。

全国大会では得意だった筆記試験で思った以上に出来なくて、大の苦手の計算問題が出たのを見たときは勉強不足を感じました。朝の顔の悪い悪いな時にやるなんて反則です！笑

プレゼンではアイデアに詰まったり他の班のプレゼン内容とかぶってしまったりしてしまいましたが、最後には班の人たちと仲良く出来ました。もっといろいろな意見を出せるよう素

軟に考えられるようにならなければならないこと、相手に興味を持ってもらえるような説明をするのはとても難しいことがわかりました。初対面の人たちとプレゼン企画の内容を考えるという滅多にない経験をまたどこかで生かしたいです。

先輩方と同じ準決勝までいくことが目標でしたが、予選敗退という残念な結果に終わってしまっ、悔しかった今でも応援してくださった先生方や先輩方と一緒にやってきた仲間と申し訳ない気持ちでいっぱいです。ですが、この二年間で学んだことはたくさんあり将来に役立てていけたらいいなと思いました。

奈良大会代表 智辯学園奈良カレッジ高等学校 二年 西郡 萌加

私たちは昨年から、このエコノミクス甲子園の地方大会に挑戦してきました。昨年は地方大会の決勝に進出さえできず、同じ学校の先輩方が全国大会に出場された姿を見て、たまたた「すごいなー」と思っていました。先輩方に「私たちに次いで、来年の全国に出られるように頑張ってください」と声をかけていただきましたが、まさか本当に自分たちが全国大会に行けるとは思っていませんでした。

昨年の奈良県大会も、出場チームの半数がうちの学校という状態だったのですが、今年はさらに多くのエコノミクス出場を希望する生徒が政経の先生のもとに殺到しました。このまま希望者全員が生徒が政経の先生のもとに殺到して来たと思われかねない中で、やむを得ず校内選抜大会を実施することに、それから地方大会まで、学校の政経担当の先生には毎日のように対策をいただきました。地方大会には私たちがより賢いんじゃないかと思うような他校の出場者もたくさんいて、今回全国に出場できたのは運のおかげが大きかったと思います。全国進出が決まっただけで、政経の先生に毎日対策していただきまして、東京に出発する当日には、クラスメイトから応援の気持ちで大量のお菓子をもらいました。二泊三日分には多すぎる量だったので、大会中に消費できませんでした。

このようにいろいろな人に応援してもらって臨んだ全国大会ですが、やはり予選敗退という結果は残念でした。当日応援に来て下さった政経の先生が「全国大会は運もあるからしょうがないよ」と言ってくれましたが、「もっと自分が勉強していれば運も違うのかな」とは思いません。だから、自分と違う地方で生まれ育った人たちが会話をすることなく、滅多にありませんでした。他の出場者との会話で軽い知識チャットを受けたりして、日本ってこんなに広かったのかと思えました。限られた時間の中で初対面の他の出場者と協力してプレゼンを完成させる。というグループワークでは、かなり初音語まった状況に置かれました。何もないところからひとつのものを作り出す難しさを実感しました。自分の発想力や判断力の無さに改めて気づきました。全国大会に出題されたクイズを通して、知識はただ持っているだけでは役に立たない、自分の持っている知識をいかにつぎ出して使えなければ、これから生きていくうえで大切だと思いました。また、経済に全く興味なかった私が新聞の経済面を毎日まじめに読むことも、エコノミクスに出場しなければなかったと思います。この大会は私に多くの経験を与え、私を大きく変えてくれました。

こうして今回のエコノミクス甲子園を振り返ると、私たちに応援してくれた人や全国大会を支えてくださった人、新しく出会った人の顔がたくさん思い出され、心がいっぱいになります。ありがとうがございました。そして、こんな素晴らしい経験ができるエコノミクスに参加した高校生が、さらに増えていってほしいと思います。今年も初の公立共学校が優勝されましたが、来年にはぜひ女子チームもお決勝に進んでほしいです。またどこかで、今回出会えた皆さんとお会いできることを願っています。本当にありがとうございます。

鳥取大会代表 鳥取県立鳥取西高等学校 一年 寺谷 研人

まず、僕がこのエコノミクス甲子園に出場しようと思った経緯を話したいと思います。最初は経済とか、知らないし…と聞いて出ないつもりでしたが、優勝賞品がニューヨーク!!と聞いて、「これはやるべきじゃないか」とおもって出場しました。そして、教材が配られるわけなのですが、いきなり困りました。いろいろな資料があって、その中に「ビギナーズのためのファイナンス」という小さい冊子がありました。(お?待って待って、ファイナンス??まよ…いや、聞いてみよう…んん??トウジシタク??) ぼくの頭はこのように表紙を見ただけでパンクしました。でもニューヨークに行きたくて、とりあえず辞書で調べたりしてなんとか理解しました。

こんなふうに、本当にゼロからはじめて、地方大会は小原と協力して、運の力かとも使って勝ち上がりました！

そして、全国大会はぼくにとってかなりいい経験になりました。上位18チームの中に入ることではなかったけど、偶然E班でいるんこと知り合って、いろんな方々があって楽しくプレゼンするんことが出来たと思います。最後の方はばばばして、きっと本当の企業もこんな感じで大変なのだろうとかんじました。5時間あったのに、もうあっという間で、数秒に感じました。(それは言い過ぎか?)となく、本音で話して、「E.glass」というメガネ型コンピュータ端末をオリジナルクイズで活用する!!という結論にたどり着きました。(これはぼくのあいかたの「カクガリ」と小原くんが考えた!!) ぼくらE班はほかのどのチームもやっていない、「街頭アンケート」を行いました。いろいろいるいるに、やはりこの製品はお客様にどう受け入れられるか、そういった根拠が必要と考えたからです。エコノミクスでは、ルールが厳しすぎて、大丈夫かな?と思いましたが、このアイデアは、ルール違反をすり抜ける(そう言っただけ人間が悪いですが笑)素晴らしいアイデアだったとおもいます。結果は5位でした。ほかの班はしていないことができたことはE班の強みです!!

この日は本番のクイズで、一問も解けませんでした。鳥取として出ているので、かなり悔しかったです。でも、ぼくらもまだビッチビッチの1年生に、見えるかは分からないけど…) ので、来年も絶対に参加して次こそニューヨークに行ってやろうと思います!!

鳥取大会代表 鳥取県立鳥取西高等学校 一年 寺谷 研人

ええと、最後に出会えたみなさんに感謝します。みんなありがとう！

鳥取大会代表 鳥取県立鳥取西高等学校 一年 小原 功大

エコノミクス甲子園に参加し、体感して思ったことは、参加する前に思っていた理想していた以上にレベルが高く、感心させられる出来事が多かったということです。もちろん、地区大会で優勝した地区の代表として負けてしまった人たちの分もがんばろうと、同じ自分たちは一生懸命頑張る、学校や部活(バドミントン)で忙しくて出来る限り勉強して東京つまり日本大会に向かった気でいました。

しかし実際は、他のチームに比べて全然足元にも及びませんでした。もっともっと勉強が必要だと実感しました。

でも、今回参加して得たこともありました。それは 僕が去年の夏に高校生クイズ全国大会にでたことには感じなかった何とも言いえない達成感です！

この達成感を全国優勝の達成感にするため、一年間勉強してレベルアップして考えています。

鳥根大会代表 鳥根県立浜田高等学校 二年 若上 裕哉

エコノミクス甲子園に初めて参加したのは去年でした。友達と一緒にエコノミクスの記事をもって来てでなくか誘われ、同じクラスの仲間と4人で参加しました。初めての地方大会は、緊張と興奮のなつかしいも散れしてしまったのを覚えています。そして、今年も地方大会突破を目標に、放課後みんなでも早押しボタン代わりに電卓を回して練習したりしました。練習の甲斐あって、地方大会を私たちの学校のチームが1・2フィニッシュを決め、もう一つのチームから託されたエコノミカカードを片手に全国大会に乗り込みました。

全国大会では普段の学校生活や他の研修では決して経験しないような、貴重な体験をし多くのことを学びました。特に私にとって刺激的な仲間と出会えたこと、金融知識を学ぶ機会を得たことが大きかったです。

2日目は、グループを組んで、本物の投資家が納得するようなビジネスモデルを考えることをしました。現実性、収益性、安定性、社会貢献の度合い、投資を誘うような発表の仕方など、様々な観点から何時間も話し合いが行われました。鳥根の地方大会を勝ち抜いた選手たちが、頭を振り絞って厳しい投資家たちの目にかうビジネスモデルを考える時間は、熱気に満ちていました。そんな時間の中で、私の心にと、この仲間たちと一緒に将来仕事をするのは楽しいだろうという思いが浮かんできました。そう思うほどには、時には意見がぶつ合い一つのプロジェクトを作っていくことは、実意感に満ちた活動でした。

私はエコノミで、出場者、運営側、来賓、銀行の方々など多くの方々と出会いました。大会を通して、現代の仲間から刺激を受け、後の世の教育に関心する大学生、彼、日本をもっとよくするために活動しておられる野中さんを始めとした運営の方々の姿を目にしました。この方たちがこうして文字とおり走り回って運営しているからこそ、エコノミの歴史が受け継がれ、金融知力、未来を拓く力を養うことに高校生が熱くなるのだと実感できました。エコノミクス甲子園は私にとって生き方を考えさせられた青春のよき思い出です。

そして、頑張った後、来年の大会により多くの高校生が参加し金融経済や未来を見据えて生きることについて考えてほしいです。このような大会に参加できたことをうれしく思います。

鳥根大会代表 鳥根県立浜田高等学校 二年 陳 源

全国大会からもう一週間が経ちましたが、まだ興奮が冷めない気分です。東京に来ただけで十分満足だったのに、こんなにも手の込んだプログラムでかけがえのない体験をさせていただき、本当に私は幸運でした。東京で皆さんと過ごした時間は、間違いなく私の高校時代の一番鮮やかな思い出のひとつとなるでしょう。相手の若上君と私は、実は去年も友達したのですが、地方大会で負けてしまいました。その悔しさや友達も巻き込んだ早押しクイズ対策のおかげで、今年は東京に来ることができました。努力を通して念願の全国への切符を勝ち取ったあの時の嬉しさは何にも代えがたいものでした。

エコノミの三日間の活動のうち、私が最も楽しかったのは二日目の前夜祭です。事前に必死で作り上げたプログラムを社長さんたちに赤い旗、投資も死んでやらなければなりません。私は客引きを担当したのですが、静かだったみんなが途端にアクレッションになり、とても盛り上がりました。(笑)知恵を絞って考えたアイデアに社長さん方が聞いておられるのを見て、達成感を感じました。

大会当日、私たちは予選をギリギリ通過し、17位になりました。期待を上回る成績を得られた大満足ですが、なによりも全国の素晴らしい仲間たちと出会えたことが一番幸せです。やはり全国から選ばれた高校生が集まっているだけあり、一人ひとりが強烈な個性と魅力を持っていて、問題意識も高ければそれを伝える言語能力も高い。テンゴよく、活発なフィードバックができました。大会が終わったから別れが苦痛性、このみんなと同じ学校で授業を受けられたらな…と本気で思いました。一緒に過ごした時間は短いけれど、そのぶん刺激的で濃い時間を共有できましたね。

最後に、このようなすてきな学びの場を提供してくださった金融知普及協会の皆さまとスタッフの方々、そして先輩方々からのお話を言いたいです。エコノミクス甲子園は最高のイベントです。大学生になっただけでスタッフとして恩返しさせていただきます。

岡山大会代表 岡山白陵高等学校 二年 窪津 浩倫

僕は「クイズ」が好きです。岡山白陵にはクイズ研究部というものはありませんが、昔からよくテレビでクイズ番組を見ていたこともあり、いつの間にか所謂クイズオタク(にわかで知識も全く足りませんが)になっていました。そんな僕がエコノミクス甲子園に出会ったのは昨年のごとき





# 全国大会感想

# Final tournament report

た。経済には全く興味がなかったものの、同級生に誘われたこともあり、「クイズの大会だから」という非常に安直な理由で参加が決め、結果は岡山大会5位。自分としては割りりと満足な結果でした。そして高2になった今年、「タダで東京に行ける」と別の同級生に誘われて2度目の参加をす。なんだかんだで優勝し、全国大会への切符を手に入れました。

東京に着くと、期待感と不安感であっという間に時間は過ぎて行き、気が付くと2月1日。本格的に全国大会が始まりました。あまり経済の勉強をしていなかったこともあり、初めの筆記クイズは日常生活で蓄えた知識を総動員して解答を埋めました(正解したとは言っていない)。そして専門のプレゼンクイズ。草の根というテーマの、制限時間ギリギリでの完成でしたが、よく案を話し合ったおかげで、最終日の発表までと10グループ中2位という好成绩。夜のエコノミクス大会ではカードゲームとしての実力を遺憾なく発揮し2連勝。こうして全国大会の1日目は終わりました。

迎えた全国大会2日目。初めの早押しクイズではボタンを押すことすら出来ませんでした。ニッパ産業クイズでは最低限の得点を確保出来ました。そして運命の生き残りチーム発表。なんと僕たち岡山白陵は2位通過でした。プレゼンクイズの配点が相当大きかったようです。しかし、その次の産業バイクイズでは見事にその冤毒なルールに泥沼に嵌まってしまい敗退。敗者復活も「粉飾」を間違えてしまい、僕のエコ甲全国大会は幕が閉じました。

さて、僕がエコ甲に参加して良かったことは、やはり「繋がり」です。エコ甲に参加していなければ出会うことのない人々との繋がりが生まれ、様々な面で刺激を受けることが出来ました。来年は高3なので参加する余裕があるか分かりませんが、可能ならば是非とも参加したいと思えます。また学生スタッフにも興味があつて、面白いやつは時々お話を聞きたいと思っています。ありがとう、エコ甲！

岡山大会代表 岡山白陵高等学校 二年 前島 亮

1年の挫折を経て県大会に優勝して、浜田先輩と同じ景色をみれば、まず、東京観光だ、なんて思っていたら、銀行の方に、「じゃ〜ね、まずはカードをあげようか。…、え、まず？とプリズンしている自分たちのことをよそに銀行員の方がくださったのは例の3冊の本です(これを読んでる人たちの頃ははよとしたりもわらわりのかな？それとももっとう)。まーそれからはきかかった。その3冊を丁寧に読むのはほんとうにきついです。9回大会に出る人は自分みたいに2、3週間まえからあくせくと読み始めるのはやめた方がいいと思えますよ。でも、インターネットを使いながら、図書館で借りた本も読みつつ、雑誌を買って流し読みしているうちに3冊が途中から急にすーっと読めるようになりまして。前日は中銀の山本さんに「銀行担ごでんかつをおごってもらい、その後宿舎につき、受付に向かう時に同室の春日部高校の先輩二人組(しょうくん、しょうたくくん)とばったり出会いました。3日間を通じてほんとに弟のように扱ってくれたのでいい先輩たちだな〜、と思えました。

自分が特に印象に残ったのは2日目です。まず場所と持ち物と時間だけが指定されて何をやるかわからず会場に向かう。じゃ〜、筆記クイズね〜、ときどき波乱の幕開け。その後またく顔も知らない六人のひとたちとプレゼンをする。ことになって、はじめてのスピーチです。でも、話をしているうちに頭脳明晰の棋士リッジの二人、深田君と北陸君らしいのーんびりした小林君、そして豊富な知識量をもたえる広学の二人とはすくなくうらやまが湧いてきた。やっぱりおんなじような苦労をしてきた者同士が感じるのはあるみたい。そしてみんなで協力した結果プレゼンで2位をとることができました。みんなで頭を寄せ合って考えたいあの時間は忘れられません。

3日目は早押し、多答クイズ(これで覚悟せよ！)とあり、予選の結果発表。自分たちはなんと2位通過することができました！ほんとその発表のあった時はプレゼンのみんなの顔が脳裏に過ぎりました。それがどう！自分たちはその後まくろくろくを利用してきないで結局3ラウンドまででした。でも、予選で2位通過出来た自信、プレゼンの仲間への感謝、そして同室で自分の夢を熱く語って実行力の塊のうらやましようかん先輩、2日間味方として、時に敵として戦ってきた知識豊富な広学の中心君という素晴らしい先輩と2人2人にあえたことは一生忘れたいと思えます。よき友にめぐりあい、実力も発揮できたエコ甲に本当に感謝です。受験もあるし来年はむりかな、って感じはしますが、またスタッフという形とかでエコ甲に携わりたい、と思えました。決勝にも出てないやつがこんなに書いて申し訳ないです(´；ω；´)。でも、人生の転機ともなったエコ甲への想いは人一倍くらいあると思うのでその想いを書いてみました。エコ甲に携わったみなさん、本当にありがとうございました。

広島大会代表 広島学院高等学校 一年 中本 和宏

今回私たちがエコノミクス甲子園に出場するきっかけとなったのは、広島大会を主催くださったもみじ銀行さんが地元の中高生向けのラジオでのお知らせをしていたのを聞いたこと、公民の見聞が学校に貼ってくださったポスターの二つでした。それらを見ながら私が、所謂「社会」と言われる科目が得意な仲の良かった白部君を誘って参加することになりました。

地方大会は正直勝ち抜けたと思っていませんでした。しかし予選筆記クイズの1点差で辛勝。予想もしていなかった全国大会への切符が舞いました。その日から私にはいろいろと学校や学校の公民の教科書を勉強したり、新聞を読んだりして少しづつ勉強してきました。そしてあつという間に全国大会の日がやってきました。大会1日目は筆記クイズとプレゼンクイズでした。筆記クイズは自分の想定していたよりも何倍も難しく大苦戦でした。またプレゼンでは五輪を契機としたムスリム向けの日本ツアーを企画。この時間にはかのチームの人々と親交を深めることが出来ました。ほかのチームの皆さんだけでなく、多くの人々の協力があったおかげで、良いプレゼンが出来たと思っています。

大会2日目はイノホールでの全国大会。ホールの広さと格調高さに圧倒されながら大会に臨みました。大会では第三ラウンドでいったん負けちゃいました。しかし土曜日の敗者復活戦でまさかの決勝進出が決定。もう一度戦えるチャンスをいただき、いったん抜けてしまった気合を入れ直し決勝の舞台に向かいました。

決勝舞台では、ルームメイトでもあった千葉のお二人の正確で豊富な知識に圧倒されて、優勝することはできませんでしたが3位という素晴らしい成績を残すことが出来ました。今回私は主に二つの事を学ぶことが出来ました。

一つ目は、どんな事柄に置いてもいえると思うのですが、正確な知識の重要さです。敗者復活戦を勝つことができたのは正確な知識のおかげであり、また決勝戦で3位になったのは正確な知識の不足であったと個人的に感じています。来年のためにもこれから正確な知識を身に付けようと感じました。二つ目は、周りの人々とのつながりです。今回チームメイトの白部君、家族、おもしろ銀行のスタッフさん、地元のラジオのDJさん、学校の先生、プレゼンのチーム、ルームメイトのお二人、エコノミクス甲子園のスタッフの皆様、スポンサーのみなさん……。どなたか一人でもかけてしまったら、今回のような素晴らしい体験をすることが出来たかと思えます。皆様本当にありがとうございました。

今回は本当に素晴らしい体験をありがとうございました。来年もし参加できるような環境であれば必ずまた参加し、ぜひこの舞台に帰ってきたいと思えます。本当に皆様ありがとうございました。

広島大会代表 広島学院高等学校 一年 白部 敬誠

僕たちは、エコノミクス甲子園の地方大会を僅か1点差で勝つて、全国大会出場となりました。嬉しい反面、運に恵まれた所も多かったため、不安を抱えた状態で全国大会へ臨むことになりました。

大会2日目は、エコノミクス甲子園名物のプレゼンテーションでした。「草の根」という難しい言葉でしたが、自分とは違う色々な意見が見られるチームの仲間のおかげで全10チーム中2位という好成绩で第三ラウンドへの進出も決まりました。プレゼンテーションを通じて、初対面でしたが、他校の人と仲良くなることのできる、良い経験になりました。本格的なプレゼンテーションは初めてだったので何もかも手探りでしたが、皆で意見を出し合いまとめるという過程は大変でしたが、達成感もあり、やりがいがありました。

地方大会の時の運が残っていたのか、大会本番では、敗者復活戦で勝ち残ることができ、ニューヨークが見えたかと思いましたが、さすがに決勝戦は強者の集まりでした。知識量も桁違いの人達が、勝ちに圧倒されました。来年は僕たちが決勝戦の強者になれるよう一生懸命勉強し、悔いが残らないようになりたいと思っています。最後に、広島から来てくださったもみじ銀行の前川さん、共に戦った中本君、プレゼンテーションで同じ班だった仙台第二、藤島、岡山白陵、ルームメイトだった県立千葉の皆さん、大会スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

山口大会代表 山口県立宇部高等学校 二年 末武 大河

エコノミクス甲子園の全国大会は二度目の出場だったため、昨年よりは肩の力を抜いて挑むことができた。残念ながら同じように連続出場していたのは那覇国際の清元くんくらいだったが、昨年の出場者が何名か学生スタッフとして参戦して、とても楽しく見えた。

そして結果は第二ラウンド敗退と、昨年(準々決勝敗退)よりも下がってしまい悔しい思いをした。昨年より知識が増え、解けるはずの問題が多かっただけに、今でも悔しい。肩の力を抜きすぎてハングリー精神が足りなかったのだろうか。

大会が終わった今でも、学生スタッフさんや出場者の人たちがツイッターやLINEなどでつながっている。エコノミクス甲子園で金融知識が身についたのは確かだが、それよりも全国の刺激を受けたこと、知り合ったことがよっぽど財産になった。

事務局の人、学生スタッフさん、全国の高校生たち……色々な人たちが色々なことを学んだ。非クイズ研究会人間としては、クイズ研究会の人たちの熱さ、学生スタッフさんの心意気に驚かされた。感動した。学生スタッフさんが全力で問題を考えて、実際の運営をし、出場者も本気で問題に取り組み、頭と体を働かしていた。勝敗なんかは小さな問題で、大会の後には誰もが何かを学んでいたように思う。

山口大会代表 山口県立宇部高等学校 二年 綿田 寛希

昨年に引き続きの出場ということで、ちょっとやそっとの事では驚かないぞ、という心意気でやって参りました。しかし、前回の全国大会で私たちが戦った、協力し合っていた方たちが学生スタッフになり、運営側の手先に戻ってしまった事は、頭では分かっていたものの、相当ショックなものでした。ただ、一年を経て、スーツに身を包むようになったかつてのライバルたちの姿に、大人のような顔もさを感じたのです。また、初参加から一年が経ち、エコ甲の影響を受け、私にもいろいろの変化が起きました。株のデモ取引を始めてみたり、センター試験の科目に勉強を足してみたり。その中で、自分の知識不足と共に、実践の大切さを感じました。

そして、大した事では無いのですが、エコノミクス公式戦において、第七回、第八回の合計7戦すべてを勝利を収めたのは、私だけだと思えます。これは密かに自慢だと思っています。ほんとに運に頼ったものではあります。出来れば、三年連続の全国大会出場と行きたいところなのですが、受験も控えていて、第九回への参加は厳しい様でございませう。ただこれだけ残りです。

私も記念すべき第十回大会では、学生スタッフとして参戦したいと思っております。大学生になっていろいろと必要不可欠であります。学生スタッフになって、高校生にどうしてか言ってもらいたいです。「皆さん、また騙されたな」と。最後にありますが、この上ない貴重な体験をさせてくださった大会関係者の方、特に、二度も一緒に上京して頂いた坂田さん、そして、僕をエコ甲に巻き込んでくれた末武君に感謝の意を表して、締めくくりたいと思います。

徳島大会代表 徳島市立高等学校 二年 東條 佑作

私にとって全国大会の3日間は「非日常」だったように思います。第7回の地方大会では予選を1位で通過したものの、決勝でまさかの敗北を喫してしまいました。それからリベンジを誓って1年。ようやく全国大会に足を踏み入れることが出来ました。しかしながら全国には強者が大勢いるということ改めて感ぜられました。地方大会の際、全く勉強せずに優勝してしまったことで天狗になってしまっていたのです。もう少し真面目に取り組んでいればと今さらながら思います。

全国大会で最も思い出深いのが、プレゼンテーションです。話好きな割に人見知りである私でしたが、自然と話し合いに積極的に参加できました。私たちのチームは「オリンピック」と「手短」というテーマでしたが、選んだ言葉が単純だったからこそ、余計にどう捨るかというのにとっても苦労しました。しかしチームで1つになってお互いの知恵を絞った結果、私なりによいものが出来たと思います。結果は10位中4位、頑張った甲斐がありました(欲を言えばベスト3で好む)。

全国大会に参加できたことは本当に良かったと思います。他界の高校生と交流することで、刺激を受けることが出来たし、また仲間良くなりました。徳島という土地では見ることも経験することもできない世界を経験することが出来ました。多くの人生で成長できる3日間でした。3日間でも得たものをこれからの意に役立てていこうと思います。

最後に、全国大会は水谷さんをはじめとする全融知普及協会のみならず学生・社会人スタッフのみなさん、協賛・後援してくださった企業のみならず、そして我々が高原さんをはじめとする各地方銀行のスタッフのみなさんといった多くの方の協力のもとに成り立っているということが改めてわかりました。みなさんに改めて御礼申し上げます。私も来年の春、無事に大学生になることが出来たならば、今度は学生スタッフとしてこのエコノミクス甲子園に参加できればと思います。

徳島大会代表 徳島市立高等学校 二年 里村 知則

今回、第八回エコノミクス甲子園に参加して私は三つのことを学びました。

まず第一に、地道な努力が必要だということ。これは当然のことですが、私たち(マツ山名)はその当然のことが出来ませんでした。だから最初の筆記クイズでも良い成績を出すことが出来なかったです。準決勝・決勝の問題もあまりわかりませんでした。地方大会での優勝が決まってから全国大会までおよそ一ヶ月もあってにも関わらず、いただいたテキストにはほとんど手をつけなかったことが、大会終了後の今も悔やまれます。

そして第二に(これは第一にも関係するのですが)物事にはバランスが大切だということです。私たちが「エコノミクス」をすればアドバンテージを得ることが出来る、という出処不確かな情報を得て、準備期間の全てをエコノミクスに捧げました。全国大会でのエコノミクスの試合は全て勝利することが出来ました。私たちが努力は報われたのです。しかし、エコノミクスばかりに時間をかけたのは愚の骨頂でした。大会の根幹である金融知識を全く身につけていないのだから優勝という栄光を勝ち取るためにはやはり、金融知識の勉強だけでなく、エコノミクスだけでなく、その二項の両立が重要だと身をもって実感しました。そしてこれは間近に控える受験勉強にも繋がると大切なことだと思えます。

そして最後に、人と人との関わりが大切だということです。相部屋にたった神奈川県の(シンドパッド)のお二人、プレゼン発表の時に協力した3チーム6人の方々、そして水谷さん・高原さんをはじめとするスタッフの皆様。3日間得た貴重な経験は皆様ののおかげで成り立っているものです。(シンドパッド)のお二人は気がくたくたに接してくださり、部屋でも本当に楽しく時間を過ごすることができました。プレゼン発表時の3チームの方々は固く素直で素晴らしいアイデアを泉のようにどんどん出してくださり、お陰さまでプレゼンは大変有意義なものになりました。今回の三日間は人と人との繋がり大切さ改めて感じることが出来たよい時間でした。この場をお借りして感謝申し上げます。

以上の三つを学んだ第八回エコノミクス甲子園。三日という短い期間ではありましたが、本当に充実した三日間でした。今回得たさまざまな経験と知識を将来に活かしていきたいと思えます。そして近い将来、またエコノミクス甲子園に関わる機会があれば、その時はぜひ参加したいです。ありがとうございました。

香川大会代表 香川県立高松高等学校 一年 川瀬 季広

まず、一言日本は広い。他の都道府県があんなに強いとは思わなかった。歯が立たないと言いたいがどうだが、まず、知識に歯が立たないことに気づかされた。問題のレベルも高くなり、知らない単語が頻りに使われた。しかも、それを平然と答えていた。ずっと「ナニコノヒトタチ、コワイ」として状態だった。さて1日目、東京に着き、晩御飯を食べ(百十四の綾田東京支店長、ありがとうございました)会場に着いた時点で、まず空気が違うと感じた。選手誰一人笑って会え「怖〜」…でも、スタッフの方々みんな笑顔で接してもらったとても気が楽になった。

そしてその後、部屋に案内された(この際、荷物全部本部に忘れてきてしまったこと口が裂けても言わないつもりだったが、あえて言う)。本部に戻りエコノミクスをした。相席同様、ホロク(2時間後)。(相手はエコノミクス創造者であることを知った。その日以後)。その後、某SNSで知り合った選手と会った。その日初めて、自然な笑顔を見た。

2日目のいきなり、終始偉そうな…もとい、終始偉達を楽しませてくれた人が、テストを出し、一気に精神萎縮した。その後半日にかけてチームプレーで頑張ったみたいなんぼ〜もとい、広辞苑での単語プレゼン、まともな単語が無かったの(で)聞かず、聞ルート、切り捨て御免、等々。1番まともな選りたんなびを選んだわけだが、どう考えても無理があった。その後、某エネルギー飲料の種類によって翼と爪を授けられ、閃き、ヤル気・元気が頭漲ってみたいもの、無理がありました。

夜、プレゼンが終わってエコノミクス大会をたどき、僕の運をい果たすタイミングがあった。「キャンブル」だ。第一戦、最後の最



# 全国大会感想 Final tournament report



後にギャンブルのカードを使い引き分けに持ち込んだのだ。が、今更なのだが、あれはルール上僕の負けでしたね。(それから、ギャンブルという名を轟かせた)

さて、全国大会本番なのだが、特に触れるような所はないだろう(というか、触れたくない)。

いろいろなことがあった。いろいろなことを学んだ。そんな3日間だった。

スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。来年も頑張りたいと思います。

香川大会代表 香川県立高校高等学校 一年  
藤川 祐祐

エコノミクス甲子園に参加して学んだことは、日本には自分の知らないこと、知らないライバル、知らない場所や文化がたくさんあるということです。クイズ形式の問題から、プレゼン形式の問題まで、そのうちどこかで仲間と対戦したりクイズ形式の問題も重要な要素を学ぶような気がします。また、カードゲームが点数に入ったり、無作為に選ばれたチーム戦が大きな得点を占めたりするなど、数値化できない概念、いわゆる運の大切さというものも垣間見たような気がします。

二日目はアクティビティと表して、いわゆる宿泊学習のようなことをたくさん仲間と一緒にしました。筆記試験では、地方大会から傾向の大きく変わった試験に、自分の勉強の甘さを痛感しました。そしてその日のメインイベント、プレゼンクイズ。無作為に選ばれた仲間と、無作為に選ばれた広辞苑。僕たちのチームに課されたページでは、まともな言葉さえ「キリスト・ギリシャ……」そんなか、秋田県のメンバーが、「さくらたんぼ」という言葉が存在しないことを発見しました。僕にもありますがこの言葉を使用。正直僕のチームの言葉を見ても「うらやましいなあ」と感じなかったと言えませんが、それでも、僕たちのチームなりにクイズなものが作れたと思います。夜のカードゲームの対戦では、ほかの人から1ターンキル(※何行動できずに相手ターンのみで試合の勝敗が決してしまうこと)を決められ、自分の見通しの甘さを悔いました。それでも、たくさんの人と交流することができて、楽しい時間を過ごすことができました。

三日目はエコノミクス甲子園本選でした。残念ながら僕たち香川チームは予選敗退でしたが、準々決勝以降のクイズでは、ほかの県の強者の、並一通りでない知識の量に感銘を受けました。特に印象に残った設問として、「バックマン・ディフェンス」が挙げられます。僕はゲームが好きですが、そのゲームと関連した経済用語があるとは知らなかったのです。すぐ興味深い設問でした。二つ産業クイズでは、いわゆる雑学とされる知識を、多数の人と楽しく回答することができました。これはわかるだろうというような設問から、こんな勘でしかかたえられないだろうという設問まで、いろいろな種類を楽しめました。

決勝戦のドミナントに関連したクイズでは、さすがにレベルの高い問題ばかりで、観戦していた僕も解けない問題がたくさんあって、自分の足りなさを感ずりました。

こうして僕の東京での3日間は幕を閉じました。この三日間は、冒険でも迷ったように、いろいろな「出会い」によって彩られました。学校では体験できないような、大切な経験をすることができました。また機会があれば、このような場にぜひもう一度参加できたらと思います。

愛媛大会代表 愛媛県立松山西中等教育学校 二年  
宮岡 大

今年私たちは、地方大会を勝ち抜くことができ、東京で行われた全国大会に愛媛代表として出場することができました。

1日目は移動だけでしたが、2日目の朝から、筆記クイズが始まりました。朝だったので、あまり解けず感じませんでした。そこからグループに分かれたプレゼン準備に取りかかりました。具体的な単語を選べたと思いましたが、そこからの発想が難しく、メンバーと苦しみました。議論に議論を重ねてきた模造紙は、私の中でとても印象に残るすばらしいものでした。

3日目は、全国大会本番。一番最初にステージに出るとのことですが、私の緊張は最大に達していました。第一、第三ラウンドに進みましたが、第三ラウンドに残ることができず、敗者復活もだめで、歯がゆい思いをしました。残っていたチームは、みんなレベルが高く、本当に圧倒されました。自分たちはまだまだだなと思いがちで、もっと頑張らなければならないと思います。

私は、全国大会と名のつく大会に初めて参加したため、全国の皆さんはどんな感じなんだろうと、少し緊張していました。しかし、同じ部屋になった人たちや、同じグループになった人たちは、とても仲良くすることができました。それと同時に、全国にはすごい人たちがたくさんいることを知り、いい刺激になりました。自分もその人たちと少しでも近づけるよう、もっと努力しなければなりません。今回、このような貴重な体験ができ、とても良かったと思います。

愛媛大会代表 愛媛県立松山西中等教育学校 二年  
滝澤 唯明

私は今回、初めて全国大会と名の付くものに参加致しました。到着するまでは緊張と多大なストレスのせいか、ひたすら暗いことを言いながら勉強をしていました。ペーパーの人に恐怖を与えたくもありません。ごめんなさい。

けれども一度宿舎の部屋に入ってしまったら、落ち着きました。最初はどうも人が同じ部屋に泊まるのか、他人はどんな感じの人なのか。分からなくて怯えてました。けれど会ってしまえばなんてことはない、やはり皆高校生でした。まあ、全国大会の時にこの考えが甘いことを思い知らされましたが……。

同室の子達と話しながら朝顔を済ませた二日目。いきなり筆記テストに立ちそじりました。

分かんない問題はあるわ、いきなりすぎて頭は痛むわい、混乱のまま分け発表を、混乱のままプレゼンテーションの準備に取り掛かりました。そのときの単語決め。この時点で既に差はつくんですね。ある意味運が必要作業にもなりました。そして本格的な準備に入りました。自己紹介や地元の話をして作業に。一番私を手取ったと感じた作業はプレゼンテーションです。意見を出すにしてもどんな意見を出したら良いか、どこまでなら許されるのか、分からなくて戸惑いました。

なんやかんやとやって、なんと完成させたプレゼンを持って

て前夜祭へ。いかにエコノミクス甲子園が規模の大きい大会か分りました。

緊張の中終了前夜祭とプレゼンテーション。他のグループと被っていて、むしろそのグループの方がきちんとまとめれていたことに関しての驚きと落胆は今でも覚えています。またその後のエコノミクスでは全敗。もっと真面目にしていたら、と後悔しました。

そして、緊張の中迎えた3日目。本大会。緊張したまま迎えて詳しい内容は三回戦以降しか覚えていません。

その中には難易度の高い問題や、そればかりかと問いたくなる嫌がらせのような問題がありました。それでも知らないことを知る、という最初で自分で決めた目的は達成できました。

全国大会を通じて、様々な人と知り合いました。新しい事を学べました。参加できなかった学べなかったことも多いと思います。また、この度は同室の子達や学生スタッフの皆様と大変お世話になりました。

私もいずれ出来るのでしたら参加して学生スタッフとして次の世代へエコノミクス甲子園というものを繋いでいきたいです。

高知大会代表 高知学芸高等学校 二年  
堀田 理子

大会は今回が初めてということもあり、まったくわからない状況からの参加でしたがすごくいい経験になりました。ただ全国大会前は行事や試験が続き満足に勉強もできないまま、中途半端な結果に終わってしまったことは本当に残念です。エコ甲で一番印象に残っていることは初めて出会う全国の高校生と一緒に企画を練り、プレゼンテーションをしたことです。全国の高校生と出会ったのは3日間という短い時間ですがとてもいい仲間ができました。プレゼンテーションをしたというのはもちろん初めてのことで、私は呼び込みの担当でしたが人に自分のいいことを伝えるというのはすごく難しいことだと思いました。まだまだ印象に残っていることはたくさんあり、とてもここに書ききれません。ただ経済学というものの奥深さ身にしてみても感じ、そしてこれからは学んでいくべきものでもあり、国、すなわち日本が成り立たないというものは私たちが一人一人の存在も成り立たないものだと思います。私たちが幸せな人生をおくるために経済は必要不可欠なものだと思います。これからも、一生経済のことは学んでいきたいです。たくさん思い出、出会い、そして刺激をありがとうございました。

高知大会代表 高知学芸高等学校 二年  
林 吉子

私がエコノミクス甲子園に出場したきっかけは相手の堀田さんの誘いでした。私たちが夏休みにクイズにはまり、その流れで金融経済クイズ選手権という全国規模のクイズ大会に申し込めました。高知で地方大会が行なわれるのは初めてで、大会についても問題形式についても予備知識は何もありませんでした。また、地方大会の時期が期末テストの真っ最中であつたこともあり、事前学習が足りていない状況で臨むことになりました。それでも自分たちの知識とチームワークで勝ち進み、全国大会への出場を決めた時は驚きと自信が混ざり合ったような気持ちでした。その日から全国大会当日までは、経済のニュースや新聞等を見て時事問題に備えたりしました。

さて、いよいよ全国大会当日。またまた日程がテスト・行事と重なって追い詰められし……高知から東京への長旅で到着後はぐっすり寝てしまいました。起きた次の日は朝からペーパーテスト。もう少し勉強しておけば……と悔しくなるような問題ばかりでした。

午後からの新ビジネスを考えるプレゼンテーションでは初対面の人とアイデアをぶつけ合い、自分たちの納得する意見をまとめる。すばらしい時間を過ごすことができました。

イノホールの大会本番は、あれよあれよと言う間に観戦側に戻ってしまい、悔しい思いをしました。そんなところまで勉強しての……と全国の強者にたたきだされた感心するばかりでした。

エコノミクス甲子園を通して、私の中で小さな変化がありました。それは、金融や経済の話題について以前よりも関心を持っているようになったこと、ニュースや新聞で用語のことの意味がわかるようになったこと、前までは用語の意味がわからず、小難しく聞かされていたことも、自分なりに噛み砕くことができるようになったこと、です。

高校を卒業し、一人暮らしを始める時、社会人になる時、お金の問題は嫌でも人生についてまわります。経済が身近になることで、自分の将来がもっと理想的になるような気がします。

エコノミクス甲子園に出場することができてよかったです。ありがとうございました。

福岡大会代表 福岡県立修猷館高等学校 二年  
綾部 将典

「これって、エコノミクス甲子園なの？」

おそれ、大会二日目にアクティビティ(プレゼン)の課題が発表された時、多くの人がどう思っただろう。その日は、朝一番のペーパーテストで不意打ちを食らい、頭なやぶるに……と言っていない、でも、広辞苑から言葉を探さないといけない、この言葉を使えばビジネスモデルを作れる。今集まったばかりのチーム内でお互いの顔を名前も一致しない、こんな状態ではまともな会話もできない。話している内に、向かうべき方向性が、あれよあれよという間に出来る。さすが、全国大会だけあって、スベック高いなと感心している間に、テーマが決定。僕たち「チーム激震」は、テーマ設定が一番に、作業する部屋に向かう。しかし、プレゼンテーションから、アイデアを模造紙にまとめていく。時間はあっという間に、充実したものだった。各人が、自分は何をすべきなのかを常に考えていたため、作業はすべてがスムーズだった。おかげで締め切りの10分前には作業を終えることが出来た。

レセプションの時も、あっという間だった。自分たちのモデルに、是非出資してほしい。本当に顧客を獲得していくつもりで、簡潔に、貪欲にプレゼンを続けた。客引き、レジュメ、質問回答、すべての仕事の流れのように進んだ。プレゼンする立場として、とても気分がよかったです。レセプションが終わった時には、大きな達成感があり、

このビジネスモデルを本当に成功させるのではないかという根拠のない自信さえ生じた。

プレゼン、クイズともに、思ったような結果ではなかったが、この「エコ甲」で培った技術、「つながり」を今後でも持続していきたいと思う。

福岡大会代表 福岡県立修猷館高等学校 二年  
清水 理子

「この3日間は本当に貴重な経験ばかりであった。」

全国大会を終え、私は一番にこう感じた。3日間にわたって行われた第8回エコノミクス甲子園全国大会を通して得たものは単なる金融知識だけではないと思う。

ちょうど経済学に関心を持ち始めていた頃に同じクラスの友人から誘われて参加したこの大会。福岡大会で優勝し、全国大会へと駒を進めた。「全国」の壁は相当高いだろうと予想はしていたが、実際に出会った全国の仲間たちのレベルは、私の予想をはるかに超えていた。

特にこのことを痛感したのは、二日目の行われた、グループアクティビティである。私のグループは、「東京オリンピック」×「激震」というテーマの下で新しいビジネスを考案した。どのようなビジネスになるのかを考えるブレインストーミングでは、経済という枠を越え日本が抱える社会問題や国際問題、そして自分が日頃感じていることなど、様々な話題に関する自分のアイデアを出し合い、今振り返ってみると約6時間、立ちっぱなしで議論やプレゼンの準備をしていた。このときは「皆、いろいろな分野の情報を発信し理解しているだけでなく、整理した上で、その情報に対する自分のしっかりとした意見をもっている」と感じた。情報にアクセスしているこの現代社会を生きている私たちは、「情報を得る」ということに執着するあまり、高品質のものに対しては受動的になってしまっていないだろうか。これからの社会では、自分の意見・立場を確立した上で、情報を取捨選択し、その情報に対して自分自らの考えを持つことが求められる。情報を取捨選択し、理解するという過程に欠かれないのが、今回の大会で培った金融知識であり、その金融知識を生かすには、それ以前にあらゆる物事に関して自分の立場を明確にしなければならぬ。このグループアクティビティを通して、情報に対する姿勢と自分自らの意見を日頃から持つことの大切さを改めて考え直すことができた。

また、大会期間中、他校の生徒と交流を深めることもできた。このような交流を通して、他校・他地域の特色や文化を知るだけでなく、自分の学校の良さも再発見することができると言うのも、このエコノミクス甲子園の魅力の一つであると思う。

今回の大会で培った金融知識は、クイズのためだけでなく、自分の人生、そしてこれからの社会をより良いものにしていくために活かしていくべき能力である。今後も自分の金融知識を磨き、経済をはじめとした様々な社会事象にも興味をもち、また今回得た「刺激」を忘れずに日々精進していきたいと思う。

貴重な機会を与えて頂き、本当にありがとうございました！

長崎大会代表 長崎県立佐世保北高等学校 一年  
森山 智貴

第8回エコノミクス甲子園全国大会に出場させていただいて、大変多くのことを学ぶことが出来ました。

まず、この大会の本質である経済のことと言うと、いままでんとなくしか見ていなかった経済関連のニュースを、より深く見るようになりました。大会のため勉強することで、ニュースをよく耳にする「金融緩和」や「財政出動」などの影響を知ることができ、社会の動きについてより関心を持てるようになって、本当に良かったと思います。さらに、今回はじめて「鉱工業生産指数」や「機械受注指数」などの経済指標を見ました。以前よりも、はるかに大きな金融知識など、金融・経済に対する関心を持てるようになりました。

また、全国大会では、全国から集った人々と交流することが出来ました。とくに、東北地方の方や、北陸地方の方と初めて会話をしました。聞いたことのない言葉やイントネーションなどがとても興味深く、「世界にはまだまだ知らないことがあるのだなあ」と思い、学業だけでなく「学び」への意欲を高めることが出来ました。私の住む長崎県は本島の西端に位置し、なかなか他県との交流がありません。今回の経験は、なかなか得ることのできる貴重なものだったと思います。

これからの社会では、金融に触れることがますます多くなると感じます。私の家でも、投資信託をしていたり、株を保有したりしているところもあります。私達の幸せな暮らしに欠かせない「お金」について、これから学習を続けて、金融知識を深めていきたいです。

最後に、大会でお世話して下さった協会の方々や学生スタッフの皆さん、外泊と早退の許可を出していただいた方、学校にありがとうございました。

長崎大会代表 長崎県立佐世保北高等学校 一年  
藤永 寛生

今回、エコノミクス甲子園に参加することができて、たくさんのいい経験をすることができました。

一番いい経験になったのは、たくさんの人に出会うことができ、いろいろな話ができただけです。

チームの時は、全く違う地方の人と話しをすることができ、いい交流をすることができました。

話を聞いて貰っていたことは、チームの人の知識量の多さです。私も自分でいろいろだと思っていましたが、チームの人達との話では1日一緒に過ごして一度も話が途切れずに楽しめました。話の内容は、面白いものから内容が深いものまで様々で、各地方であるところが話しました。普段、深くないことがたくさんある。この甲子園で得た知識も、今後の人生に生かしていきたいです。

最後になりました。このような素晴らしい場を作っていただいた金融知識普及協議の皆様、長崎県大会からお世話をしていただいた十八銀行の皆様、並びに関係者の皆様にお礼申し上げます。

宮崎大会代表 宮崎第一高等学校 二年  
河埜 友哉

今回のエコノミクス甲子園は、高校生最後のクイズ大会参加と



# 全国大会感想

# Final tournament report

決めていただけに全国大会の切符をつかめたときは本当に嬉しかった。そして臨んだ全国大会は高校1年の時に参加した高校生クイズの全国大会とは比べ物にならないくらいハードで、しかし面白かった。

一番大きかった相違点はプレゼンテーションだろう。広辞苑から単語を無作為に選び、その単語と「オリンピック」を結びつけビジネスモデルを作る。公書けば簡単そうに見えるのに、実際はとてつもなく難しい物だった。

「骨」となるテーマを決め、単語と関連付ける。「収益性」というのも考慮しなれない。模造紙にまとめて「魅力的なプレゼン」夕食会です。手探り状態だったが、時間が経つにつれ次第に形になってきた。そしてグループで「共闘」することになった他の地区代表との仲を親密にでき、そして一体感が生まれた。

二日目と三日目の本選の予選ラウンドを戦い抜くことが出来た僕たちは、次のラウンドに進む事が出来た。準決勝・決勝には進めなかったが、13位で終わったことは誇りにしている。

この全国大会は私にとって本当に大きな経験になった。他の地区代表とさまざまなことを話したり、クイズの対策をしたりと交流が出来た。(特に相部屋だった石川代表、プレゼンを共に戦った栃木・愛知・鳥根代表の方たちには本当にお世話になった)

この大会で培った経験を大学受験に活かして、大学生になった後はこの大会のスタッフとしてエコノミクス甲子園と再び関わりたいと感じた。

宮崎大会代表 宮崎第一高等学校 一年 山之口 瑛悟

私は「エコノミクス甲子園」に参加して日常では経験できない事を数多く経験し、そして多くの教訓を得ることが出来た。

まず日本中の学生と交流できたこと。そうだった人々と交流してさまざまな考えを知ることが出来た。さらに、私と同じように「クイズ研究会」に所属している人と戦うことができ、とてもよい経験になった。

次に経済の知識をつけ、それを確認することが出来たこと。全国大会出場、全国制覇という目標の下で勉強に励むことはとてもやりがいのあるものだった。そして大会の緊張感の中で自分の知識を振り絞って戦い、本当に力がついたのか確かめることが出来た。

最後に、大会の緊張感とハードスケジュールの中で以下に冷静でいられるのが大切だと思った。私は大会の前日にさまざまな失敗をしてしまい、ペースを乱した。その結果同じチームの人やその他多くの人に迷惑をかけた。ペースを乱して自分たちのチームの力が出せなかった。私はこのような失敗は二度としてはならないと思った。

この大会は日常から少し離れたところで、さまざまな経験をさせてくれた。そして経済の知識だけでなくかけがえのない人生に役立つ教訓を共に手に入れることが出来た。

私はまだ一年生であるから、今年の経験を活かしてまた来年全国に出たいと思う。そして今年果たすこと出来なかった全国大会優勝をしたいと思う。

鹿児島大会代表 鹿児島県立鶴丸高等学校 二年 松山 博幸

前年のリベンジを果たし、遂に臨んだ全国大会への切符。それを手にし、出発を待つ私は不安で一杯ではあったが、離陸後、窓から見える夕陽の沈もうとする錦江湾に悠然と佇む桜島を目に焼き付け、そんな気持ちでやりこめた。

到着した羽田での迷子騒動の後、バスや地下鉄で目的の宿舎へと向かったが、その途中に目に入ってきたもの全てが地方出身の私には痛く新鮮であり、倦れを前にして期待が高ぶってきた。

受付を済ませた後には足を踏み入れた部屋には既に全国から集まってきた精鋭たちに溢れ、「この人たちは誰だか」と思っていると、鹿児島で抱いていた不安が再燃する一方、「やてやて」という気持ちがあみぎざってきて、眠ろうにも眠れない夜となった。部屋を共にした福井代表藤島の人とこの夜は様々なことを語り合った。

夜が明け、いよいよ戦いが始まる。と気を引き締め、集合場所に向かった。(ちなみに、東京の醤油の辛さに驚いた朝もなかった。)[何が始まるのだろうか...]鹿児島大会でもお世話になったスタッフの中村さんが可動式の椅子、そしてユーモアに溢れた話術を巧みに操り、最前列に座っていた私たちは圧倒された。そして、息つく暇もなく始まった筆記テスト。結果については触れないでおこう(苦笑)

そして、迎えた午後は四チーム合同でのプロジェクト作り。聖光、浜松西、修猷館の三チームと共に「オリンピック×激進」で自分達と同年代をターゲットとした脱電子機器の観戦プランを製作した。その時、もっとも衝撃であったのは他校の積極性、知識、創造性である。今でも私は自信の性格を悔いている。自身の考えを発信することにすら努力を要するのは情けない。私がこの三日間で最も身に染みて感じたことだ。

本物の投資家相手のプレゼンの際は、傍らで情報サポートの役目を務めた。そのサポートが十分だったかは自信がないが、ひとつのプロジェクトを共に作り上げた皆を心から信頼して発表できた。

そのレセプションの後行われた「エコノミクス」では二戦二敗、悔しい！

そして、いよいよ迎えた最終日。藤島の人とエール代わりにお互いの校歌を流し、気持ちを高め、インフォホールへ向かった。鶴丸高校として二度目の全国の舞台、結果を出さねば...と思えば思うほど慎重になってしまった。早押し問題やそれに続く第二ラウンドでも目覚ましい結果を残せず、予選敗退を予感した我々は沈黙の昼食を摂り、観戦を楽しもう！と気持ちを切り換え、会場に戻り、予選突破を聞いた私たちは驚いた。予選を突破した、いや、してしまっただ。そして、間髪入れずに始まった第三ラウンド、産業スパイクイズ。鶴丸が最も輝いた(?)ラウンドかもしれない。スパイクイズは他のチームに疑われつつも、それをかわし、他の二チームが追放されたことで、私たちが追放される心配がなくなったのを知り、私たちは正解を積み重ねた。そして、私たちの所属するチームが準決勝への進出を果たした。本当に運に恵まれた。

そして、第四ラウンド、ボタんに嫌われたのか、良い回答期を得られず、4位タイとなり敗退してしまっ。悔しかかったものの、悔しさを吐き出した気持ちもあつた。純粋に他のチームの力にすごいと思わされた人がある。日本は狭い、なんて言われてくることがこんなに素晴らしいからである。私は知らなかった。日本は(ひろい)のだ。

帰りの飛行機の中、東京の夜景を見下ろしながら、また帰ってきやう、そう思った。

このエコノミクス甲子園を通じて私は金融知識はもちろん、鹿

児島、そして、東京でバイタリティ溢れる人たちに会おうことができ。日本の未来を憂える、というのは少し過剰なことのように思える。間違いなく日本をこれから支えていくであろう生徒やスタッフ、そして協会の皆さんがこんなにも光に溢れている存在であるからだ。その希望は今の私の全ての行動の原動力である。そんな希望を胸に私はこれから生きていきたい。

金融知識普及協会やスタッフや大会を支えてくださった方、そして出場した皆さん、ありがとうございました！

鹿児島大会代表 鹿児島県立鶴丸高等学校 二年 住吉 康大

鹿児島へ戻ってきて数日。私はホームシックならぬエコ甲シックのような状態に陥ってしまっていた。

1日目、福井代表藤島高校と相部屋と知らされたはいけれど、福井の基本知識はほぼ0。お互いの印象が薄く、何も言えない空気から始まったけれど、3日にわたる共同生活を経て、大切な盟友となった。

2日目、空白だらけのスケジュールが、怒涛の勢いで埋まってくる。まず筆記。次はグループワーク。これが恐ろしいほど大変で、また恐ろしいほど楽しい課題だった。マシンガントークの聖光学院、冷静さの浜松西、リーダーシップの修猷館。毛色の違う初対面の8人の思いが重なり、劇的な化学変化を起こして進んでいく。その過程を目にし、また自ら参加する興奮は最高だった。エコ甲の神髄ここにあり。「このビジネス、本当にやらない?」...評価や点数云々より、仲間のこの言葉がすべて、本当に最高の時間だった。

エコノミクスがなぜか学生スタッフには勝たず、青森子に負けた。鳥取西の二人、田舎トーク楽しかった。

かくして3日目の本番。奇跡のスパイクで勝ち抜き、存分に校名を売った第三ラウンド。そして第四ラウンド。そこにはなんと盟友・藤島の二人！ともに敗退してしまっけれど、トップ6に入れたことは本当に誇りに思う。

この3日間、日本の未来は明るいと思えるような同年代の人たちにたくさん出会えた。どんなクイズ大会にも負けない価値が、そこにはあった。「資本なんて、こんなものか!」閉会式での野中さんの言葉を心に刻み、未来への一歩を踏み出していきたい。本当に素晴らしい時間を、ありがとうございました。

沖縄大会代表 沖縄県立那覇国際高等学校 三年 演元 貴大

エコ甲は第七回大会に続いて2回目、また3年生で挑むという今年は何年大会になるのか楽しみだった。また、どんなダメが待っているのかと思っていた。去年は全く無く、ラジオ体操も無かった。今年はずいぶん変わったと感じました。

2日目のアクティビティは昨年とあまりプログラムが変わらず、「エコノミクス広辞苑」、われわれの班は「手短」とオリンピックを組み合わせてベンチャー企業となって投資を呼べ!というところでポスター作りをし、プレゼンせよ!という課題で最初はなかなか作業が進まずに間に合うかと焦ったけれども、グループで協力してちゃんと完成までできたと思う。プレゼンも皆がんばったと思いたい。だが、本当に投資家の方々が来ることは思ってもいませんでした。また、その後のエコノミクスも全勝することができてとても楽しかった。エコノミクスも広げて欲しいと思います。

インフォホルでの全国大会の第二ラウンドの問題は全員参加型の面白いクイズだったと思います。しかし、3位で通過して挑んだ第三ラウンドではスパイクを当てられず敗退してしまっ。敗者復活でも復活できず今年はずいぶん優勝する気で挑んでいたのに、本当に悔しかった。知識だけではなく、運やいろいろな思考の必要性も痛感しました。

エコノミクス甲子園に出場して、今年も地方の代表のチームや学生スタッフの方と関わったりと、とてもいい経験ができたと思うし、これからもSNSを利用して関わりたいたいと思います。同じになったチームや大会関係者の皆さんに感謝したいと思います。来年は学生スタッフとして参加できたらと思います。

沖縄大会代表 沖縄県立那覇国際高等学校 三年 宮城 佳佑

私がエコノミクス甲子園に出ようと思ったきっかけは、相手の演元君に誘われたことです。好きな科目が政治経済であり、将来金融機関への就職願望があるという私にとって出場したいという選択はありませんでした。地方大会前からは毎日日経新聞を読み、協会からいただいた教材ややり込み、その他教材も勉強しました。そして迎えた全国大会。わくわくが止まりませんでした。

2日目では、プレゼンが特に印象に残っています。短い制限時間で完成できるか不安でした。しかしチームのメンバーの心強さを感じ、その不安はすぐになくなりました。広辞苑の数ページから見つけた言葉だけでこれほどまで濃厚な議論ができるのかと驚きました。地方大会の優勝を勝ち取った者のような猛者達が集まるとやはり出てくるアイデアも様々で、しかも現実的でレベルが高かったです。また、プレゼンは「プロの投資家が審査する」ということだったので、本当かなと少し疑ってしまっ。きつそう聞いておいて、学生スタッフが審査するのではないかと親戚的に考えていたので。しかし、本当に金融機関に勤めている人の方が審査したので私の緊張度は急激に上がりました。それでもチームで助け合っしてプレゼンをして、なんとか乗り越えることができました。

3日目はとても悔しい思いをしました。予選三位通過だったので、うまくいけばこのまま決勝までいけるのではと思いきい、モチベーションが上がっていた分、第三ラウンドで負けしまったのは悔しかった。第三ラウンド以降のラウンドに参加せず、観客席から見るとはおもしろくないだろうと思っしてしまっ。しかし、予想を大きく裏切られた。見ているだけでも、とても面白い。エンターテインメント性溢れる形式のクイズばかりでした。楽しく学ぶとはこういうことなのだなと実感しました。

クイズだけでなく、有識者のありがたいお言葉も強く心に残っています。クイズ以外の面でも本当に貴重な経験をさせていただきました。学校では詳しく学ぶことはないが、自己責任の時代である現代において欠かせないこと。それが金融知識であると思います。それを学ぶ機会を与えてくれたことに感謝しています。経済への興味も以前よりいっそう増し、ニュースも以前より興味をもって見ることも多くなりました。これからは金融・経済の力を駆使し、金融リテラシーを向上させたいです。

最後になりましたが、金融普及協会、学生スタッフ、沖縄銀行、その他エコノミクス甲子園に関係するすべての皆様方、素晴らしい経験をさせていただき本当にありがとうございました。

インターネット大会代表 関西学院高等部 一年 仙田 晴紀

私はこのエコノミクス甲子園全国大会に、インターネット大会代表として参加させて頂きました。インターネット大会では、四択問題と論述問題の合計点で競い合いました。私達のチームは、四択問題ではあまり点数を取ることが出来ませんでした。論述問題で点数を大きく稼ぎ、優勝することが出来ました。初めは軽い気持ちで参加したので、優勝した時はあまり実感がわきませんでした。ですが、全国大会が近づくと、様々な準備をするようになり、やる気が出てきました。

今回の全国大会に参加し、多くの経験を得ることが出来ました。まずはじめに、日本全国の学校の皆さんと交流することが出来た。たくさんの友達を作ることが出来ました。また2日目のプレゼンテーションでは、初めて会ったばかりのチームと協力し、各自が持っている力を出し合い、ひとつの目標に向けて進んでいくという、なかなか普段ではないようなことが出来ました。最終日の大会では、良い結果を残すことが出来ませんでした。自分の持っている力を発揮することが出来、良かったのですが、敗退した後も、プレゼンテーションのチームの仲間を応援することができ、出題された問題も面白く、とても印象に残っています。

今回、このエコノミクス甲子園全国大会に参加したことで、たくさんの多くのことを学びました。経済や金融の知識だけでなく、仲間と協力する大切さなど、普段あまり学ぶことのない多くのことを学びました。私はまだ1年生なので、来年も全国大会に出場できるように、頑張りたいと思います。

インターネット大会代表 関西学院高等部 三年 田嶋 諒一

私は地元兵庫県の会場大会がなかったためインターネット大会に出場しました。同じクラブの1年生がエコノミクス甲子園をネットで見て、誘われたので軽い気持ちで参加したのが始まりでした。インターネット大会では四択問題を検査エンジンで検索することが可能なことで、あまり差が開かず論述での勝負になりました。結果、全国大会に駒を進めることが出来ました。インターネット大会で知識をほとんど使うことなく勝ち上がったので地方大会を勝ち抜いたチームはやはりものすごく知識の量なんじゃないか、とか果たしてまでも勝負できるのかなどと不安を感じながら全国大会を迎えました。

全国大会では知識を問う問題だけでなく、プレゼンやエコノミクスも楽しみなが競い合うという面白さもあり非常に楽しかった。特に楽しかったのが6時間でプレゼンを作成し、実際に投資家の方々にプレゼンをするという企画でした。4チーム1組を2組に分けて決めたことでの3チームの方と親睦を深めることが出来ました。結果どうこうではなく全国の人とつながりが持てたということに喜びを感じました。

全国大会自体の結果ではベスト18に入ることはできませんでしたが、いろいろな大会と出会えたことはそれだけで全国大会に出場すること大きな意味があり大きな財産になったように思います。

また、今大会は大学生スタッフを始め様々な方々のサポートがあり本当に楽しい大会だと感じました。本当にありがとうございました。



# NY研修旅行の様子と感想 Study tour



千葉県立千葉高等学校  
池田 麟太郎

4月1日。友達に、「NY行きは飛行機の機材到着が遅れたために急遽中止になりました。」前日に用意していたにもかかわらず結局言わずじまいに終わってしまったエイプリルフールの文面を削除しつつ、成田空港をあとにJFK国際空港へと向かいました。フライトは13時間ほど。以前父親の仕事の都合で海外生活を経験していましたが、これだけ長いフライトは初めてで、13時間も何すればいいんだ……と直前まで頭を悩ませていましたが、結局いい案も浮かばず、機内では映画を見たり、寝たり、音楽を聴いたり、ゲームをしたり……。だらだらと過ごしました。

JFKに無事到着し、空港内の英語の広告を見て、「ああ、アメリカに来たんだなあ」と実感しました。ちなみに内容はバイオマスに関するも

のばかりでした(流石はアメリカ)。空港からは一応バックツアーでの旅行でしたので、ツアーガイドの方がホテルまで案内してくださいました。ホテルは超一流ホテルで、「こんなところに泊まるなんて、庶民の自分は逆に気疲れしてしまう……」などと思いつつも、ふかふかのベッドの寝心地を確かめてうきうきしていました。

初日の午後は特に企業訪問の予定がなかったのですが、NY市内を観光しました。最初に行ったのは大人気のハンバーガー店、マクドナルド!!ではなく、いわゆるグルメとしてのハンバーガー専門店のBurger Jointというお店で腹ごしらえを……と思いついて行ったのですが、なんとすごい行列!!並んでいる人の数50人といったところでしょうか。1時間ほど待つようやくバーガーにありつけました。味は大味ながら肉の厚さと焼き加減がとてもよくできていて、非常に満足な出来栄でした。その後、ロックフェラーというビルにのぼりました。向かい側にエンパイアーステートビルが見える、NYでも

トップクラスの高さを誇るビルで、下をのぞきこむと足がすくむのがわかりました(高所恐怖症のため)。それから、タイムズスクエアに行き、例の赤い階段のところまで少し夕涼みをしました。人が大勢いて、NYの人の多さを改めて実感しました。その後、近くのお店をのぞきこんだりして、疲れてもいたのでホテルに戻り、ゆっくりと休みました。

2日目は朝から企業訪問でした。朝食を近くのdeli(朝食がとれるカフェのようなどころ)で食べ、準備万端。最初はRussell Investmentという投資信託の会社を訪問しました。案内してくださった方の中に日本人の方はいらっしゃらなかったのですが、英語での説明を受けました。先述の通り僕は海外にいたことがあったので、英語は多少は聞き取れると思っていたのですが、思ったよりも経済に関する専門的な話をされるとわからないことが多くて、やっぱりまだまだなのかな……と感じました。投信については、Russellがほかの投信を



行っている企業とはどういった点で違うのかを熱心に説明していただきました。一番のポイントは、数字で顧客を判断するのではなく、実際にお会いして、そこでお話を聞いて判断するという、人を見ていということが、Russellの一番の大きな特徴だそうです。

続いて、昼食をその辺にある屋台で売っているラムご飯(羊肉と野菜との炒め物×サフランごはん)をいただき、ニューヨークにある総領事館へ向かいました。そこで日本人の方と、NY総領事館がどんなことをしているところなのかなどの説明をいただいたのち、しばらく経済についてお話をすることができました。アメリカから見た日本や海外、そしてアメリカ国内の情勢などについて学ぶことができました。

総領事館の後は、経済に関する二つの博物館をめぐる予定です。米国内の歴史についていろいろと説明がされていたのですが、午前中に英語をガッツリ聞いて疲れていたの、正直

展示されている作品の英語の説明はちょっときつかったです。その後、tiger pacificの武神さんというお方とお会いして、ヘッジファンドの仕事について学びました。気さくなお方で、非常に面白い話をしてくださいました。tigerの会議室でお話を聞いたのち、武神さんも一緒に、ステーキハウスに行き、ごちそうになりました。アメリカのステーキは日本のそれとは大違いで、ボリュームもさながら、焼き方もアメリカンで、非常にインパクトがありました。ボリュームも味も大満足でした。

3日目、朝食は2日目同様deliで食べ、午前中は、今回の研修旅行の際にいろいろと手牌をくださったcitibankの中山さんという方と合流して、まずはBloombergという情報発信会社を訪れました。そこで社員の方に案内していただいたのですが、その最中に超有名なアナリストの方と偶然お会いすることができ、日本から来た高校生ということで少しの間

ですがお話をすることができました。経済に関するラジオ放送に彼は出演しているそうなのですが、なんと、そのラジオ放送の中で、日本から来た高校生のことを少しの間ですが紹介していただくことができました。本当に貴重な体験でした。放送後、再びお会いすることがありまして、その際に、将来経済を志すうえで絶対に読んでおいた方がいい、彼おすすめの論文を教えてくださいました。これから勉強するつもりです。

Bloomberg社の後は、次の千葉銀行の訪問まで少し時間があつたので、中山さんのおススメで、Momaの現代美術館を見て回るようになりました。あまり絵画には造詣が深くない自分でしたので、よくわからなかったのですが、それでも、美術の教科書などで見たことがあるような作品がいくつか展示されていて、「ああ、ここに展示されていたのか〜」と驚いていました。



# NY研修旅行の様子と感想 Study tour

昼食の後、千葉銀行のニューヨーク支店を訪問しました。地方銀行でニューヨークに支店を持っているのは千葉銀行を含め3行のみだそうで、私たちの母校の出身でいらっしゃる行員の方にお話を伺うことができました。また、千葉銀行では、実際に電話で取引をするところを見せていただきました。電話一本で何億というお金が動くことに、お金っていったいなんなんだろう……と素朴な疑問を抱いていました。

千葉銀行の後は、再び中山さんと合流して、citibankの社内にご案内していただき、citibankの歴史についてのビデオを見せていただきました。米国経済史はあまり知らなかったのですが、よくわからないことも多かったのですが、米国の発展の背景にはcitibankの存在が大きくかかわっていたことを知りました。

citibankを訪問したのは、メトロポリタン美術館の開館時間が多少あったので、せっかくなので行ってみようということになり、メトロポリタン美術館に行きました。が、ついた時にはも

う閉館15分前ということで、あまり見て回ることはできませんでした。目的の特別館についてには、もう展示スペースに幕が下ろされていて、見れなかったのが少し残念です。メトロポリタン美術館の広さを痛感しました。

夕食は海鮮料理(特にエビ)をいただきました。その海鮮料理店の斜向かいにトイザラスがあったので、待ち時間にちょっと様子を見に行ってきました。トイザラスの店内に観覧車(日本の観覧車の基準からすると小さい&とても速い)があって、「店内に観覧車を作ってしまうなんてアメリカな発想だなあ」と勝手に感心していました。その後、これでもかというくらいエビをいただき、非常に満足な一日でした。

4日目は朝からNYSC(ニューヨーク証券取引所)に中山さんと一緒に行きました。その日は、ちょうど上場する企業が3社あったようで、そのうち2社が上場する瞬間に、フロアで立ち会うことができました。上場の瞬間、フロアはとても活気に満ち溢れていて、上場す

ると、初値を決めるためさらに場内は熱気に満ちていました。ちなみにそのうちの1社は食品デリバリーサービスの会社だったようで、PRも含めて、ドーナツをNYSC内で配っていました。もちろんおいしくいただきました。(笑) その後、NYSCの重役のお方とお話をすることができました。NYSCについての疑問や、最近の世界情勢などについて、ご意見をいただくことができました。

その後、citibankのNYにおける業務を行っている支部に移動して、そこの重役専用ダイニングでcitibankに勤めていらっしゃる日本人の方3人と昼食をいただきました。コース料理はめったに食べないので、不慣れな手つきで多少不安でしたが、何とかなった……ののではないかと思います。そのお三方とはどちらかといえば経済の話というよりは、NYで生活して感じたことなどをお話していただきました。

4日目の昼以降はそのcitibankのダイニングに代わる代わる社員の方がいらして、それぞれ



専門とする経済の分野についてのお話をしてくださいというスケジュールでした。お三方と食事をした後は、超先端現場でバリバリ活躍していらっしゃる3人の方と、中山さんも一緒に、経済について非常に専門性の高いお話をいただくことができました。また、citibankがどういう点で優れているか、アメリカの企業は日本のそれとどう違うのか、などについてもお話をいただきました。さらに、豊富な人生経験から、いろいろな生き方の指針になるようなお話も聞くことができました。非常に楽しいひと時でした。citibankをあとにするときはもう営業時間は過ぎていたのですが、その後も現場で株の取引を行っているいらっしゃる社員の方と最後にお会いすることができました。彼は日本株をアメリカの顧客向けに売っているそうで、営業時間外で人気のないオフィスに残ってまでなぜ日本株を売るのが尋ねてみると、「日本株はいい株だから」と自信ありげに答え

てくれました。その言葉に、「ああ、日本のことをこんなに思ってくれる人がいるのか」ととても感銘を受けました。きっと彼は将来素晴らしい行員になれるのではないかと勝手に思っています。

citibankから一度ホテルに戻り、その後ニューヨークメッツの試合を見に行きました。ちなみにcitibankの訪問が予定を大幅にオーバーしていた(それほど楽しいひと時でした)ので、ついたのは7回表のころでした。また、小雨も降っていて、非常に寒かったので、8回裏が終わった時点で帰ることにしました。が、その短い間にも、2本のホームランが出るなど、非常に見ごたえのある展開で、とても面白かったです。私は、野球を生で感染すること自体が初めてだったので、球場の雰囲気なども新鮮で、とてもいい経験になりました。

最終日は荷物をまとめて飛行機に乗り込むだけでした。偏西風の影響で行きより多少長

い14時間近いフライトでした。行きも帰りも退屈なのはあまり変わらず、ぼーっと過ごす時間が非常に長かったです。あまり眠れなかったので、成田に着いたころには正直へとへとで、その後空港で解散し、家路につくころにはもう満身創痍でした。翌日から学校だったので、非常に憂鬱な気分です。つい先ほどまでNYにいたことがまるで幻想だったかのように感じられました。

NY研修を通して、本当に貴重な経験をすることができ、一回りも二回りも成長できたように感じられます。この場を借りて、NY研修旅行に付き添いとして一緒に来てくださった鈴木さん、並びに水谷さん、現地でお世話になったcitibankの中山さんをはじめとする方々、また、エコノミクス甲子園に携わってくださったスタッフのみなさん、そしてエコノミクス甲子園と共に戦った全国の高校生に、感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

# NY研修旅行の様子と感想 Study tour



千葉県立千葉高等学校  
並木 亮

日本時間の朝八時半。成田空港で鈴木さんと池田と合流。飛行機に乗るのは初めてではなかったが、海外に行くのは初めて。十数時間のフライトも初めてだった。時差ボケに備えて、飛行機の中でぐっすり眠れるよう徹夜してきたが、肝心の機内では飛行機の騒音や緊張でほとんど眠れなかった。そしてそのままアメリカに入国することになった。

入国審査を難なく終え、車でマンハッタン島へ向かう。車窓を眺めていると始めは普通の住宅街だったが、ニューヨークの中心部へ近づくにつれて摩天楼の佇みが見えてくる。しかし東京とは全く違った空気が漂っている。地震の心配がないからだろうか、それとも文化の違いだろうか。

JFK空港から1時間程度かけて、InterContinental New York Times Square Hotelに到着した。チェックインを終え、リッチな部屋で荷物の整理をしていると、少し前からさらにリッチな部屋に滞在していた水谷さんがやってきて四人で航空券に付いてきたハンバーガーのクーポンを使おうということになる。

早速地下鉄を使ってミッドタウンへ。1時間列に並び、入った店はスペインのバーのような雰囲気だった。ハンバーガーのハンバーグはステーキのようだった。その後、超高層ビルで有名なロックフェラー・センターに向かう。最上階は展望台というより屋上で、空気が涼しかった。そしてタイムズスクエアやブロードウェイを通りつつ、ヤンキースショップに寄り道してホテルに戻り、すぐにベッドに倒れこんだ。

十数時間の睡眠の後、すっかり元気を取り戻し二日目である。最初に訪れたのはRussell

Investmentsという投資信託会社。説明は全て英語。17年間何をやってたのかいうくらい、何もわからなかった。"make sense?"と言われても呆然としているしかなく、殆ど何も理解も質問もできずに終わった。途方もない言葉の壁を感じ、悔しさが込み上げてきたが、何とかやるしかないという決意をする。

午前中でぐったりと疲れたところ、屋台でランチを買いウォール街のオアシスで少し休憩する。午後はまず在ニューヨーク日本領事館の方のお話を聞いた。アメリカ政府がメガバンクへの規制を強めようとしている話を聞いた。有意義な質問もできたと思う。一番印象に残っているのは、アメリカでは「失敗もキャリアの一つとして評価される」ということである。日本では失敗を恐れて萎縮してしまう風潮が蔓延しているため、積極性の面で失敗を必要不可欠な経験とみなすアメリカに大きく立ち遅れているのではないと思う。次にFRBミュー



ジウムを見学して、マンハッタン島南端のバッテリーパークまで散歩した。鈴木さん曰くバッテリーとは砲台という意味らしい。公園では最近の暖かさのおかげでリスが一斉に冬眠から醒めたらしく、子どもと一緒にしゃぎ回っていた。そして、タイガーマネジメントというヘッジファンドを立ち上げた武神さんと会った。キャリアや仕事観の話を聞いて、だからこそ武神さんはニューヨークの摩天楼に居ることができるのだなと感じた。

その後、武神さんに連れられ5人でステーキハウスに向かう。今回はインフォーマルな空気の中、人生観などの話を聞いた。さて、出てきたステーキやベーコンはモンスター級の大きさを一度食べたら、日本のステーキはステーキとは思えなくなるだろう。とはいえ、旅行中の食べ過ぎには何度も後悔させられていたので、腹八分目に抑えてステーキを満喫することができた。

2日目の興奮が残り、なかなか寝付けず3日目を迎えた。3日目はまずシティバンクの中山さんと会い、情報配信会社のブルームバーグを訪れた。ブルームバーグのオフィスはとても開放的(Transparent)であった。建物の機能性を重視する日本に比べ、この国では建物に象徴性を求めているのだろう。道中、骨董書店に立ち寄り、ハーバード大の物理の教科書と科学の方法論の本を購入した。もちろん全文英語で、いつか読み進められる日が来ればよいが。

3日目は比較的予定が空いていて、その後中山さんの勤めるmoma美術館に行くことができた。しかし、現代美術はあまりに抽象的で理解の範疇を超えていた。同じ年頃の美術学校の女生徒たちが何やらスケッチをしている横でゴッホやピカソの有名な画を見て、前にテレビで見たことがあるぞと頷くくらいだった。それでもまた機会があれば訪ねたいと思った。そして午後は千葉銀行のニューヨーク支

店を訪れた。高校の先輩があちこちで活躍されているようで、少し嬉しかった。また、目も眩むほどのお金の調達を電話でしている場面を見せていただき、興奮したと同時に少し不思議な気分になった。机から立ち上がりず一生暮らすのに困らないほどのお金を動かせるなんて。

その後、再び中山さんと合流しシティバンクにてシティバンクの歴史のビデオを見せていただいた。そのまま駆け足で閉館間際のメトロポリタン美術館に向かい、見られる限りの物を見て回った。中でもカトリックのステンドグラスの美しさは宗教の壁を超えるほど格別だった。おそらく、全部をしっかりと見て回るには数日はかかるだろう。

ホテルに戻り、晩御飯へ向かった先はシーフードレストラン。待ち時間にはトイザラスの建物に行って、ビルの中に10m近くの観覧車があつて目を見張った。料理はエビ、エビ、エビ。海産物もとても美味しかった。そしてすっかり



# NY研修旅行の様子と感想 Study tour



満腹で3日目を終えた。次の4日目のハードスケジュールに備えてぐっすりと眠った。

4日目は小雨。夜のメジャーリーグの心配はさておき、まずニューヨーク証券取引所(NYSE)を訪れた。その日上場するらしい企業の着ぐるみから、ドーナツを手渡される。小さな映画館のような一室で、NYSEのPRムービーを見て説明を受ける。すると、もうすぐ上場が始まるぞと言われメインフロアへ。もうお祭り騒ぎのフロアを一回りすると、たくさんの液晶と睨めっこをする職員やテレビのクルーなどで人が溢れている。英語の数字を叫ぶ声が空中を飛び交って、さあ、初値が着く。フロアは一転拍手に包まれた。

その後、会議室に移ってまたNYSEのお話を聞くことができた。NYSEでは95%の業務が電子的に行われ、人間の仕事は残りの5%だけらしい。人間とコンピュータの調和にはこのくらいのバランスが適切ということも言われ

た。つまり、コンピュータが仕事をこなしているため普段のメインフロアはもっと閑散としているということらしい。これからも様々な面でコンピュータが人間に取って代わることはあるだろう。しかし、先の上場のお祭り騒ぎのような人間味溢れる出来事は決して欠かせないものだと思うし、その点で人間にしか成し得ないミッションがあると思う。

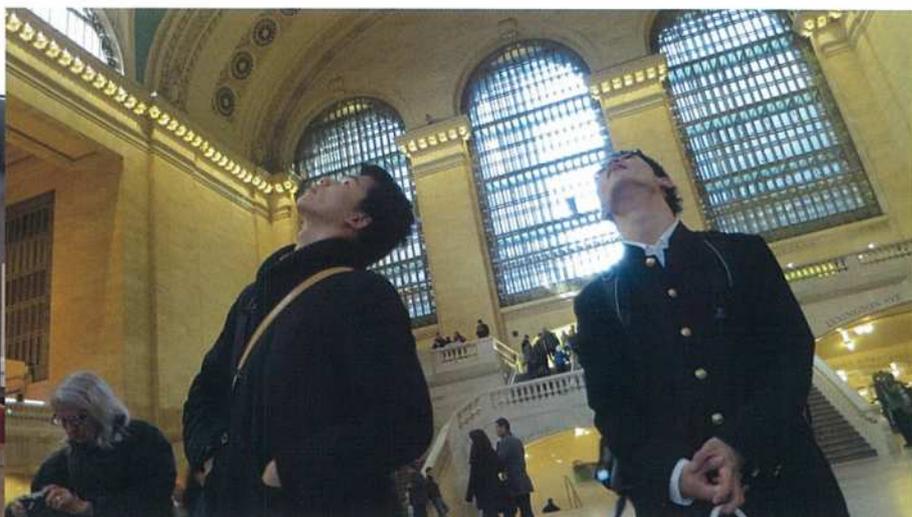
証券取引所から出ると、どんよりとした雲は相変わらずだったが、小雨は上がっていた。昼食はシティバンクの方々と一緒にすることになっていた。それまでの時間でまず、NYSEの隣のフェデラルホールを見学。アメリカの首都がニューヨークだった頃の議会の建物である。そしてシティバンクに向かう。

シティバンクでは重役専用食堂にて、日本人職員の方たちと昼食を頂いた。かなり緊張して、味はよく覚えていないが海外生活の暮らしぶりやエピソードを聞いたのは新鮮だった。そ

の後も女性や若手でバリバリ活躍している方の話を聞くことができた。ストレートな質問にも真摯に答えてくださり、とても充実していた。その後、もう既に業務時間は過ぎていたがトレーディングルームを見学させていただくことができた。

シティバンクの見学を終えて、気が付く19時前。メッツの試合は19時開始。雨も降ってきた。急いでホテルに戻り、着替え、地下鉄でスタジアムに向かう。試合中盤には間に合い、ホームランを二本も見ることができた。雨が本降りになってきたところで引き上げる。ホテルに戻ろうとするが夕食をとっていないことに気づき、2ドルで大きなピザを二ピース買い、2ドルで12オンスのペットボトルの水を買う。深夜にホテルで食べたピザの味は何よりも一番よく覚えている。そして朦朧とした意識のまま、ニューヨーク研修のほとんどを終えた。

翌日は日本へ飛行機で帰るのみ。朝寝坊を



したおかげで、ドタバタとお土産を買ったり荷支度をしたりきりきり舞いだった。制服を危うくホテルに忘れるところであった。そこからは無事に日本へ辿り着いた。親の迎えに来てくれた車に乗りながら夢心地でニューヨーク研修を振り返っていた。

訪問先でお会いした方々からは、大変多くのことを学ぶことができこの場を借りて感謝の意を示したい。付き添ってくださった水谷さんと鈴木さんには、短いながらもたくさん迷惑をかけてしまったけれども、様々な面で懇切にサポートしていただき、また、様々なアドバイスをいただき、大変ありがとうございました。

相棒の池田も特に英語面でサポートをしてくれてありがとう。

夢うつつの日本は雨上がりで、夕方の茜色の空と二本の虹が異国帰りの自分を歓迎してくれるようだった。



シティグループ



ブルームバーグ



千葉銀行ニューヨーク支店



タイガー・バシフィック・キャピタル



財務省ニューヨーク事務所



ラッセルインベストメント

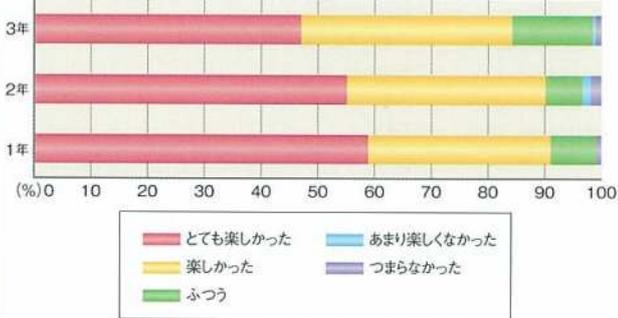




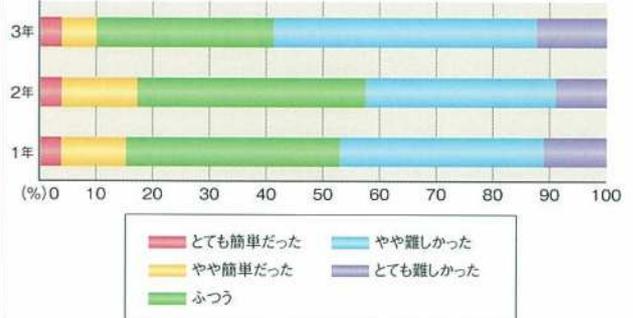
# 参加者アンケート

## Participant Questionnaire

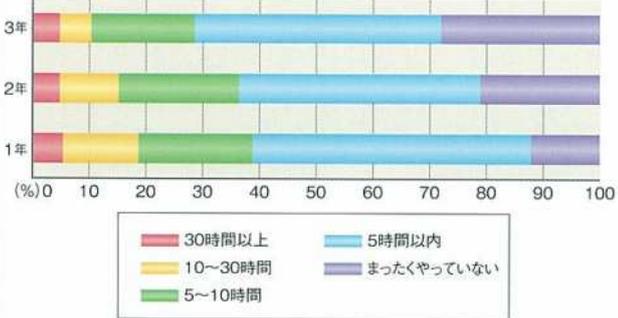
### Q1. 参加して楽しかったですか？



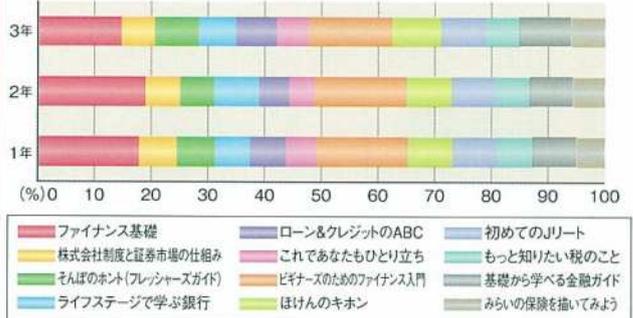
### Q2. 全体的に問題のレベルはどうでしたか？



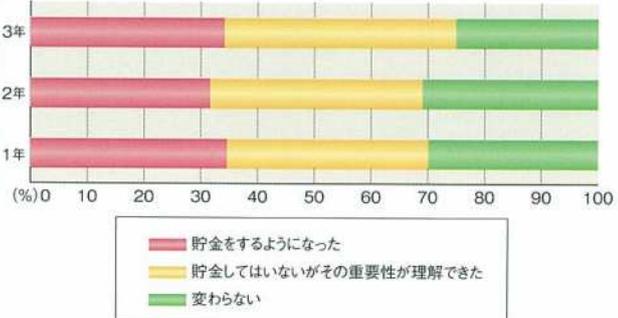
### Q3. 大会に備えどれくらい勉強、対策しましたか？



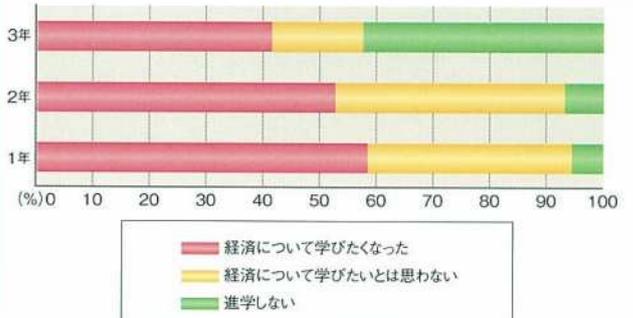
### Q4. どの教材を使って勉強・対策しましたか？



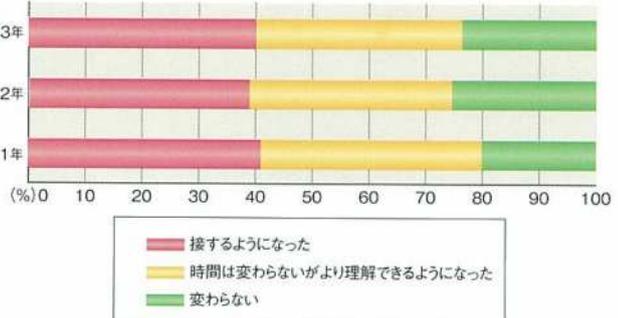
### Q5. 小遣の中から貯金するようになりましたか？



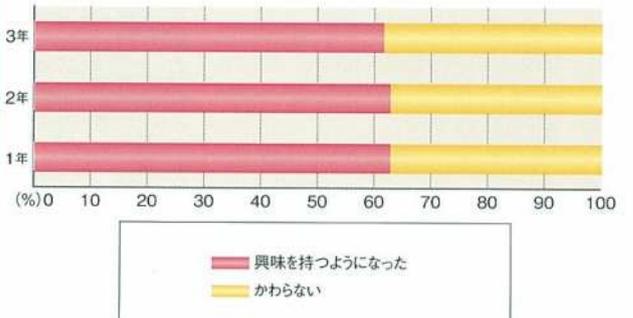
### Q6. 進学について考えは変わりましたか？



### Q7. ニュースや新聞に接するようになりましたか？



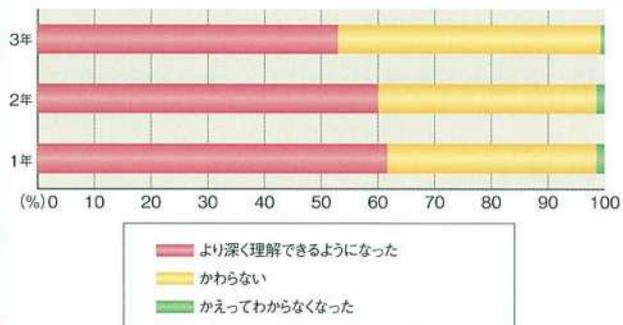
### Q8. 資産運用に興味をもつようになりましたか？



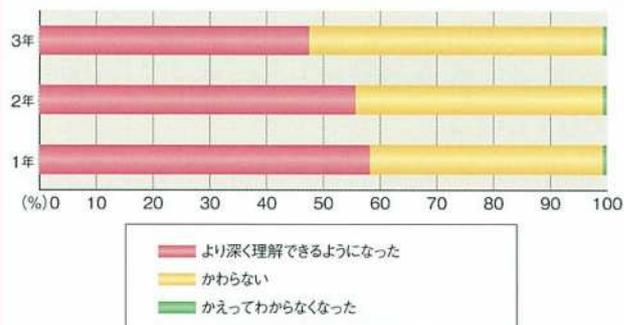


# 参加者アンケート Participant Questionnaire

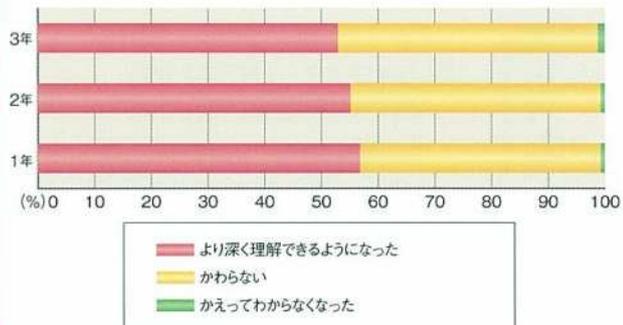
## Q9. 保険に対する理解度



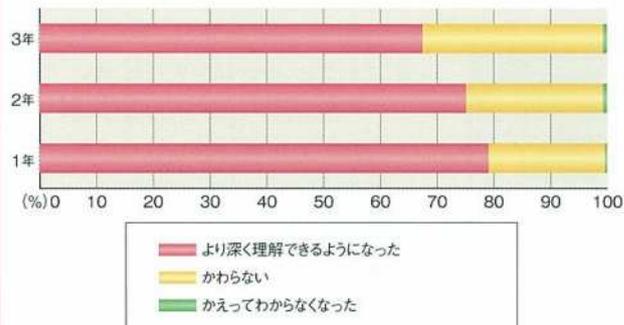
## Q10. ローンに対する理解度



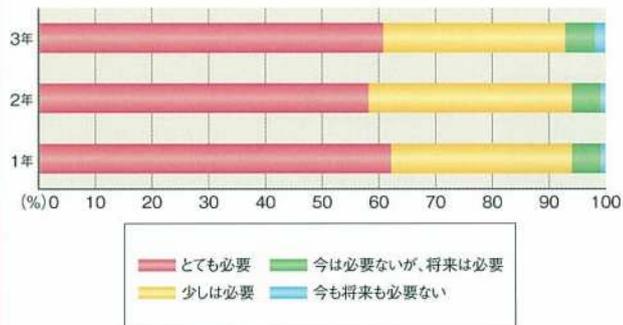
## Q11. 年金に対する理解度



## Q12. 金融に対する理解度



## Q13. 高校生が金融・経済を学ぶことについて?



エコノミクス甲子園では各企業・団体様から寄贈していただいたテキストを、事前学習教材として無料で参加生徒に送付しております。  
 事前学習教材の内容から何題かクイズが出題されるので、生徒たちも大会前にしっかりと勉強してくれています。  
 単純にテキストを配布するよりも高い学習効果を上げています。

 <p>■ 今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎        (作成:金融知力普及協会 寄贈:シティバンク銀行)        シティバンク銀行ホームページ  <a href="http://www.citibank.co.jp/">http://www.citibank.co.jp/</a></p>	 <p>■ ビギナーズのためのファイナンス入門        (作成:寄贈:金融広報中央委員会)        金融広報中央委員会ホームページ  <a href="http://www.shiruporuto.jp">http://www.shiruporuto.jp</a></p>
 <p>■ これであなたもひとり立ち        (作成:寄贈:金融広報中央委員会)        金融広報中央委員会ホームページ  <a href="http://www.shiruporuto.jp">http://www.shiruporuto.jp</a></p>	 <p>■ ライフステージで学ぶ銀行        (作成:寄贈:全国銀行協会)        全国銀行協会ホームページ  <a href="http://www.zenginkyo.or.jp">http://www.zenginkyo.or.jp</a></p>
 <p>■ ローン&amp;クレジットのABC        (作成:寄贈:全国銀行協会)        全国銀行協会ホームページ  <a href="http://www.zenginkyo.or.jp">http://www.zenginkyo.or.jp</a></p>	 <p>■ そんぼのホントフレッシュャーズガイド        (作成:寄贈:日本損害保険協会)        日本損害保険協会ホームページ  <a href="http://www.sonpo.or.jp">http://www.sonpo.or.jp</a></p>
 <p>■ 株式会社制度と証券市場のしくみ        (作成:寄贈:日本証券業協会)        日本証券業協会ホームページ  <a href="http://www.jsda.or.jp">http://www.jsda.or.jp</a></p>	 <p>■ ほけんのキホン        (作成:寄贈:生命保険文化センター)        生命保険文化センターホームページ  <a href="http://www.jili.or.jp">http://www.jili.or.jp</a></p>
 <p>■ 初めてのJリート        (作成:寄贈:不動産証券化協会)        不動産証券化協会ホームページ  <a href="http://www.ares.or.jp">http://www.ares.or.jp</a></p>	 <p>■ もっと知りたい税のこと        (作成:寄贈:財務省)        財務省ホームページ  <a href="http://www.mof.go.jp">http://www.mof.go.jp</a></p>
 <p>■ 基礎から学べる金融ガイド        (作成:寄贈:金融庁)        金融庁ホームページ  <a href="http://www.cao.go.jp">http://www.cao.go.jp</a></p>	 <p>■ みらいの保険を描いてみよう!        (作成:寄贈:日本少額短期保険協会)        日本少額短期保険協会ホームページ  <a href="http://www.shougakutanki.jp">http://www.shougakutanki.jp</a></p>



# メディア掲載実績

大会名	取材(TV)	取材(新聞)	取材(その他)
青森	(株)青森テレビ	(株)東奥日報 (株)デーリー東北	
宮城		河北新報	
秋田		秋田魅新報 北羽新報	
山形	TUY (テレビユー山形)	山形新聞社	
福島		福島民報社 福島民友新聞社	
茨城	いばらきTV つくばラジオ	茨城新聞	
栃木	とちぎテレビ	読売新聞 朝日新聞 東京新聞 下野新聞 日本金融通信社	
群馬	群馬テレビ	上毛新聞 朝日新聞 読売新聞	
千葉	千葉テレビ	読売新聞 日刊工業新聞	
神奈川	テレビ神奈川	神奈川新聞 東京新聞	
新潟	新潟テレビ21 新潟放送 新潟総合テレビ テレビ新潟	ニッキン新潟	
富山	北日本放送 チューリップテレビ 富山テレビ放送	北日本新聞社 富山新聞社 朝日新聞社 北陸日日新聞社	
石川	北陸放送	北國新聞他	
福井	福井テレビ 福井放送	福井新聞社 建設工業新聞	
山梨	UTY (テレビ山梨)	山梨日日新聞	
長野	NBS	信濃毎日新聞 長野市民新聞 長野日報	
岐阜	NHK 東海テレビ CBC メ〜テレ 中京	中日新聞 中部経済新聞	

大会名	取材(TV)	取材(新聞)	取材(その他)
岐阜		読売新聞 静岡新聞 中日新聞	ニッキン
愛知		中部経済新聞	
三重	三重テレビ 中京テレビ テレビ愛知 ZTV (ケーブルテレビ)	中日新聞	
奈良	奈良テレビ	奈良新聞 産経新聞	
鳥取		日本海新聞社	
島根	BSS 山陰放送		
岡山	山陽放送 瀬戸内海放送	山陽新聞社 朝日新聞社	瀬戸内海経済レポート
広島	テレビ新広島	中国新聞	広島エフエム
山口	YAB 山口朝日放送 TYS テレビ山口 KRY 山口放送	読売新聞 毎日新聞 山口新聞	
徳島	テレビ徳島	徳島新聞 毎日新聞	
香川	西日本放送		
愛媛	愛媛 CATV 南海放送	愛媛新聞	
高知	テレビ高知 高知放送 さんさんテレビ	高知新聞 読売新聞	
福岡		ニッキン	
長崎		長崎新聞	
宮崎	宮崎放送 テレビ宮崎 NHK	宮崎日日新聞 読売新聞 毎日新聞 朝日新聞 夕刊デイリー ニッキン	
鹿児島	NHK 鹿児島放送	南日本新聞社	
沖縄	沖縄テレビ 琉球朝日放送 沖縄ケーブルネットワーク	沖縄タイムス	



# Special Thanks

## Special Thanks

(順不同)

内閣府の皆様  
文部科学省の皆様  
金融庁の皆様  
財務省の皆様  
SBIホールディングス株式会社の皆様  
株式会社SBI証券の皆様  
SBIマネープラザ株式会社の皆様  
SBIインベストメント株式会社の皆様  
シティバンク銀行株式会社の皆様  
シティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社の皆様  
ポルトウウィン・ピットクルーホールディングス株式会社の皆様  
ピットクルー株式会社の皆様  
ラッセル・インベストメント・グループの皆様  
株式会社一休の皆様  
オリックス株式会社の皆様

株式会社大阪シティドームの皆様  
日本ファイナンシャルアカデミー株式会社の皆様  
日本証券業協会の皆様  
公益社団法人日本証券アナリスト協会の皆様  
金融広報中央委員会の皆様  
一般社団法人全国銀行協会の皆様  
一般社団法人日本損害保険協会の皆様  
公益財団法人生命保険文化センターの皆様  
一般社団法人不動産証券化協会の皆様  
一般社団法人日本少額短期保険協会の皆様  
株式会社アイ・イーシーの皆様  
SMBC日興証券株式会社の皆様  
株式会社経済法令研究会の皆様  
サンメッセ株式会社の皆様  
フォスター・フォーラムの皆様

ポルトウウィン・  
ピットクルーホールディングス株式会社  
代表取締役社長 小西 直人 様



株式会社一休  
取締役 大橋 広樹 様



ラッセル・インベストメント株式会社  
代表取締役副会長 加藤 正純 様



金融庁  
総務企画局政策課 課長補佐 大野 仁 様



シティグループ・ジャパン・  
ホールディングス株式会社  
コーポレート・アフェアーズ担当執行役員  
ガイ・マシューズ 様



シティグループ・ジャパン・  
ホールディングス株式会社  
取締役会長 田中 達郎 様



株式会社SBI証券  
経営企画部 次長 金子 登 様



株式会社SBI証券  
代表取締役社長 高村 正人 様



株式会社大阪シティドーム  
常務取締役 玉川 民平 様



(出演順)  
(肩書きは当時)

北海道銀行の皆様  
みちのく銀行の皆様  
七十七銀行の皆様  
秋田銀行の皆様  
山形銀行の皆様  
東邦銀行の皆様  
筑波銀行の皆様  
足利銀行の皆様

群馬銀行の皆様  
埼玉りそな銀行の皆様  
千葉興業銀行の皆様  
千葉銀行の皆様  
りそな銀行の皆様  
横浜銀行の皆様  
第四銀行の皆様  
北陸銀行の皆様

北國銀行の皆様  
山梨中央銀行の皆様  
八十二銀行の皆様  
十六銀行の皆様  
静岡銀行の皆様  
愛知銀行の皆様  
百五銀行の皆様  
近畿大阪銀行の皆様

南都銀行の皆様  
山陰合同銀行の皆様  
中国銀行の皆様  
もみじ銀行の皆様  
山口銀行の皆様  
阿波銀行の皆様  
百十四銀行の皆様  
伊予銀行の皆様

四国銀行の皆様  
西日本シティ銀行の皆様  
十八銀行の皆様  
宮崎銀行の皆様  
鹿児島銀行の皆様  
沖縄銀行の皆様  
住信SBIネット銀行の皆様

各地方大会、全国大会でのボランティアの皆様

### ボランティアスタッフ

木原 健太郎	西川 陽之	北島 拓哉	廣瀬 哲	井上 ちひろ	辻井 一輝	浜田 浩考	松山 宏彰	又吉 康紀
岡辺 公志	御手洗 伸	小林 真	藤田 明久	内田 葵	津山 隼	宝蔵 蓮也	宮川 輝	渡邊 幸輝
小林 大城	遠藤 優	白石 宏輔	又吉 康雅	甲斐 寛之	中原 大	堀場 美咲	山口 哲郎	
重綱 孝祐	尾崎 真史	中村 賢史	松元 雄大	篠原 美紗	沼 大地	松本 悠哉	帯包 彩加	

上智大学アイセックの皆様  
ユークレイル・エイト



エコノミクス甲子園は、高校生の金融経済リテラシーを高めるという理念にご賛同いただいた、  
各社様のご支援により成り立っています。  
感謝の思いを込め、ここにご協賛をいただいた各社をご紹介します。

全国大会カップスポンサー



SBIホールディングス株式会社  
<http://www.sbigroup.co.jp/>

ナショナルスポンサー



シティバンク銀行株式会社  
<http://www.citibank.co.jp/>



ピットクルー株式会社  
<http://www.pit-crew.co.jp/>



株式会社 一休  
<http://www.ikyuu.com/>



ラッセル・インベストメント株式会社  
<http://www.russell.com/jp/>



<http://www.apfl.or.jp>

全国大会カップスポンサー



ナショナルスポンサー

